

(様式第 10)

海大第 986 号
平成 29 年 10 月 17 日

厚生労働大臣

殿

北海道大学総長 名 和 豊 春 (印)

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
氏 名	国立大学法人北海道大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院

3 所在の場所

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目 電話(011) 716 - 1161
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	④	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
1 呼吸器内科	② 消化器内科	③ 循環器内科	4 腎臓内科
⑤ 神経内科	⑥ 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科	
診療実績			
呼吸器内科、感染症内科、腎臓内科、内分泌内科、リウマチ科及び代謝内科は内科、アレルギーは耳鼻咽喉科が当該医療の提供を行っている。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 心臓外科、血管外科及び心臓血管外科は循環器外科、内分泌外科は乳腺外科が当該医療の提供を行っている。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍内科 2 循環器外科 3 形成外科 4 リハビリテーション科 5 病理診断科 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
70床	0床	0床	0床	874床	944床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	301人	384人	569.8人	看 護 補 助 者	120人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	150人	124人	156.1人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	80人
薬 剤 師	64人	0人	64人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	10人	その他	0人
助 産 師	22人	0人	22人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	882人	30人	912人	臨 床 工 学 士	18人	医療社会事業従事者	22人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	10人
歯 科 衛 生 士	13人	0人	13人	歯 科 技 工 士	5人	事 務 職 員	303人
管理栄養士	7人	0人	7人	診 療 放 射 線 技 師	51人	その他の職員	151人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	63人	眼 科 専 門 医	17人
外 科 専 門 医	58人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	16人
精 神 科 専 門 医	21人	放 射 線 科 専 門 医	36人
小 児 科 専 門 医	40人	脳 神 経 外 科 専 門 医	24人
皮 膚 科 専 門 医	15人	整 形 外 科 専 門 医	35人
泌 尿 器 科 専 門 医	18人	麻 酔 科 専 門 医	25人
産 婦 人 科 専 門 医	22人	救 急 科 専 門 医	19人
		合 計	409人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験)

管理者名 (寶金 清博) 任命年月日 平成25年4月1日

「リスクマネジメント委員会委員」	
ME機器管理センター部長	平成22年4月1日～
医療安全管理部長 (副病院長)	平成22年9月1日～
病院長	平成25年4月1日～現在に至る

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	739.3人	15.8人	755.1人
1日当たり平均外来患者数	2315.2人	723.9人	3039.1人
1日当たり平均調剤数	1140.2剤		
必要医師数	209.0人		
必要歯科医師数	40.0人		
必要薬剤師数	26.0人		
必要(准)看護師数	481.0人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要		
集中治療室	920 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 222 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 13 m ² [共用室の場合] 共用する室各					
化学検査室	93 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	173 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ			
病理検査室	799 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 切り出し台			
病理解剖室	208 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台			
研究室	2,031 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット			
講義室	37 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	50人
図書室	178 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	4室	蔵書数	1,400冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	87.2%	逆紹介率	49.0%
算出根拠	A：紹介患者の数			15344 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9013 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			677 人
	D：初診の患者の数			18383 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大島 寿美子	北星学園大学		医師・患者関係に精通	有・ 無	2
加藤 紘之	斗南病院		医療安全に精通	有・ 無	1
土橋 和文	札幌医科大学		医療安全に精通	有・ 無	1
中村 隆	札幌総合法律事務所	○	法律に精通	有・ 無	1
生駒 一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有 ・無	3
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・ 無
委員の選定理由の公表の有無	有・ 無
公表の方法 本学ホームページ（平成29年度公表予定）	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経胎盤的抗不整脈薬投与療法	1人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
オクトレオチド皮下注射療法	1人
放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断	12人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	1人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法	6人
131I-MIBGを用いた内照射療法	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断	19人
陽子線治療（肝細胞がん）	0人
陽子線治療（肝内胆管がん）	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	9	56	ベーチェット病	238
2	筋萎縮性側索硬化症	17	57	特発性拡張型心筋症	85
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	59
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	51
6	パーキンソン病	224	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	99
9	神経有棘赤血球症	2	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	41
11	重症筋無力症	76	66	IgA腎症	30
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	126
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	108	68	黄色靱帯骨化症	13
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靱帯骨化症	109
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	3	71	特発性大腿骨頭壊死症	161
17	多系統萎縮症	33	72	下垂体性ADH分泌異常症	46
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	150	73	下垂体性TSH分泌亢進症	10
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	12
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	31
21	ミトコンドリア病	15	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
22	もやもや病	145	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	100
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	266
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	25
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	15	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	318
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	22
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	34
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	29
34	神経線維腫症	43	89	リンパ脈管筋腫症	21
35	天疱瘡	58	90	網膜色素変性症	38
36	表皮水疱症	10	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	13	92	特発性門脈圧亢進症	4
38	ステイヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	79
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	60	95	自己免疫性肝炎	19
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	113
42	結節性多発動脈炎	32	97	潰瘍性大腸炎	194
43	顕微鏡的多発血管炎	51	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	23	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	14	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	18	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	500	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	158	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	111	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	47	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	304	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	17	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	7	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	21
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	39	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	5	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	2
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウルジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1)	・退院支援加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟 13対1)	・認知症ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算
・医師事務作業補助体制加算1	・特定集中治療室管理料4
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・総合周産期特定集中治療室管理料
・看護職員夜間配置加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算	・小児入院医療管理料2
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・喘息治療管理料	・国際標準検査管理加算
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料1	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料2	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん患者指導管理料3	・ヘッドアップティルト試験
・外来緩和ケア管理料	・人工臓器検査、人工臓器療法
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・脳波検査判断料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・遠隔脳波診断
・外来放射線照射診療料	・脳磁図
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・がん治療連携計画策定料	・補聴器適合検査
・排尿自立指導料	・ロービジョン検査判断料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・小児食物アレルギー負荷検査
・薬剤管理指導料	・内服・点滴誘発試験
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料1	・有床義歯咀嚼機能検査
・医療機器安全管理料2	・画像診断管理加算1
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科画像診断管理加算1
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・歯科画像診断管理加算2
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ポジトロン断層撮影
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・遺伝学的検査	・CT撮影及びMRI撮影

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・冠動脈CT撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・外来化学療法加算1	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・運動器リハビリテーション料(I)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・網膜再建術
・がん患者リハビリテーション料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・精神科作業療法	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・認知療法・認知行動療法1	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・医療保護入院等診療料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・硬膜外自家血注入	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・透析液水質確保加算1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・透析液水質確保加算2	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・磁気による膀胱等刺激法	・補助人工心臓
・手術用顕微鏡加算	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・CAD/CAM冠	・同種心移植術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下肝切除術	・放射線治療専任加算
・生体部分肝移植術	・外来放射線治療加算
・同種死体肝移植術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・同種死体腎移植術	・粒子線治療
・生体腎移植術	・粒子線治療適応判定加算
・膀胱水圧拡張術	・粒子線治療医学管理加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・病理診断管理加算2
・人工尿道括約筋植込・置換術	・口腔病理診断管理加算2
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	・
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門 年間約300回 臨床検査部門 年間約370回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34例 / 剖検率 7.26%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
呼吸不全に関する調査研究(分担)	西村 正治	内科 I	150,000	補 委 厚生労働省
アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発(分担)	今野 哲	内科 I	10,400,000	補 委 日本医療研究開発機構
重症肺高血圧症に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究(分担)	辻野 一三	内科 I	9,880,000	補 委 日本医療研究開発機構
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究(分担)	辻野 一三	内科 I	300,000	補 委 厚生労働省
ALK融合遺伝子陽性のⅢ期非小細胞肺癌に対する集学的治療法の開発に関する研究(分担)	榊原 純	内科 I	2,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関する研究(分担)	榊原 純	内科 I	1,500,000	補 委 日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究【レンバチニブ(胸腺癌)】(分担)	榊原 純	内科 I	226,200	補 委 日本医療研究開発機構研究費
高齢者の小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究(分担)	朝比奈 肇	内科 I	600,000	補 委 日本医療研究開発機構
自己免疫性肺胞蛋白症に対する酵母由来組換えGM-CSF吸入の多施設共同医師主導治験(分担)	鈴木 雅	内科 I	3,700,000	補 委 日本医療研究開発機構
リンパ脈管筋腫症に対するラパマイシン長期内服の効果と安全性評価のためのコホート調査(分担)	鈴木 雅	内科 I	500,000	補 委 日本医療研究開発機構
アンメットメディカルニーズにおける抗がん薬のPK/PDに基づく最適化医療の実施(分担)	水柿 秀紀	内科 I	390,000	補 委 日本医療研究開発機構
閉塞性肺疾患の多様性の理解と個別化治療に向けた探索的研究	西村 正治	内科 I	15,080,000	補 委 日本学術振興会
肺血管標的型多機能性エンベロープナノ構造体を用いた難治性肺疾患治療の挑戦	西村 正治	内科 I	1,690,000	補 委 日本学術振興会
呼吸器疾患に伴う肺高血圧症の肺血管および右心系に関する臨床病理学的検討	辻野 一三	内科 I	650,000	補 委 日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた肺原発肉腫様癌におけるバイオマーカー解析	大泉 聡史	内科 I	1,300,000	補 委 日本学術振興会
CT所見、バイオマーカーから見た気管支喘息における上下気道の連関	今野 哲	内科 I	1,040,000	補 委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

気管支擦過肺癌細胞の培養による肺癌診断と治療法の探索	菊地 英毅	内科 I	1,690,000	補委	日本学術振興会
閉塞性肺疾患の重症化に関わるエクソソームmicroRNAの同定と臨床応用	鈴木 雅	内科 I	2,210,000	補委	日本学術振興会
呼吸器疾患における気腫・気道・血流の総合的評価法の確立	清水薫子	内科 I	2,340,000	補委	日本学術振興会
肺炎球菌の嫌気培養による病原性の変化の検討	長岡 健太郎	内科 I	1,560,000	補委	日本学術振興会
新規抗リン脂質抗体症候群モデルマウスの作成	渥美 達也	内科II	3,400,000	補委	日本学術振興会
免疫抑制剤の効果的な併用による難治性膠原病治療プロトコール作成のための研究	渥美 達也	内科II	16,900,000	補委	AMED
関節リウマチ滑膜に高発現するRasGRP4が滑膜増殖を促すメカニズムに関する研究	保田 晋助	内科II	1,560,000	補委	日本学術振興会
多発性嚢胞腎の高血圧に関わる嚢胞増悪因子の解析と治療法の解明	西尾 妙織	内科II	1,430,000	補委	日本学術振興会
NETsによる単球分化を介した自己免疫機序の解明	坊垣 暁之	内科II	1,820,000	補委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群の流産モデルマウスの作成	奥 健志	内科II	910,000	補委	日本学術振興会
2型糖尿病病態における膵β細胞量増加への治療戦略	中村 昭伸	内科II	780,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチにおけるオートファジーとシトルリ化抗原提示との関連	加藤 将	内科II	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝硬変の組織病態を修復する新規細胞薬物治療法の探索	坂本 直哉	消化器内科	7,410,000	補委	文部科学省
生体高分子シミュレーションによる抗ウイルス薬耐性化仮想アッセイシステムの構築	坂本 直哉	消化器内科	2,080,000	補委	文部科学省
食道癌三次元培養モデルを用いた癌幹細胞ニッチの解析	小松 嘉人	消化器内科	1,690,000	補委	文部科学省
卵膜由来間葉系幹細胞の分泌する低分子生理活性物質を用いた再生医療の開発	大西 俊介	消化器内科	1,820,000	補委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

クローン病に対する羊膜由来間葉系幹細胞のfirst-in-human臨床試験	大西 俊介	消化器内科	21,000,001	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
羊膜由来間葉系幹細胞の培養上清を用いた内視鏡的粘膜下層剥離術後消化管狭窄の予防	大西 俊介	消化器内科	2,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
HCVに対するカルニチンの抗ウイルス/抗脂肪化/抗酸化効果の基礎的・臨床的検討	小川 浩司	消化器内科	2,340,000	補 委	文部科学省
C型肝炎ウイルスの粒子形成・分泌機構の解明と関与する細胞性因子の解析	森川 賢一	消化器内科	1,430,000	補 委	文部科学省
C末端欠損HBx遺伝子インテグレーションによる肝発癌・悪性化機構の検討	須田 剛生	消化器内科	1,560,000	補 委	文部科学省
超音波内視鏡下経穿刺針的のう胞壁生検による嚢性の腫瘍の新たな診断法の確立	川久保 和道	消化器内科	1,950,000	補 委	文部科学省
HBV感染における自然免疫系センサー分子の探索	中井 正人	消化器内科	1,430,000	補 委	文部科学省
FGF受容体阻害剤を用いた食道扁平上皮癌幹細胞を標的とした新規治療法の開発	夏井坂 光輝	消化器内科	1,690,000	補 委	文部科学省
経皮的冠動脈形成術および冠動脈バイパス術の冠血流予備能に対する効果の検討	納谷 昌直	循環器内科	1,560,000	補 委	日本学術振興 会
ナノカプセルを用いた拡張型心筋症に対するミトコンドリアをターゲットとした新規治療法の開発	絹川 真太郎	循環器内科	16,000,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
骨格筋不全におけるmitoNEETによるミトコンドリア機能制御の分子機構の解明	絹川 真太郎	循環器内科	1,040,000	補 委	日本学術振興 会
心血管病における心臓周囲脂肪ミトコンドリアの役割	横田 卓	循環器内科	1,300,000	補 委	日本学術振興 会
心不全におけるヘリコバクター・ピロリ感染の役割の解明と除菌による新規治療の開発	筒井 裕之	循環器内科	1,300,000	補 委	日本学術振興 会
心筋リモデリングにおけるmitoNEETによるミトコンドリア機能制御機構の解明	筒井 裕之	循環器内科	5,460,000	補 委	日本学術振興 会
特発性心筋症に関する調査研究	筒井 裕之	循環器内科	18,797,000	補 委	厚生労働省
ナチュラルキラーT細胞活性化による慢性炎症制御に基づく新たな心筋症治療の実用化	筒井 裕之	循環器内科	94,899,999	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

拡張相肥大型心筋症を対象とした他施設登録観察研究	筒井 裕之	循環器内科	9,880,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳卒中・循環器病の遠隔医療の開発と検証のための研究	筒井 裕之	循環器内科	12,480,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Center of Innovation (COI) STREAM『食と健康の達人』拠点 セルフヘルスケアプラットフォームの構築	筒井 裕之	循環器内科	33,000,000	補委	日本学術振興会・文部科学省
心サルコイドーシスの診断における特異的アクネ菌抗体を用いた免疫組織染色の有用性	榊原 守	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
移植後シクロホスファミドを用いた血縁者間HLA半合致移植法の開発研究	豊嶋 崇徳	血液内科	6,890,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
造血幹細胞移植推進拠点病院事業	豊嶋 崇徳	血液内科	18,079,000	補委	厚生労働省
個別化医療に対応したゲノム編集技術による肝臓内HBVゲノムの完全不活化を目指した革新的治療法の包括的開発	武富 紹信	消化器外科学教室 I	10,000,000	補委	日本医療研究開発機構
炎症性腸疾患における神経ペプチドシグナルの制御機構解明と疾患治療への応用	武富 紹信	消化器外科学教室 I	6,240,000	補委	日本学術振興会
体外誘導免疫抑制性リンパ球を用いた細胞治療による免疫寛容誘導に関する研究	山下 健一郎	消化器外科学教室 I	6,110,000	補委	日本学術振興会
脂肪肝グラフトのミトコンドリア機能と抗酸化能を増強する画期的な肝体外灌流法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝癌細胞株における糖鎖異常と浸潤能との関連性の解析	神山 俊哉	消化器外科学教室 I	1,560,000	補委	日本学術振興会
消化器癌の微小転移同定システムの臨床応用	崎浜 秀康	消化器外科学教室 I	910,000	補委	日本学術振興会
IL-6による免疫抑制を介した大腸がん肝転移機構の解明と新規治療法開発	高橋 典彦	手術部	1,820,000	補委	日本学術振興会
ヒト血管移植片に対する抗ドナー抗体の病的意義と免疫抑制性細胞による治療効果の検討	後藤 了一	消化器外科 I	2,210,000	補委	日本学術振興会
肝芽腫の発生・進展過程におけるDNAメチル化異常の解明	本多 昌平	消化器外科 I	2,600,000	補委	日本学術振興会
肝芽腫局所進展に関わるドライバーエピゲノム変異の解明	砂原 正男	消化器外科学教室 I	1,430,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

肝臓グラフトへの移植前siRNA導入による 肝炎ウイルス再感染予防法の開発	武富 紹信	消化器外科学教室 I	1,950,000	補 委	日本学術振興 会
遺伝子導入を用いずに移植片のシャペロ ン発現を体外で調節する方法の開発	三野 和宏	消化器外科学教室 I	1,820,000	補 委	日本学術振興 会
シャペロン分子により生存シグナルを増強 させる画期的な肝グラフト修復法の開発	財津 雅昭	消化器外科学教室 I	1,500,000	補 委	日本学術振興 会
血漿タンパク質LRGの翻訳後修飾に着目 した膵癌早期診断マーカーの解析	柿坂 達彦	消化器外科学教室 I	910,000	補 委	日本学術振興 会
EMTに注目した胃癌における循環・骨髄 腫瘍細胞の臨床的意義の検討	柴崎 晋	消化器外科学教室 I	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
脂肪切除後の分子病態解明と抗酸化能増 強による易障害性、易転移性克服法の開 発	島田 慎吾	消化器外科 I	1,560,000	補 委	日本学術振興 会
EPHA4を標的とした膵癌バイオマーカー の探索と膵癌新規治療法の開発	平野 聡	消化器外科 II	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
内視鏡外科手術修練を支援するcadaver trainingカリキュラムの構築	七戸 俊明	消化器外科 II	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
固形癌術前化学療法による抗腫瘍免疫能 誘導と術後再発予防への個別化治療戦略	土川 貴裕	消化器外科 II	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
双方向インターネット通信を利用した遠隔 外科教育カリキュラム構築	倉島 庸	消化器外科 II	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
地域における重症外傷患者の救命率改善 を目指した新規DCSトレーニングコースの 開発	村上 壮一	消化器外科 II	910,000	補 委	日本学術振興 会
蛍光イメージングの応用による肝門部領域 癌センチネルリンパ節の同定方法の確立	野路 武寛	消化器外科 II	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
膵癌におけるバイオマーカーの探索およ び新規治療法の開発	浅野 賢道	消化器外科 II	2,340,000	補 委	日本学術振興 会
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周 術期 hANP 投与の 多施設共同ランダム 化第II相比較試験	樋田 泰浩	循環器・呼吸器外科	1,080,000	補 委	国立循環器病 センター
スフィンゴ糖脂質機能解析を基盤とした関 節疾患の病態解明と新規治療法の開発	岩崎 倫政	整形外科	6,240,000	補 委	日本学術振興 会
変形性関節症発症機序の解明に向けた 軟骨変性制御機構における糖鎖機能解析	岩崎 倫政	整形外科	1,950,000	補 委	日本学術振興 会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

被損傷靭帯に出現する幹細胞様細胞が移植腱再構築過程を促進する分子機序の統合的解明	近藤 英司	整形外科	5,980,000	補委	日本学術振興会
高純度硬化性ゲルによる椎間板組織自然再生誘導法の開発と組織再生メカニズム	須藤 英毅	整形外科	6,500,000	補委	日本学術振興会
人工膝・股関節置換術適用患者の荷重免荷型トレッドミルにおける三次元歩行計測	入江 徹	整形外科	650,000	補委	日本学術振興会
腫瘍血管内皮分泌タンパクを用いた腎がんの転移予測	篠原 信雄	泌尿器科	780,000	補委	日本学術振興会
インシデント報告、ニアミス報告を利用した高信頼性手術チームの醸成に関する研究	安部 崇重	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
尿路上皮癌微小転移に対するAKR1C1を標的とした治療法の開発	松本 隆児	泌尿器科	1,040,000	補委	日本学術振興会
3次元In vitro転移モデルの開発	大澤 崇宏	泌尿器科	1,430,000	補委	日本学術振興会
機能的リンパ組織移植法の開発!	山本 有平	形成外科	5,590,000	補委	日本学術振興会
郭清術後のリンパ組織再構築術～悪性黒色腫予後の改善を目指して!	古川 洋志	形成外科	4,420,000	補委	日本学術振興会
リンパ浮腫を薬で治す!～DDS技術を駆使したVEGF-C徐放治療の開発	小山 明彦	形成外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ケロイドの免疫細胞治療を目指して!～制御性T細胞は炎症&線維化を抑制する～	村尾 尚規	形成外科	4,680,000	補委	日本学術振興会
多系統萎縮症の自然歴とその修飾因子に関する研究	佐々木 秀直	神経内科	9,880,000	補委	日本医療研究開発機構
多系統萎縮症の発病素因及び分子マーカーに関する研究	佐々木 秀直	神経内科	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
家族性進行性核上性麻痺における遺伝子解析研究に基づいた進行性核上性麻痺の病態解析	矢部 一郎	神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
治験の実施に関する研究[サリドマイド]	矢部 一郎	神経内科	800,000	補委	日本医療研究開発機構
結膜EMZLにおけるRAS系の関与	安藤 亮	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

I κ Bキナーゼ阻害によるぶどう膜炎制御	石嶋 漢	眼科	1,040,000	補 委	日本学術振興 会
受容体結合プロレニン系を標的とした網脈 絡膜疾患治療戦略の確立	石田 晋	眼科	4,680,000	補 委	日本学術振興 会
糖尿病網膜症における血管内皮増殖因子 受容体の糖鎖変化	石田 晋	眼科	1,690,000	補 委	日本学術振興 会
アンジオポエチン2阻害によるぶどう膜炎 軽症化の検討	岩田 大樹	眼科	1,430,000	補 委	日本学術振興 会
糖尿病網膜症における α -クリスタリンのリン酸化機序	加瀬 諭	眼科	1,560,000	補 委	日本学術振興 会
糖尿病網膜症におけるアクロレインの病態 関与	齋藤 航	眼科	1,430,000	補 委	日本学術振興 会
人工多能性幹細胞由来のマクローファージ 様免疫抑制性細胞を用いたぶどう膜網膜 炎の制御	南場 研一	眼科	1,820,000	補 委	日本学術振興 会
糖尿病網膜症におけるポリアミン代謝経路 の病態関与	野田 航介	眼科	1,560,000	補 委	日本学術振興 会
受容体結合プロレニン系を標的としたボ ナック核酸医薬品の開発	石田 晋	眼科	12,420,000	補 委	国立研究開発 法人新エネル ギー・産業技術 総合開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化 学療法を併用した放射線治療による新規 治療法開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	21,183,000	補 委	日本医療研究 開発機構
上顎洞癌の治療最適化に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	5,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
アレルギー性鼻炎の根治を指向したSIRT1 活性化剤の基礎的研究	中丸 裕爾	耳鼻咽喉科	1,560,000	補 委	日本学術振興 会
好酸球性副鼻腔炎におけるNKT細胞の役 割と新しい治療戦略	高木 大	耳鼻咽喉科	1,300,000	補 委	日本学術振興 会
バイオインフォマティクスアプローチによる 頭頸部癌のシグナル伝達ネットワークの解 明	畠山 博充	耳鼻咽喉科	1,040,000	補 委	日本学術振興 会
ミトコンドリアDNAの解析による頭頸部癌の 癌化、予後因子の解明	水町 貴諭	耳鼻咽喉科	1,170,000	補 委	日本学術振興 会
頭頸部癌におけるcyclin D1標的sgRNAに よる新規遺伝子標的治療の開発	坂下 智博	耳鼻咽喉科	1,040,000	補 委	日本学術振興 会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

眼球運動-前庭系相互作用を利用した新しい平衡リハビリテーションの開発	藤原 圭志	耳鼻咽喉科	1,950,000	補委	日本学術振興会
ゲノム、プロテオーム解析による後天性真珠腫シグナル伝達ネットワークの解明	福田 篤	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	日本学術振興会
復帰変異モザイク(Revertant mosaicism)を応用した先天性難治性皮膚疾患に対する自家培養表皮シート療法	清水 宏	皮膚科	25,914,000	補委	独立行政法人医薬基盤研究所
クラススイッチ導入モノクローナル抗体を用いた水疱性類天疱瘡の病態機序の解明	西江 渉	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
免疫寛容が破綻し発症する画期的水疱性類天疱瘡モデルの作成と応用	西江 渉	皮膚科	6,500,000	補委	日本学術振興会
17型コラーゲン発現制御による画期的水疱症モデルの作成と応用(国際共同研究強化)	西江 渉	皮膚科	14,300,000	補委	日本学術振興会
復帰変異モザイクを応用したiPS細胞による表皮水疱症の治療	藤田 靖幸	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興会
水疱性類天疱瘡における制御性T細胞の解析および細胞療法への応用	氏家 英之	皮膚科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ノンコーディングRNAによる角化調節メカニズムの解明	乃村 俊史	皮膚科	1,560,000	補委	日本学術振興会
自己抗原の枯渇を標的とした水疱性類天疱瘡の新規治療法開発	夏賀 健	皮膚科	1,950,000	補委	日本学術振興会
乳房外パジェット病の悪性度に対するMUC5AC発現の関与の包括的検討	秦 洋郎	皮膚科	1,040,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性水疱症発症におけるTh17細胞の働きの解明	岩田 浩明	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
水疱形成による癬痕型脱毛症の新規モデル作成と病態解明	中村 秀樹	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
表皮細胞の癌化におけるミトコンドリア融合・分裂分子の機能解析	柳 輝希	皮膚科	2,080,000	補委	日本学術振興会
CRISPR技術を用いたモザイク病変を有する遺伝性皮膚疾患モデルマウスの作製	新熊 悟	皮膚科	2,080,000	補委	日本学術振興会
日本食におけるストレス・脳機能改善効果の解明	久住 一郎	精神科神経科	8,200,000	補委	農業・食品産業技術総合研究機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

児童思春期の学校における自殺関連要因の前方視的研究	齊藤 卓弥	精神科神経科	1,560,000	補委	文部科学省
視床下部一下垂体一副腎皮質系の活動性による層別化からのうつ病バイオマーカー探索	中川 伸	精神科神経科	1,690,000	補委	文部科学省
青年期の抑うつ症状に関わる要因の縦断的研究	朝倉 聡	精神科神経科	1,040,000	補委	文部科学省
読字障害における中間表現型:認知・知覚機能のサブグループ化と介入支援法帆の開発	柳生 一自	精神科神経科	2,470,000	補委	文部科学省
双極性障害に対する認知リハビリテーションと集団認知行動療法の有効性に関する研究	賀古 勇輝	精神科神経科	1,690,000	補委	文部科学省
統合失調症・自閉症スペクトラム障害における安静神経活動の感覚・認知処理への影響	豊巻 敦人	精神科神経科	1,820,000	補委	文部科学省
血液検査が可能な精神疾患のバイオマーカーとしての脳型脂肪酸結合タンパク質の検討	古賀 農人	精神科神経科	1,170,000	補委	文部科学省
マイクログリアからみた統合失調症の覚せい剤動物モデルにおける病態解明と治療法研究	伊藤 侯輝	精神科神経科	1,430,000	補委	文部科学省
革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品実用化促進事業	寶金 清博	脳神経外科	30,000,000	補委	厚生労働省
もやもや病(ウイリス動脈輪閉塞症)の診断・治療に関する研究	寶金 清博	脳神経外科	8,750,000	補委	厚生労働省
もやもや病診療の質を高めるためのエビデンス構築を目指した包括的研究	寶金 清博	脳神経外科	9,880,000	補委	日本医療研究開発機構
新たな培養・移植・イメージング技術を駆使した自己骨髄間質細胞移植による脳梗塞再生治療	寶金 清博	脳神経外科	31,875,000	補委	日本医療研究開発機構
もやもや病患者由来iPS細胞を用いた血管平滑筋細胞の分化誘導と機能解析	寶金 清博	脳神経外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞を用いた、もやもや病における脳出血発症メカニズムの解析	数又 研	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
骨髄間質細胞移植による癒着性くも膜炎及び難治性神経障害性疼痛に対する治療法の確立	関 俊隆	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
ラット脊髄損傷モデルにおける脊髄刺激療法の有効性評価	笹森 徹	脳神経外科	910,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

易破裂大型脳動脈瘤の新規動物モデルとヒト臨床標本による破裂防止薬剤治療法の開拓	中山 若樹	脳神経外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
重症くも膜下出血の予後は炎症反応制御で改善するか？	穂刈 正昭	脳神経外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
神経膠腫におけるマイクロRNA解析を用いたメチオニン取り込み機序の探索	山口 秀	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳虚血再灌流障害に対するスフィンゴリン脂質の保護効果	川堀 真人	脳神経外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
イオマゼニルSPECTとMRI拡散尖度画像を用いた高次脳機能障害の脳機能解析	生駒 一憲	リハビリテーション科	1,300,000	補委	日本学術振興会
術後下肢キネマティクスが再建前十字靭帯の機能に与える影響に関する運動解析学的研究	遠山 晴一	リハビリテーション科 (保健科学研究所)	1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢ラットにおけるストレッチによる筋力増強効果の分子生物学的検討	池田 聡	リハビリテーション部	1,430,000	補委	日本学術振興会
神経疾患患者における中枢・末梢神経複合刺激による代償経路活性化と歩行機能の再建	小金丸 聡子	リハビリテーション部	98,381	補委	日本学術振興会
前頭前野プライミング刺激による意欲の改善と運動訓練の効率化	小金丸 聡子	リハビリテーション部	1,240,892	補委	日本学術振興会
肺胞蛋白症、遺伝性間質性肺疾患に関する研究:重要難治化要因とその克服	長 和俊	周産母子センター	615,385	補委	厚生労働省
周産期搬送に関する研究	長 和俊	周産母子センター	500,000	補委	厚生労働省
子宮平滑筋肉腫の高悪性度を規定する遺伝子異常の解析	渡利 英道	婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
子宮体癌の微小環境を増悪させるマイクロRNA-EZH2フィードバックループの解明	金野 陽輔	婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
iASPP遺伝子発現の調節機構と子宮頸癌細胞における機能的役割	董 倍新	医学研究院	1,430,000	補委	日本学術振興会
A randomized-control trial assessing the impact of HPV self-sampling on cervical screening uptake rates in women 20-29yrs: A comparative evaluation of two	シャロン ハンリー	医学研究院	5,850,000	補委	日本学術振興会
Attitudes Towards and Acceptance of HPV Vaccine in Japanese Mothers of Adolescents living in the UK and Australia	シャロン ハンリー	医学研究院	1,170,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

言語発達障害児訓練支援に向けた脳磁図による言語発達評価	白石 秀明	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
稀少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	白石 秀明	小児科	200,000	補委	厚生労働省
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	90,200,000	補委	日本医療研究開発機構研究費
治験の実施に関する研究[5ALA・SFC](分担)	白石 秀明	小児科	700,000	補委	日本医療研究開発機構研究費
アンジェルマン症候群における認知記憶機能障害のメカニズムと治療法の探索	江川 潔	小児科	2,210,000	補委	日本学術振興会
非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	江川 潔	小児科	1,200,000	補委	日本学術振興会
O-17水分子・酸素分子MRIによる定量的脳血流・酸素代謝イメージングの開発	工藤 與亮	放射線部	5,330,000	補委	文部科学省
非放射性水分子プローブを用いた次世代脳血流MRI検査法の確立	工藤 與亮	放射線部	99,145,000	補委	AMED
QSMとVBMのハイブリッド撮像・解析による認知症の早期診断MRI	工藤 與亮	放射線部	12,934,294	補委	AMED
320列MDCTによる包括的冠動脈形態および機能的狭窄度評価法の確立	真鍋 徳子	放射線診断科	1,560,000	補委	文部科学省
デジタルファントムによる超音波画像診断トレーニングシステム構築のための基礎的検討	作原 祐介	放射線診断科	1,170,000	補委	文部科学省
乳癌のコンパニオン診断に向けた3T-MRIのマルチパラメトリック解析モデルの開発	加藤 扶美	放射線部	650,000	補委	文部科学省
MRIを用いた頭頸部腫瘍の治療感受性マップおよび高精度予後予測診断法の開発	藤間 憲幸	放射線診断科	650,000	補委	文部科学省
CBCT画像を用いた線量評価に基づく治療効果誘導放射線治療技術の開発	高尾 聖心	放射線治療科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ヘリウム・陽子線ハイブリット治療の研究開発	白土 博樹	放射線医学分野	4,290,000	補委	日本学術振興会
4D-CBCTと治療計画CTの容積マッチング法による4D-IGRTの試み	清水 伸一	放射線治療医学分野	4,420,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

金ナノコロイド製剤を用いた難治性癌分子追跡陽子線治療の開発	橋本 孝之	放射線医学分野	1,560,000	補委	日本学術振興会
Radiomicsを用いた肝癌に対する個別化陽子線治療法の確立	加藤 徳雄	放射線治療科	1,430,000	補委	日本学術振興会
イン・シリコ・ソロゲートエンドポイントによる術後陽子線治療の晩期有害事象の評価	木下 留美子	放射線治療科	1,040,000	補委	日本学術振興会
低酸素細胞を有する原発性肺癌に対する動物追跡放射線治療の研究	井上 哲也	放射線治療科	2,080,000	補委	日本学術振興会
低酸素癌を標的とした陽子線治療に関する研究	安田 耕一	放射線治療科	2,470,000	補委	日本学術振興会
待ち伏せ照射の高精度化を目的とした体内呼吸運動に基づく呼吸位相モニタの開発	宮本 直樹	放射線治療科	1,430,000	補委	日本学術振興会
PETによる心血管疾患の活動性の映像化と治療戦略への応用	玉木 長良	核医学分野	5,460,000	補委	日本学術振興会
炭素11標識メチオンPETによる脳腫瘍診断	玉木 長良	核医学分野	54,000,000	補委	日本医療研究開発機構
PET薬剤合成装置の薬事承認取得に向けた神経腫瘍患者における術前炭素11標識メチオンPETの有用性に関する研究	志賀 哲	核医学分野	61,000,000	補委	日本医療研究開発機構
がんの個別化治療戦略を実現する革新的PET診断技術の開発:[18F]DiFAによる低酸素イメージング	志賀 哲	核医学分野	40,936,000	補委	日本医療研究開発機構
TPを標的とした腫瘍診断薬[123I]IIMU注射薬の開発	玉木 長良 佐藤 典広	核医学分野	5,399,940	補委	日本医療研究開発機構
悪性神経内分泌腫瘍に対する131I-MIBG内照射療法の開発	志賀 哲 絹谷 清剛	核医学分野	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
新規放射性薬剤IIMUによる頭頸部癌化学療法の治療効果予測法の確立	平田 健司	核医学分野	1,950,000	補委	日本学術振興会
新しい唾液pH判定キットの開発	兼平 孝	予防歯科	1,430,000	補委	日本学術振興会
TCP複合化レジンとナノHAPコラーゲンのハイブリッドによる垂直歯根破折の治療法	菅谷 勉	歯周・歯内療法科	1,820,000	補委	日本学術振興会
新規開発自律神経活動モニターシステムを用いた安全・安心な高齢者歯科治療の確立	下地 伸司	歯周・歯内療法科	780,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

多孔質体を形成するエマルジョン骨ペーストの歯周病治療への応用	加藤 昭人	歯周・歯内療法科	1,170,000	補委	日本学術振興会
バイオミネラリゼーション法による歯周組織再生用ナノ材料の創製と応用	宮治 裕史	歯周・歯内療法科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高齢者歯科治療時のリスク改善に効果的な精神鎮静法の応用方法の確立	竹生 寛恵	歯周・歯内療法科	1,430,000	補委	日本学術振興会
複数のスキャホールドを用いた新規空間的ドラッグデリバリーシステムの開発	齋藤 恵美子	歯周・歯内療法科	2,080,000	補委	日本学術振興会
Ag/ナノカーボンを用いた抗菌性スキャフォールドの開発と歯周組織再生効果	西田 絵利香	歯周・歯内療法学教室	1,430,000	補委	日本学術振興会
もみ殻由来ナノバイオシリカを用いた歯周病治療法の開発	西田 絵利香	歯周・歯内療法学教室	400,000	補委	ノーステック財団
在宅歯科医療における口腔感染症や誤嚥性肺炎の予防機能を有した抗菌性粘膜調整材の開発・事業化	横山 敦郎	義歯補綴科	2,603,000	補委	医工連携事業
歯肉縁下支台歯形態の光学印象法への挑戦-近赤外光拡散シミュレーションの応用	上田 康夫	北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室	1,300,000	補委	日本学術振興会
睡眠時咀嚼筋活動の発現パターン解析による睡眠時無呼吸症候群スクリーニングへの挑戦	白井 未来(齋藤)	北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学講座冠橋義歯補綴学教室	2,990,000	補委	日本学術振興会
咬合異常感と口腔内装置許容能力の関連性の検討 脳磁図による定量的評価	佐藤 華織	冠橋義歯補綴科	1,430,000	補委	日本学術振興会
早期血管増殖を誘導するハニカム構造を用いた新規骨再生療法の開発	弓削 文彦	冠橋義歯補綴科	1,170,000	補委	日本学術振興会
自己防御システム誘導型の新規材料の開発	佐野 英彦	歯学研究院	3,510,000	補委	日本学術振興会
バイオガラスによる脱灰象牙質の再石灰化を目指す試み	星加 修平	歯学研究院	520,000	補委	日本学術振興会
バイオアクティブガラスのう蝕抑制能を各種イオンと中和作用の両面から解明する	角田 晋一	歯学研究院	780,000	補委	日本学術振興会
ナノテクノロジーの保存修復学への応用	松本 真理子	歯冠修復科	1,820,000	補委	日本学術振興会
新素材を矯正歯科臨床に応用するための研究-アクチュエーター(人工筋肉)の応用-	山本 隆昭	矯正歯科	1,170,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

乳歯歯髄由来幹細胞による未分化維持機構の同定	福島 久夢	矯正歯科	2,340,000	補委	日本学術振興会
薬剤徐放作用をもつ新規歯科矯正用接着材の開発	中西 康	矯正歯科	1,300,000	補委	日本学術振興会
骨格性下顎前突症の原因遺伝子の追求	生野 啓一郎	矯正歯科	2,340,000	補委	日本学術振興会
エナメル質を保全できる矯正歯科治療-大気圧低温プラズマと蛍光物質の応用-	山方 秀一	歯科矯正学教室	910,000	補委	日本学術振興会
矯正学的持続的機械ストレス環境におけるボドブランin依存性骨再生機能に関する研究	金井 壮律	歯科矯正学教室	1,690,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性を反映した革新的分子イメージングに基づく新しい口腔癌治療戦略	北川 善政	口腔内科	7,670,000	補委	日本学術振興会
ビスホスホネート関連顎骨壊死に対する高気圧酸素療法のPETと骨シンチによる評価	北川 善政	口腔内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
交感神経活動の変化が慢性咀嚼筋障害の治療効果や筋病理・筋活動に及ぼす影響	佐藤 淳	口腔内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
BRONJに対する多血小板フィブリンによる新たな治療戦略の確立	浅香 卓也	口腔内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
口腔癌における腫瘍血管内皮細胞の多様性解明と新規分子標的薬への応用	大賀 則孝	口腔内科	910,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌におけるDNp53の予後マーカーとしての応用	吉川 和人	口腔内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
低酸素誘導因子を標的とした分子イメージング支援新規口腔癌治療戦略の確立にむけて	宮腰 昌明	口腔内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
Sam68を標的とした口腔がんの新たな診断・治療方法開発に向けた基礎的研究	黒嶋 雄志	口腔内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
幹細胞のニッチに注目した顎骨再建法の開発	鄭 漢忠	口腔外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
関節窩内での関節頭位置描出への挑戦—精度の高い外科的矯正治療を目指して—	松下 和裕	口腔外科	2,730,000	補委	日本学術振興会
細胞外小胞miRNAによる腫瘍血管の異常性獲得メカニズム解明と診断・治療への応用	鳥居 ちさほ	口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

低侵襲化をめざした口唇口蓋裂治療体系の開発と多施設比較による有効性の検証	三古谷 忠	口腔外科	910,000	補委	日本学術振興会
腫瘍血管由来miRNAの同定とがん診断・治療への応用	佐藤 和代(栗林和代)	口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
導電性ナノマテリアルを応用した生体再建材料の開発	松岡 真琴	口腔外科	390,000	補委	日本学術振興会
HuRをターゲットとした分子標的薬の開発～がんの制御を目指して～	格口 渉	口腔外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
顎口腔領域疾患において喪失された骨の再生メカニズムの解明	山田 珠希	口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
がんの進展に伴う腫瘍血管内皮マーカーの発現ダイナミクスの解明	松田 光平	口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
口腔内扁平上皮癌に対するMR顕微鏡の開発	箕輪 和行	歯学研究科 (歯科放射線)	978,589	補委	日本学術振興会
「脳の透明化」による神経障害性疼痛発症メカニズムの解明	詫間 滋	歯科麻酔学教室	650,000	補委	日本学術振興会
生体モデル膜および培養細胞における全身麻酔薬の作用部位に関する研究	渋谷 真希子	歯科麻酔学教室	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳内ATPaseに対する全身麻酔薬の作用に関する研究	長谷 由理	歯科麻酔科	1,040,000	補委	日本学術振興会
活性酸素種の制御による腫瘍血管新生阻害の検討	北條 敬之	歯科麻酔科	1,430,000	補委	日本学術振興会
唾液を用いたフローサイトメトリー解析による難治性口腔疾患の病因解明への挑戦	山崎 裕	高齢者歯科	1,690,000	補委	日本学術振興会
機能獲得型変異TP53による口腔癌の悪性化進展の機序解析	中澤 誠多朗	高齢者歯科	1,560,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いた広範囲内視鏡的直腸粘膜下層剥離術後狭窄の予防法の開発	桂田 武彦	光学医療診療部	1,300,000	補委	文部科学省
抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療	桂田 武彦	光学医療診療部	55,800,000	補委	日本医療研究開発機構研究費
がん特異的蛍光プローブの散布による新規の頭頸部がん検出法の開発	小野 尚子	光学医療診療部	1,300,000	補委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

生体内でレジン上に歯周組織形成を実現！～接着治療法の予知性向上を目指して～	田中 佐織	口腔総合治療部	1,560,000	補委	日本学術振興会
抗MRSA薬ダプトマイシンによる骨格筋毒性回避のための基盤研究(科研費基盤C:平成28年度～30年度:課題番号16K08901)	山田 武宏	薬剤部	2,210,000	補委	日本学術振興会
PD-ECGFを標的とした腫瘍イメージング:I-123標識体の製造システムの開発(科研費基盤C:平成26年度～28年度:研究課題/領域番号 26461782)	西嶋 剣一	薬剤部	1,170,000	補委	日本学術振興会
非ステロイド性抗炎症薬によるシスプラチン誘発性腎障害の悪化機序明(平成28年度科研費奨励研究:課題番号16H00487)	齋藤 佳敬	薬剤部	570,000	補委	日本学術振興会
クロザピン誘発性流涎症の発現機序およびリスク因子解明を目的とした研究(平成28年度科研費奨励研究:課題番号16H00509)	石川 修平	薬剤部	570,000	補委	日本学術振興会
薬剤感受性試験結果に基づく適切な抗MRSA薬選択による菌血症治療成績向上への試み(平成28年度科研費奨励研究:課題番号16H00572)	鏡 圭介	薬剤部	330,000	補委	日本学術振興会
多施設間でのAUDとDOTによる抗菌薬使用量調査(平成28年度科研費奨励研究:課題番号16H00577)	富山 直樹	薬剤部	540,000	補委	日本学術振興会
分子標的薬ダサチニブの適正使用推進を目指した血中濃度測定と遺伝子多型解析系の確立(平成28年度科研費奨励研究:課題番号16H00503)	田澤 佑基	薬剤部	560,000	補委	日本学術振興会
オール北海道先進医学・医療拠点形成	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	232,640,230	補委	日本医療研究開発機構
Cell-based high through-put screeningのための腫瘍血管内皮細胞株の樹立	樋田 泰浩	循環器・呼吸器外科	5,000,000	補委	日本医療研究開発機構
新規フィロウイルス感染阻害剤の探索	高田 礼人	人獣共通感染症リサーチセンター	5,000,000	補委	日本医療研究開発機構
(プロ)レニン受容体をターゲットとした一本鎖siRNAによる眼炎症性疾患治療薬	神田 敦宏	医学研究院	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
脳腫瘍の新規遺伝子診断法の開発	西原 広史	がん遺伝子診断部	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
培養条件検討による歯根膜幹細胞特異的マーカーの同定と、そのマーカーを指標にした新規歯根膜幹細胞抽出法の開発	武田 宏司	消化器内科(薬学研究院)	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
全ゲノムシーケンスを用いた、抗がん剤/放射線による腫瘍細胞株のゲノム損傷部位の同定	小野澤 真弘	血液内科	2,500,000	補委	日本医療研究開発機構
補体因子Properdinのin vivo可視化による不安定ブラック検出法の開発	久下 裕司	医学研究院	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

脳内新規ペプチドを用いたアルツハイマー病治療薬の開発	鈴木 利治	薬学研究院	41,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
椎間板再生治療における組織修復材の開発	須藤 英毅	整形外科	37,822,000	補 委	日本医療研究 開発機構
羊膜由来間葉系幹細胞の再生医療製品化と急性GVHDに対する治療応用	大西 俊介	消化器内科	43,190,600	補 委	日本医療研究 開発機構
能動的スキャンニング陽子線治療の臨床でのPOCの取得と陽子線治療の保険収載	白土 博樹	放射線医学分野	65,620,000	補 委	日本医療研究 開発機構
臨床研究品質確保体制整備事業／信頼される臨床研究－北海道から世界へ－	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	102,223,644	補 委	日本医療研究 開発機構
[18F]DiFAによる革新的がん診断PET低酸素イメージングシステム(分担)	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	984,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
微粒子腫瘍マーカーリアルタイム3次元透視を融合した次世代高精度粒子線治療技術の開発	白土 博樹	放射線医学分野	98,876,299	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
進行膵臓がんを対象とした複合型CTLワクチン療法第2相試験(分担)	杉田 修	臨床研究開発センター	1,183,627	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
治験の実施に関する研究[ブレンツキシマブベドチン](分担)	井口 晶裕	小児科	400,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究(分担)	土屋 和彦	放射線治療科	500,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
超軟質精密心臓レプリカの作成による心臓外科手術トレーニングと個別化医療の確立に向けた研究(分担)	武田 充人	小児科	400,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
内転型痙攣性発声障害に対するチタンブリッジを用いた甲状軟骨形成術2型の効果に関する研究(分担)	畠山 博充	耳鼻咽喉科	1,430,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
特発性大腿骨頭壊死症の治療法の確立と革新的予防法開発にむけた全国学際研究(分担)	高橋 大介	整形外科	1,500,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
難治性神経芽腫に対するIL2、CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発(分担)	井口 晶裕	小児科	2,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
単心室循環症候群の治療管理の質を高めるための研究(分担)	武田 充人	小児科	520,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
小児期発症遺伝性間質性肺疾患(HILD)の病態解明(分担)	長 和俊	周産母子センター	800,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

B型肝炎に対するHBs抗原陰性化を目指した診療指針の開発(分担)	荏 拓也	消化器内科	800,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究(分担)	清水 力	検査・輸血部	400,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
ゲノム網羅的解析によるB型肝炎ウイルス感染の病態関連遺伝子の同定と新規診断法の開発(分担)	小川 浩司	消化器内科	1,300,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
眼部腫瘍の全国症例登録システムの構築に関する研究(分担)	加瀬 諭	眼科	1,300,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業SCRUM-Japanで組織した遺伝子スクリーニング基盤を利用した、多施設多職種専門家から構成されたExpert Panelによる全国共通遺伝子解析・診断システムの構築および研修プログラムの開発(分担)	結城 敏志	消化器内科	3,900,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジストリを活用したHER2陽性の切除不能・再発大腸がんを対象にした医師主導治験(分担)	小松 嘉人	消化器内科	1,300,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
がんゲノム個別化医療の実現に向けた遺伝子診断共通カリキュラム構築と教育・研修プログラムの実証的開発研究(分担)	秋田 弘俊	腫瘍内科	4,000,100	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究(分担)	森川 賢一	消化器内科	2,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定および診療システムの整備を行う臨床研究(分担)	武田 充人	小児科	600,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
国内完結型がん臨床シークエンスの社会実装と統合データベース構築およびゲノム医療人材育成に関する研究開発(分担)	西原 広史	がん遺伝子診断部	18,850,000	補 委	日本医療研究 開発機構
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP投与の多施設共同ランダム化第Ⅱ相比較試験(分担)	西原 広史	がん遺伝子診断部	13,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
造血幹細胞移植後の食細胞システムの再構築	橋本 大吾	血液内科	1,820,000	補 委	日本学術振興 会
超高分子量ヒアルロン酸の関節軟骨マトリクスに与える影響の機序の解明と制御	船越 忠直	整形外科	1,690,000	補 委	日本学術振興 会
ダイオキシン受容体リガンド依存性のアンドロゲン受容体分解を介した前立腺癌制御	丸山 覚	泌尿器科	1,040,000	補 委	日本学術振興 会
ユビキチン化酵素を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の治療法開発	宮島 直人	泌尿器科	1,040,000	補 委	日本学術振興 会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

好酸球性副鼻腔炎におけるNKT細胞の役割と新しい治療戦略	高木 大	耳鼻咽喉科	1,300,000	補委	日本学術振興会
MCTの機能・発現阻害に基づいたがん細胞の転移・浸潤の抑制効果の検証	小林 正紀	薬剤部	1,820,000	補委	日本学術振興会
Imaging技術を基盤としたミトコンドリア心筋症の診断法・新診断基準の確立	武田 充人	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性疾患患者に発生するリンパ増殖性疾患の病態解明と治療効果予測因子の同定	畑中 佳奈子	病理診断科	1,560,000	補委	日本学術振興会
RHOシグナル経路制御分子群を用いた新規の膀胱癌分子診断法および標的治療法の開発	三橋 智子	病理診断科	1,560,000	補委	日本学術振興会
手掌腱膜における線維化制御機構の解明	松井 雄一郎	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
高機能化カーボンナノホーンを応用した新たなGBR法の開発	小松原 浩実	義歯補綴科	2,340,000	補委	日本学術振興会
腫瘍血管特異的マーカーを標的とした次世代肺癌治療の開発	樋田 泰浩	循環器・呼吸器外科	5,590,000	補委	日本学術振興会
ビスフォスフォネート製剤の骨芽細胞・骨細胞への直接作用－BRONJと糖尿	坪井 香奈子	口腔内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
先端のがん医療実施のための地域完結型病理診断および臨床・病理連携ネットワークの構築(分担)	畑中 豊	病理診断科	1,400,000	補委	厚生労働省
非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究(分担)	遠藤 知之	血液内科	1,000,000	補委	厚生労働省
陽子線治療患者の全例登録実施状況調査と施設訪問調査研究(分担)	佐藤 典宏	臨床研究開発センター	1,985,000	補委	厚生労働省
小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究(分担)	井口 晶裕	小児科	470,000	補委	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植に関する研究(分担)	嶋村 剛	臓器移植医療部	500,000	補委	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究(分担)	南場 研一	眼科	400,000	補委	厚生労働省

計 302件

(様式3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ishiguro N, Oyamada R, Nasuhara Y, et al.	感染制御部	Three-day regimen of oseltamivir for postexposure prophylaxis of influenza in wards	J Hosp Infect 2016 Oct;94(2):150-3	Original Article
2	Atsumi T, Tanaka Y, Yamamoto K, et al.	内科II	Clinical benefit of 1-year certolizumab pegol (CZP) add-on therapy to methotrexate treatment in patients with early rheumatoid arthritis was observed following CZP discontinuation:	Ann Rheum Dis 2017 Feb 2 (オンライン)	Original Article
3	Yasuda S, Shimizu Y Atsumi T.	内科II	Brain MRI abnormalities defined as risks for poor prognosis in lupus patients with acute confusional state: Are they antibody mediated?	Mod Rheumatol 2017 Mar;27(2):191-192	Original Article
4	Yasuda S.	内科II	Antiphospholipid Antibodies as a Thrombotic Risk Factor in Connective Tissue Diseases and Idiopathic/immune Thrombocytopenic Purpura--Proposal for Altered Cut-off values	Intern Med 2016;55(6):557-8.	Original Article
5	Yasuda S, Ohmura K, Kanazawa H, et al.	内科II	Maintenance Treatment using Abatacept with Dose Reduction after Achievement of Low Disease Activity in Patients with Rheumatoid Arthritis (MATADOR) - A prospective, multicenter,	Mod Rheumatol 2017 Feb 2:1-20.	Original Article
6	Amengual O, Forastiero R, Sugiura-Ogasawara	内科II	Evaluation of phosphatidylserine-dependent antithrombin antibody testing for the diagnosis of antiphospholipid syndrome: results of an international multicentre study.	Lupus 2017 Mar;26(3):266-276.	Original Article
7	Oku K, Amengual O, Hisada R, et al.	内科II	Autoantibodies against a complement component 1q subcomponent contribute to complement activation and recurrent thrombosis/pregnancy morbidity in anti-phospholipid	Rheumatology (Oxford) 2016 Aug;55(8):1403-11.	Original Article
8	Oku K, Amengual O, Kato M, et al.	内科II	Significance of fully automated tests for the diagnosis of antiphospholipid syndrome.	Thromb Res 2016 Oct;146:1-6.	Original Article
9	Oku K, Nakamura H, Kono M, et al.	内科II	Complement and thrombosis in the antiphospholipid syndrome.	Autoimmun Rev 2016 Oct;15(10):1001-4.	Original Article
10	Otomo K, Amengual O, Fujieda Y, et al.	内科II	Role of apolipoprotein B100 and oxidized low-density lipoprotein in the monocyte tissue factor induction mediated by anti-beta2 glycoprotein I antibodies.	Lupus 2016 Oct;25(12):1288-98.	Original Article
11	Kato M, Atsumi T.	内科II	Reactivation of occult hepatitis B virus infection in patients with rheumatic diseases: pathogenesis, risk assessment and prevention.	Rheumatol Int 2016 May;36(5):635-41.	Original Article
12	Kato M, Ospelt C, Kolling C, et al.	内科II	AAA-ATPase p97 suppresses apoptotic and autophagy-associated cell death in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts.	Oncotarget 2016 Sep 27;7(39):64221-64232.	Original Article
13	Fujieda Y, Amengual O, Matsumoto M, et al.	内科II	Ribophorin II is involved in the tissue factor expression mediated by phosphatidylserine-dependent antithrombin antibody on monocytes.	Rheumatology (Oxford) 2016 Jun;55(6):1117-26.	Original Article
14	Karino K, Kono Michihito.	内科II	HLA-B52-positive Aortitis with Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis.	Intern Med 2016;55(23):3545.	Original Article
15	Kono Michihito, Kamishima T, Yasuda S, et al.	内科II	Effectiveness of whole-body magnetic resonance imaging for the efficacy of biologic anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A retrospective pilot study.	Mod Rheumatol 2017 Feb 1:1-8.	Original Article
16	Kanda M, Yamanaka H, Kojo S, et al.	内科II	Transcriptional regulator Bhlhe40 works as a cofactor of T-bet in the regulation of IFN-γ production in iNKT cells.	Proc Natl Acad Sci U S A 2016 Jun 14;113(24):E3394-402.	Original Article
17	Shimizu Y, Yasuda S, Kako Y, et al.	内科II	Post-steroid neuropsychiatric manifestations are significantly more frequent in SLE compared with other systemic autoimmune diseases and predict better prognosis compared with de novo	Autoimmun Rev 2016 Aug;15(8):786-94.	Original Article
18	Noguchi A, Kato M, Kono M, et al.	内科II	Bi-ventricular interplay in patients with systemic sclerosis-associated pulmonary arterial hypertension: Detection by cardiac magnetic resonance.	Mod Rheumatol 2017 May;27(3):481-488.	Original Article
19	Nakamura H, Odani T, Shimizu Y, et al.	内科II	Usefulness of tacrolimus for refractory adult-onset still's disease: Report of six cases.	Mod Rheumatol 2016 Nov;26(6):963-967.	Original Article
20	Nakamura H, Shibata Y, Takeda T.	内科II	Sternoclavicular Joint Swelling in a Patient with Rheumatoid Arthritis.	J Rheumatol 2016 Nov;43(11):2074-2075.	Original Article
21	Nakamura H, Amengual O, Horita T, et al.	内科II	Acute aortic thrombosis related to antiphospholipid antibodies.	Lupus 2016 Nov 16. (オンライン)	Original Article
22	Nakamura H, Sugai T, Kato M, et al.	内科II	Subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma with haemophagocytic syndrome during tocilizumab therapy for juvenile idiopathic arthritis.	Clin Exp Rheumatol 2017 Jan-Feb;35(1):174.	Original Article
23	Sugawara E, Kato M, Sato T, et al.	内科II	Diversity of Borderline Pulmonary Arterial Pressure Associated with Systemic Sclerosis: 3 Case series.	Mod Rheumatol Case Rep 2016 Dec; 1(1):9-14. (オンライン)	Case report
24	Sugawara E, Kato M, Hisada R, et al.	内科II	Treatment of Vasodilator-resistant Mixed Connective Tissue Disease-associated Pulmonary Arterial Hypertension with Glucocorticoid and Cyclophosphamide.	Intern Med 2017 Feb 15. (オンライン)	Original Article
25	Kono M, Yasuda S, Atsumi T.	内科II	Takayasu Arteritis with Varied-size Vessel Involvement.	J Rheumatol 2017 Jan;44(1):125-126.	Original Article
26	Shida H, Nakazawa D, Tateyama Y, et al.	内科II	The Presence of Anti-Lactoferrin Antibodies in a Subgroup of Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Patients and Their Possible Contribution to Enhancement of Neutrophil	Front Immunol 2016 Dec 23;7:636.	Original Article
27	Nakamura A, Iwami D, Miyoshi H, et al.	内科II	Impact of renal transplantation on glucose tolerance in Japanese recipients with impaired glucose tolerance.	Diabetic Med 2016 Oct 7. (オンライン)	Original Article
28	Nakamura A, Mitsuhashi T, Takano Y, et al.	内科II	Usefulness of the octreotide test in Japanese patients for predicting the presence/absence of somatostatin receptor 2 expression in insulinomas.	Endocr J 2016;63(2):135-42.	Original Article

29	Cho KY, Miyoshi H, Nakamura A, et al.	内科II	Hyponatremia can be a powerful predictor of the development of isolated ACTH deficiency associated with nivolumab treatment	Endocr J 2017 Feb 27;64(2):235-236.	Letter
30	Nomoto H, Miyoshi H, Furumoto T, et al.	内科II	A Randomized Controlled Trial Comparing the Effects of Sitagliptin and Glimperide on Endothelial Function and Metabolic Parameters: Sapporo Athero-Incretin Study 1 (SAIS1).	PLoS One 2016 Oct 6;11(10)	Original Article
31	Nomoto H, Kimachi K, Miyoshi H, et al.	内科II	Effects of 50 mg vildagliptin twice daily vs. 50 mg sitagliptin once daily on blood glucose fluctuations evaluated by long-term self-monitoring of blood glucose.	Endocr J 2017 Mar 3(オンライン)	Original Article
32	Nomoto H, Miyoshi H, Nakamura A, et al.	内科II	Do DPP-4 inhibitors improve endothelial cell function?	Currn Tren Cardiol 2017;1(1):12-14.	Original Article
33	Yamamoto C, Miyoshi H, Fujiwara Y, et al.	内科II	Degludec is superior to glargine in terms of daily glycemic variability in people with type 1 diabetes mellitus.	Endocr J 2016;63(1):53-60.	Original Article
34	Yamamoto C, Miyoshi H, Ono K, et al.	内科II	Ipragliflozin effectively reduced visceral fat in Japanese patients with type 2 diabetes under adequate diet therapy.	Endocr J 2016 Jun 30;63(6):589-96.	Original Article
35	Miyoshi A, Yamada M, Shida H, et al.	内科II	Circulating Neutrophil Extracellular Trap Levels in Well-Controlled Type 2 Diabetes and Pathway Involved in Their Formation Induced by High-Dose Glucose.	Pathobiology 2016;83(5):243-51.	Original Article
36	Koyanagawa N, Miyoshi H, Ono K, et al.	内科II	Comparative effects of vildagliptin and sitagliptin determined by continuous glucose monitoring in patients with type 2 diabetes mellitus.	Endocr J 2016 Aug 31;63(8):747-53.	Original Article
37	Takase T, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科II	Amelioration of fatty liver index in patients with type 2 diabetes on ipragliflozin: an association with glucose-lowering effects.	Endocr J 2017 Mar 31;64(3):363-367.	Original Article
38	Takahashi K, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科II	Factors associated with an inadequate hypoglycemia in the insulin tolerance test in Japanese patients with suspected or proven hypopituitarism.	Endocr J 2017 Mar 3. (オンライン)	Original Article
39	Yamamoto J, Nishio S, Hattanda F, et al.	内科II	Branched-chain amino acids enhance cyst development in autosomal dominant polycystic kidney disease.	Kidney Int 2017 Mar 22. (オンライン)	Original Article
40	Kusunoki Y, Nakazawa D, Shida H, et al.	内科II	Peptidylarginine Deiminase Inhibitor Suppresses Neutrophil Extracellular Trap Formation and MPO-ANCA Production.	Front Immunol 2016 Jun 8;7:227.	Original Article
41	Masuda S, Nakazawa D, Shida H, et al.	内科II	NETosis markers: Quest for specific, objective, and quantitative markers.	Clin Chim Acta 2016 Aug 1;459:89-93.	Original Article
42	Shida H, Nakazawa D, Tateyama Y, et al.	内科II	The Presence of Anti-Lactoferrin Antibodies in a Subgroup of Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Patients and Their Possible Contribution to Enhancement of Neutrophil	Front Immunol 2016 Dec 23;7:636.	Original Article
43	Ikezawa Y, Sakakibara-Konishi J, Mizugaki H, et al.	内科 I	Inhibition of Notch and HIF enhances the antitumor effect of radiation in Notch expressing lung cancer.	Int J Clin Oncol 2017 Feb;22(1):59-69.	Original Article
44	Ikezawa Y, Shinagawa N, Sukoh N, et al.	内科 I	Usefulness of Endobronchial Ultrasonography With a Guide Sheath and Virtual Bronchoscopic Navigation for Ground-Glass Opacity Lesions.	Ann Thorac Surg 2017 Feb;103(2):470-475.	Original Article
45	Kimura H, Konno S, Nakamaru Y, et al.	内科 I	Sinus Computed Tomographic Findings in Adult Smokers and Nonsmokers with Asthma. Analysis of Clinical Indices and Biomarkers.	Ann Thorac Surg 2017 Mar;14(3):332-341.	Original Article
46	Kitai H, Ebi H, Tomida S, et al.	内科 I	Epithelial-to-Mesenchymal Transition Defines Feedback Activation of Receptor Tyrosine Kinase Signaling Induced by MEK Inhibition in KRAS-Mutant Lung Cancer	Cancer Discov 2016 Jul;6(7):754-69.	Original Article
47	Mizugaki H, Yamamoto N, Murakami H, et al.	内科 I	Phase I dose-finding study of monotherapy with atezolizumab, an engineered immunoglobulin monoclonal antibody targeting PD-L1, in Japanese patients with advanced solid tumors	Invest New Drugs 2016 Oct;34(5):596-603.	Original Article
48	Ohira H, Birnie DH, Pena E, et al.	内科 I	Comparison of (18)F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography (FDG PET) and cardiac magnetic resonance (CMR) in corticosteroid-naïve patients with conduction system disease	Eur J Nucl Med Mol Imaging 2016 Feb;43(2):259-69.	Original Article
49	Sato T, Tsujino I, Sugimoto A, et al.	内科 I	The effects of pulmonary vasodilating agents on right ventricular parameters in severe group 3 pulmonary hypertension: a pilot study.	Pulm Circ 2016 Dec;6(4):524-531.	Original Article
50	Shimizu K, Seto R, Makita H, et al.	内科 I	Computed tomography (CT)-assessed bronchodilation induced by inhaled indacaterol and glycopyrronium/indacaterol in COPD.	Respir Med 2016 Oct;119:70-77.	Original Article
51	Suzuki M, Makita H, Konno S, et al.	内科 I	Asthma-like features and clinical course of chronic obstructive pulmonary disease. An analysis from the Hokkaido COPD cohort study	Am J Respir Crit Care Med, 2016 Dec 1;194(11):1358-1365.	Original Article
52	Takashina T, Kinoshita I, Kikuchi J, et al.	内科 I	Combined inhibition of EZH2 and histone deacetylases as a potential epigenetic therapy for non-small cell lung cancer cells"	Cancer Sci 2016 Jul;107(7):955-62.	Original Article
53	Masaharu Nishimura	内科 I	Similarities and differences between East and West in COPD.	Respirology 2016 Nov;21(8):1340-1341.	Original Article
54	Taketomi A.	消化器外科 I	Clinical trials of antiangiogenic therapy for hepatocellular carcinoma.	Int J Clin Oncol. 2016 Apr;21(2):213-218.	Original Article
55	Taketomi A.	消化器外科 I	Development and future directions of antiangiogenic therapy in hepatocellular carcinoma.	Int J Clin Oncol. 2016 Apr;21(2):205.	Original Article
56	Fukai M, Kobayashi N, Ishikawa T, et al.	消化器外科 I	14-3-3 ζ-mediated stimulation of oxidative phosphorylation exacerbates oxidative damage under hyperthermic oxygenated conditions in human renal tubular cells (HK-2).	Transplant Proc 2016 May;48(4):1288-91.	Original Article
57	Tsuruga Y, Kamiyama T, Kamachi H, et al.	消化器外科 I	Significance of functional hepatic resection rate calculated using 3D CT/(99m)Tc-galactosyl human serum albumin single-photon emission computed tomography fusion imaging.	World J Gastroenterol 2016 Apr 22;116(16)	Original Article
58	Einama T, Kawamata F, Kamachi H, et al.	消化器外科 I	Clinical impacts of mesothelin expression in gastrointestinal carcinomas.	World Journal of Gastrointestinal Pathophysiology. 2016 May 15;7(2):218-22.	Original Article
59	Honda S, Minato M, Suzuki H, et al.	消化器外科 I	Clinical prognostic value of DNA methylation in hepatoblastoma: Four novel tumor suppressor candidates.	Cancer Sci 2016 Jun;107(6):812-9.	Original Article
60	Shibasaki S, Homma S, Yosida T, et al.	消化器外科 I	Epidermal Sutureless Closure of the Umbilical Base Following Laparoscopic Colectomy for Colon Cancer.	Indian J Surg 2016 Jun;78(3):203-8.	Original Article

61	Shoji H, Yoshio S, Mano Y, et al.	消化器外科 I	Interleukin-34 as a fibroblast-derived marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Sci Rep 2016 Jul 1;6	Original Article
62	Orimo T, Kamiyama T, Yokoo H, et al.	消化器外科 I	Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma with Bile Duct Tumor Thrombus, Including Cases with Obstructive Jaundice.	Ann Surg Oncol 2016 Aug;23(8):2627-34.	Original Article
63	Fujii Y, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	Jejunal intussusception caused by metastasis of a giant cell carcinoma of the lung.	BMJ Case Reports 2016 Aug 2	Case report
64	Watanabe M, Louise Hagbard, Helene Johansson, et al.	消化器外科 I	Maintenance of hepatic functions in primary human hepatocytes cultured on xeno-free and chemical defined human recombinant laminins	PLoS One. 2016 Sep 6;11(9)	Original Article
65	Shibasaki S, Kawamura H, Homma S, et al.	消化器外科 I	A comparison between fentanyl plus celecoxib therapy and epidural anesthesia for postoperative pain management following laparoscopic gastrectomy.	Surg Today 2016 Oct;46(10):1209-16.	Original Article
66	Wakayama K, Kamiyama T, Yokoo H, et al.	消化器外科 I	Our technique of preceding diaphragm resection and partial mobilization of the hepatic right lobe using a vessel sealing device (LigaSure™) for huge hepatic tumors with diaphragm	Surgery Today 2016 Oct;46(10):1224-9.	Original Article
67	Miyagi H, Honda S, Minato M, et al.	消化器外科 I	Impact of umbilical polyp resection: A report and literature review.	Afr J Pediatr Surg. 2016 Oct-Dec;13(4):196-198.	Original Article
68	Yokoo H, Miyata H, Konno H, et al.	消化器外科 I	Models predicting the risks of six life-threatening morbidities and bile leakage in 14,970 hepatectomy patients registered in the National Clinical Database of Japan.	Medicine (Baltimore). 2016 Dec;95(49)	Original Article
69	Ichikawa N, Homma S, Nakanishi K, et al.	消化器外科 I	Safety of Laparoscopic Colorectal Resection in Patients With Severe Comorbidities.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 2016 Dec;26(6):503-507.	Original Article
70	Shimada S, Wakayama K, Fukai M, et al.	消化器外科 I	Hydrogen gas ameliorates hepatic reperfusion injury after prolonged cold preservation in isolated perfused rat liver.	Artif Organs. 2016 Dec;40(12):1128-1136.	Original Article
71	Matsuzawa F, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	Successful Treatment of Rectovaginal Fistula and Rectal Stenosis due to Perianal Crohn's Disease by Dual-port Laparoscopic Abdominoperineal Resection: a report of two cases	Surgical Case Reports. 2016 Dec;2(1):83.	Case report
72	Imazumi K, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	Solitary left axillary lymph node metastasis after curative resection of carcinoma at the colostomy site: a case report	Surgical Case Reports. 2016 Dec;2(1):99.	Case report
73	Nagatsu A, Yoshizumi T, Ikegami T, et al.	消化器外科 I	In Situ Posterior Graft Segmentectomy for Large-for-Size Syndrome in Deceased Donor Liver Transplantation in Adults: A Case Report.	Transplant Proc 2016 Mar (オンライン)	Case report
74	Kenkichi Tsuruga, Toshikazu Hashimoto, Rvoko Kato, et al.	麻酔科	Plantar injection of formalin in rats reduces the expression of a potassium chloride cotransporter KCC2 in the spinal cord and a kinase inhibitor suppresses this reduction.	Biomedical Research (Tokyo) 2016;37(4):243-9.	Original Article
75	Homma A, Hayashi R, Kawabata K, et al.	耳鼻咽喉科	Association of impaired renal function and poor prognosis in oropharyngeal squamous cell carcinoma.	Head Neck-J. Sci. 2016 Oct;38(10):1495-500.	Original Article
76	Suzuki T, Sakashita T, Homma A, et al.	耳鼻咽喉科	Effectiveness of superselective intra-arterial chemoradiotherapy targeting retropharyngeal lymph node metastasis.	Eur Arch Otorhinolaryngol 2016 Oct;273(10):3331-6.	Original Article
77	Suzuki M, Fujiwara K, Tsubuku T, et al.	耳鼻咽喉科	Time course of downbeat positioning nystagmus in familial hemiplegic migraine type 1 treated with acetazolamide.	J Neurol Sci 2016 Sep 15;368:206-8.	Case report
78	Morita S, Nakamaru Y, Fujiwara K, et al.	耳鼻咽喉科	The Short- and Long-Term Outcome of Intratympanic Steroid Therapy as a Salvage Treatment for Acute Low-Tone Sensorineural Hearing Loss without Episodes of Vertigo.	Audiol Neurootol 2016 July; 21(3):132-40.	Original Article
79	Morita S, Homma A, Nakamaru Y, et al.	耳鼻咽喉科	The Outcomes of Surgery and Chemoradiotherapy for Temporal Bone Cancer.	Otol Neurotol 2016 Sep;37(8):1174-82.	Original Article
80	Honma A, Takagi D, Nakamaru Y, et al.	耳鼻咽喉科	Reduction of blood eosinophil counts in eosinophilic chronic rhinosinusitis after surgery.	J Laryngol Otol 2016 Dec;130(12):1147-1152.	Original Article
81	Homma A, Hatakeyama H, Mizumachi T, et al.	耳鼻咽喉科	A Retrospective Study of G-Tube Use in Japanese Patients Treated with Concurrent Chemoradiotherapy for Hypopharyngeal Cancer.	PLoS One 2016 Aug 24;11(8)	Original Article
82	Morita S, Nakamaru Y, Homma A, et al.	耳鼻咽喉科	Comparison of hearing outcomes after treatment for early stage external auditory canal cancer.	Head Neck 2016 Apr;38 Suppl 1:E1110-6	Original Article
83	Sugaya T, Tomita M, Motoki Y, et al.	歯周・歯内療法科	Influence of enamel matrix derivative on healing of root surfaces after bonding treatment and intentional replantation of vertically fractured roots	Dent Traumatol 2016 Oct;32(5):397-401.	Original Article
84	Morozumi T, Nakagawa T, Nomura Y, et al.	歯周・歯内療法科	Salivary pathogen and serum antibody to assess the progression of chronic periodontitis: a 24-mo prospective multicenter cohort study.	J Periodontal Res 2016 Dec;51(6):768-778.	Original Article
85	Nishida E, Miyaji H, Kato A, et al.	歯周・歯内療法科	Graphene oxide scaffold accelerates cellular proliferative response and alveolar bone healing of tooth extraction socket	Int J Nanomed. 2016 May 24;11:2265-77	Original Article
86	Momose T, Miyaji H, Kato A, et al.	歯周・歯内療法科	Collagen hydrogel scaffold and fibroblast growth factor-2 accelerate periodontal healing of class II furcation defects in dogs	Open Dent J 2016 Jul 29;10:347-59.	Original Article
87	Saito E, Saito A, Kato H, et al.	歯周・歯内療法科	A novel regenerative technique combining bone morphogenetic protein-2 with fibroblast growth factor-2 for circumferential defects in dog incisors	J Periodontol 2016 Sep;87(9):1067-74.	Original Article
88	Yoshida S, Wada N, Hasegawa D, et al.	歯周・歯内療法科	Semaphorin 3A induces odontoblastic phenotype in dental pulp stem cells	J Dent Res 2016 Oct;95(11):1282-90.	Original Article
89	Nakamura M, Oyane A, Shimizu Y, et al.	歯周・歯内療法科	Physicochemical fabrication of antibacterial calcium phosphate submicrospheres with dispersed silver nanoparticles via coprecipitation and photoreduction under laser irradiation	Acta Biomate 2016 Dec;46:299-307.	Original Article
90	Ogawa K, Miyaji H, Kato A, et al.	歯周・歯内療法科	Periodontal tissue engineering by nano beta-tricalcium phosphate scaffold and fibroblast growth factor-2 in one-wall infrabony defects of dogs	J Periodontal Res. 2016 Dec;51(6):758-767.	Original Article
91	Sugaya T, Tomita M, Motoki Y, et al.	歯周・歯内療法科	Periodontal tissue repair after sealing of the gap in vertical root fracture	Odontology 2016 Sep 21 (オンライン)	Original Article
92	Kakuta E, Nomura Y, Morozumi T, et al.	歯周・歯内療法科	Assessing the progression of chronic periodontitis using subgingival pathogen levels: a 24-month prospective multicenter cohort study	BMC Oral Health 2017 Jan 16;17(1):46.	Original Article

93	Sugaya T, Tomita M, Motoki Y, et al.	歯周・歯内療法科	Periodontal tissue repair after sealing of the gap in vertical root fracture	Odontology 2016 Sep 21(オンライン)	Original Article
94	Mutoh M, Kimura S, Takahashi-Iwanaga H, et al.	矯正歯科	RANKL regulates differentiation of microfold cells in mouse nasopharynx-associated lymphoid tissue (NALT)	Cell and tissue research 2016 Apr;364(1):175-84.	Original Article
95	Ikeda M, Yoshimura Y, Kikuri T, et al.	矯正歯科	Release from optimal compressive force suppresses osteoclast differentiation	Molecular Medicine Reports 2016 Nov;14(5):4699-4705.	Original Article
96	Kakutani H, Sato Y, Tsukamoto-Takakusagi Y, et al.	矯正歯科	Evaluation of the maxillofacial morphological characteristics of Apert syndrome infants	Congenital Anomalies 2017 Jan;57(1):15-23.	Original Article
97	Kadoya K, Lu P, Nguyen K, et al.	整形外科	Spinal cord reconstitution with homologous neural grafts enables robust corticospinal regeneration.	Nat Med. 2016 May;22(5):479-87.	Original Article
98	Kato M, Ospelt C, Kolling C, et al.	整形外科	AAA-ATPase p97 suppresses apoptotic and autophagy-associated cell death in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts.	Oncotarget. 2016 Jul-Aug;68(4):169-70.	Original Article
99	Funakoshi T, Furushima K, Momma D, et al.	整形外科	Alteration of Stress Distribution Patterns in Symptomatic Valgus Instability of the Elbow in Baseball Players: A Computed Tomography Osteoabsorptiometry Study.	Am J Sports Med. 2016 Apr;44(4):989-94.	Original Article
100	Takahashi T, Kondo E, Yasuda K, et al.	整形外科	Effects of Remnant Tissue Preservation on the Tendon Graft in Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Biomechanical and Histological Study.	Am J Sports Med. 2016 Jul;27(3):301-315.	Original Article
101	Yamamoto T, Hasegawa T, Sasaki M, et al.	整形外科	Frequency of Teriparatide Administration Affects the Histological Pattern of Bone Formation in Young Adult Male Mice. Endocrinology.	Endocrinology. 2016 Jul;157(7):2604-20.	Original Article
102	Yoshida Y, Furukawa JI, Naito S, et al.	整形外科	Quantitative analysis of total serum glycome in human and mouse.	Proteomics. 2016 Nov;16(21):2747-58.	Original Article
103	Kameda Y, Funakoshi T, Takeuchi S, et al.	整形外科	Viability of Cells From Displaced Fragments of the Elbow Osteochondritis Dissecans: Alternative Source of Autologous Chondrocyte Implantation.	Arthroscopy. 2017 Feb;33(2):291-296.e1.	Original Article
104	Iwasaki K, Sudo H, Kasahara Y, et al.	整形外科	Effects of Multiple Intra-articular Injections of 0.5% Bupivacaine on Normal and Osteoarthritic Joints in Rats.	Arthroscopy. 2016 Oct;32(10):2026-36.	Original Article
105	Shimizu T, Takahata M, Kimura-Suda H, et al.	整形外科	Autoimmune arthritis deteriorates bone quantity and quality of periarticular bone in a mouse model of rheumatoid arthritis.	Osteoporos Int. 2017 Feb;28(2):709-18.	Original Article
106	Kokabu T, Sudo H, Abe Y, et al.	整形外科	Effects of Multilevel Facetectomy and Screw Density on Postoperative Changes in Spinal Rod Contour in Thoracic Adolescent Idiopathic Scoliosis Surgery.	PLoS One. 2016 Aug 26;11(8):(オンライン)	Original Article
107	Ohnishi T, Sudo H, Iwasaki K, et al.	整形外科	In Vivo Mouse Intervertebral Disc Degeneration Model Based on a New Histological Classification.	PLoS One. 2016 Aug 2;11(8):(オンライン)	Original Article
108	Zhou M, Cao S, Luo Y, et al.	整形外科	Molecular identification and antigenic characterization of a merozoite surface antigen and a secreted antigen of Babesia canis (BeMSA1 and BeSA1).	Parasit Vectors. 2016 May 3;9:257.	Original Article
109	Kazuno S, Furukawa J, Shinohara Y, et al.	整形外科	Glycosylation status of serum immunoglobulin G in patients with prostate diseases.	Cancer Med. 2016 Jun;5(6):1137-46.	Original Article
110	Tsuboi K, Hasegawa T, Yamamoto T, et al.	整形外科	Effects of drug discontinuation after short-term daily alendronate administration on osteoblasts and osteocytes in mice.	Histochem Cell Biol. 2016 Sep;146(3):337-50.	Original Article
111	Sudo H, Abe Y, Kokabu T, et al.	整形外科	Correlation analysis between change in thoracic kyphosis and multilevel facetectomy and screw density in main thoracic adolescent idiopathic scoliosis surgery.	Spine J. 2016 Sep;16(9):1049-54.	Original Article
112	Adjou Moumouni PF, Terkawi MA, Jirapattharasate C, et al.	整形外科	Molecular detection of spotted fever group rickettsiae in Amblyomma variegatum ticks from Benin.	Ticks Tick Borne Dis. 2016 Jul;7(5):828-33.	Original Article
113	Sudo H, Mayer M, Kaneda K, et al.	整形外科	Maintenance of spontaneous lumbar curve correction following thoracic fusion of main thoracic curves in adolescent idiopathic scoliosis.	Bone Joint J. 2016 Jul;98-B(7):997-1002.	Original Article
114	Furukawa J, Okada K, Shinohara Y.	整形外科	Glycomics of human embryonic stem cells and human induced pluripotent stem cells.	Glycoconj J. 2016 Oct;33(5):707-15.	Original Article
115	Terkawi MA, Takano R, Kato K.	整形外科	Isolation and co-cultivation of human macrophages and neutrophils with Plasmodium falciparum-parasitized erythrocytes: An optimized system to study the phagocytic activity to malarial	Parasitol Int. 2016 Oct;65(5 Pt B):545-8.	Original Article
116	Miyaji K, Furukawa J, Suzuki Y, et al.	整形外科	Altered gene expression of glycosyltransferases and sialyltransferases and total amount of glycosphingolipids following herpes simplex virus infection.	Carbohydr Res. 2016 Nov 3;434:37-43.	Original Article
117	Mori N, Kimura S, Onodera T, et al.	整形外科	Use of a pneumatic tourniquet in total knee arthroplasty increases the risk of distal deep vein thrombosis: A prospective, randomized study.	Knee. 2016 Oct;23(5):887-9.	Original Article
118	Tsujimoto T, Takahata M, Kokabu T, et al.	整形外科	Pyogenic spondylodiscitis following anti-interleukin-6 therapy in a patient with rheumatoid arthritis (implication of hematogenous infection risk in degenerative intervertebral discs): A case report	J Orthop Sci. 2016 Sep;21(5):694-7.	Original Article
119	Irie T, Takahashi D, Asano T, et al.	整形外科	Comparison of femoral head translation following eccentric rotational acetabular osteotomy and rotational acetabular osteotomy.	Hip Int. 2017 Feb 21;27(1):49-54.	Original Article
120	Komatsu M, Suda K, Takahata M, et al.	整形外科	Delayed bilateral vertebral artery occlusion after cervical spine injury: a case report.	Spinal Cord Series and Cases. 2016 Nov 24;2:16031.(オンライン)	Case report
121	Arai R, Takahashi D, Inoue M, et al.	整形外科	Efficacy of teriparatide in the treatment of nontraumatic osteonecrosis of the femoral head. A retrospective comparative study with alendronate.	BMC Musculoskeletal Disorders. 2017 Jan 19;18(1):24.	Original Article
122	Matsuoka M, Onodera T, Homan K, et al.	整形外科	Depletion of Gangliosides Enhances Articular Cartilage Repair in Mice.	Sci Rep. 2017 Mar 2;7:43729. (オンライン)	Original Article
123	Arai R, Onodera T, Alaa Terkawi M, et al.	整形外科	A rare case of multiple phosphaturic mesenchymal tumors along a tendon sheath inducing osteomalacia.	BMC Musculoskeletal Disorders. 2017 Feb 13;18(1):79.	Case report
124	Matsumae G, Motomiya M, Watanabe N, et al.	整形外科	"Half-folded" pedicled scapular bone flap for nonunion after humeral neck fracture: A case report.	Microsurgery. 2017 Mar 28. (オンライン)	Case report

125	Yanagi T, Tachikawa K, Wilkie-Grantham R, et al.	皮膚科	Lipid Nanoparticle-mediated siRNA Transfer Against PCTAIRE1/PCTK1/Cdk16 Inhibits In Vivo Cancer Growth.	Mol Ther Nucleic Acids. 2016 Jun 28;5(6): (オンライン)	Original Article
126	Yamaguchi Y, Nishie W, Ito T, et al.	皮膚科	Plasma cell cheilitis successfully treated with topical calcineurin inhibitors.	Eur J Dermatol 2016 Dec 1;26(6):609-610.	Original Article
127	Yamaguchi Y, Kitamura S, Hata H, et al.	皮膚科	Giant annular purpuric eruption as a unique clinical manifestation of skin metastasis in apocrine carcinoma	J Eur Acad Dermatol Venereol 2016 Jun;30(6):1029-31.	Case report
128	Watanabe M, Natsuga K, Arita K, et al.	皮膚科	Generalized acute subcutaneous edema as a rare cutaneous manifestation of severe dermatomyositis.	J Eur Acad Dermatol Venereol 2016 Nov;30(11):e151-e152. (オンライン)	Case report
129	Ujije H, Aoyagi S, Horie K, et al.	皮膚科	Cutaneous-type pemphigus vulgaris successfully treated with topical corticosteroids.	J Dermatol. 2016 Jul;43(7):840-1	Letter
130	Toyonaga E, Iwata H, Hotta M, et al.	皮膚科	Keep It Cool: Cryoglobulinemic Purpura.	Am J Med. 2016 Nov;129(11):1163-1165.	Original Article
131	Suzuki S, Nomura T, Miyauchi T, et al.	皮膚科	Revertant mosaicism in ichthyosis with confetti caused by a frameshift mutation in KRT1.	J Invest Dermatol. 2016 Oct;136(10):2093-2095.	Original Article
132	Shiyya C, Watanabe K, Ota M	皮膚科	Image Gallery: Lichen amyloidosis on the external auditory canal.	Br J Dermatol. 2016 Dec;175(6):e149. (オンライン)	Others
133	Shiyya C, Iwata H, Imafuku K, et al.	皮膚科	Plasma cell panniculitis, a type of morphea profunda, surrounded by congenital nevus spilus.	Eur J Dermatol. 2016 Apr 1;26(2):210-1.	Case report
134	Shiyya C, Hata H, Imafuku K, et al.	皮膚科	A rare coexistence of pyogenic granuloma and eccrine angiomatous hamartoma.	Clin Exp Dermatol. 2016 Jun;41(4):431-3.	Case report
135	Shiba K, Abe R, Miyauchi T, et al.	皮膚科	Massive petechiae as an initial symptom of Waldenström's macroglobulinemia.	Int J Dermatol. 2016 Jun;55(6):e361-2. (オンライン)	Letter
136	Natsuga K, Watt FM.	皮膚科	Galectin-6 is a novel skin anti-microbial peptide that is modulated by the skin barrier and microbiome.	J Dermatol Sci. 2016 Oct;84(1):97-99.	Letter
137	Muramatsu K, Ujije H, Ito T, et al.	皮膚科	Image Gallery: Vasculo-Behcet disease.	Br J Dermatol. 2016 Dec;175(6):e150. (オンライン)	Others
138	Muramatsu K, Fujita Y, Inokuma D, et al.	皮膚科	Cutaneous Manifestations of Thymoma-associated Multi-organ Autoimmunity: A Fatal Sign.	Acta Derm Venereol. 2016 Aug 23;96(6):818-9.	Case report
139	Kitamura S, Hata H, Yamaguchi Y, et al.	皮膚科	The Unique Dermoscopic Structure 'Large black web' in basal cell carcinoma on the areola.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Dec;30(12):e221-e223. (オンライン)	Letter
140	Kitamura S, Hata H, Inamura Y, et al.	皮膚科	Lessons from 20 cases of digit malignant melanoma.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Nov;30(11):e161-e163.	Letter
141	Kitamura S, Hamauchi A, Ota M.	皮膚科	Neuro-Sweet's disease.	Int J Dermatol. 2016 Sep;55(9):e513-4. (オンライン)	Case report
142	Kitamura S, Hata H, Imafuku K, et al.	皮膚科	Dermoscopic findings of irritated seborrheic keratosis.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Oct;30(10):e94-e96. (オンライン)	Letter
143	Iwata H, Kamaguchi M, Ujije H, et al.	皮膚科	Macropinocytosis of type XVII collagen induced by bullous pemphigoid IgG is regulated via protein kinase C.	Lab Invest. 2016 Dec;96(12):1301-1310.	Original Article
144	Ito T, Moriuchi R, Kikuchi K, et al.	皮膚科	Sepsis caused by dialysis-related amyloidosis on the buttocks.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Oct;30(10):e74-e75. (オンライン)	Letter
145	Ito T, Kohashi K, Yamada Y, et al.	皮膚科	Prognostic Significance of Forkhead Box M1 (FOXM1) Expression and Antitumor Effect of FOXM1 Inhibition in Angiosarcoma.	J Cancer. 2016 Apr 27;7(7):823-30.	Original Article
146	Imafuku K, Yoshino K, Ishiwata K, et al.	皮膚科	Severe rash associated with vemurafenib administration following nivolumab therapy.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Oct;30(10):e84-e86. (オンライン)	Letter
147	Imafuku K, Natsuga K, Aoyagi S, et al.	皮膚科	Mucosal hyperpigmentation from prophylactic minocycline for EGFR inhibitor.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Apr;30(4):690-2.	Letter
148	Imafuku K, Hata H, Inamura Y, et al.	皮膚科	Verrucous hyperplasia associated with neuropathy from schistorrhachis.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 May;30(5):876-8.	Letter
149	Hotta M, Ota M.	皮膚科	Drug-Drug Interactions in Treatment Using Azole Antifungal Agents--Reply.	JAMA 2016 Jun 21;315(23):2622-3.	Letter
150	Hata H, Kitamura S, Inamura Y, et al.	皮膚科	mTOR expression correlates with invasiveness and progression of extramammary Paget's disease.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Jul;30(7):1238-9.	Letter
151	Fujita Y, Shinkuma S, Matsumura W, et al.	皮膚科	Silicone medical adhesive removers for hyperkeratosis in epidermolysis bullosa.	Eur J Dermatol. 2016 Oct 1;26(5):501-502.	Case report
152	Yamaguchi Y, Nakazato S, Izumi K, et al.	皮膚科	Rapid remission of severe pain from livedoid vasculopathy by apixaban.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2017 Jan;31(1):e45-e46. (オンライン)	Letter
153	Yamaguchi Y, Hata H, Kitamura S, et al.	皮膚科	A case of chondroma cutis showing callus-like appearance.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2017 Jan;31(1):e37-e38. (オンライン)	Letter
154	Muramatsu K, Ujije H, Yokozeki M, et al.	皮膚科	Recurrence of juvenile dermatomyositis 8 years after remission.	JAAD Case Rep. 2016 Dec 26;3(1):29-32.	Case report
155	Muramatsu K, Nomura T, Shiyya C, et al.	皮膚科	Alopecia Induced by Timolol Eye-drops.	Acta Derm Venereol. 2017 Feb 8;97(2):295-296.	Case report
156	Katayama S, Nomura T, Muramatsu K, et al.	皮膚科	A severe case of X-linked ichthyosis showing palmar hyperlinearity without FLG mutations.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2017 Feb;31(2):e119-e120. (オンライン)	Letter

157	Imafuku K, Yoshino K, Ishiwata K, et al.	皮膚科	Lymphopenia can be a useful biomarker of adverse events related to vemurafenib.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2017 Jan;31(1):e24-e26. (オンライン)	Letter
158	Imafuku K, Hata H, Yamaguchi Y, et al.	皮膚科	Modified Dufourmental flap, easy to design and tailor to the defect.	J Dermatol. 2017 Jan;44(1):68-70.	Case report
159	Shimizu S, Shimizu H.	皮膚科	Cutaneous manifestations of Helicobacter cinaedi: a review.	Br J Dermatol. 2016 Jul;175(1):62-8.	Review
160	Koganemaru S, Goto F, Arai M, et al.	リハビリテーション科	Effects of vestibular rehabilitation combined with transcranial cerebellar direct current stimulation in patients with chronic dizziness: An exploratory study.	Brain Stimul. 2017 May - Jun;10(3):576-578.	Original Article
161	Abiko K, Ikoma K, Shiga T, et al.	リハビリテーション科	I-123 iomazenil single photon emission computed tomography for detecting loss of neuronal integrity in patients with traumatic brain injury.	EJNMMI Res. 2017 Dec;7(1):28.	Original Article
162	Okamoto S, Shiga T, Yasuda K, et al.	核医学診療科	The reoxygenation of hypoxia and the reduction of glucose metabolism in head and neck cancer by fractionated radiotherapy with intensity-modulated radiation therapy	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2016 Nov;43(12):2147-2154.	Original Article
163	Toyonaga T, Hirata K, Yamaguchi S, et al.	核医学診療科	(18)F-fluoromisonidazole positron emission tomography can predict pathological necrosis of brain tumors.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2016 Jul;43(8):1469-76.	Original Article
164	Sato J, Kuroshima T, Wada M, et al.	核医学診療科	Use of FDG-PET to detect a chronic odontogenic infection as a possible source of the brain abscess.	Odontology. 2016 May;104(2):239-43.	Case report
165	Toyonaga T, Yamaguchi S, Hirata K, et al.	核医学診療科	Hypoxic glucose metabolism in glioblastoma as a potential prognostic factor.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2016 Oct 18. (オンライン)	Original Article
166	Manabe O, Yoshinaga K, Ohira H, et al.	核医学診療科	The effects of 18-h fasting with low-carbohydrate diet preparation on suppressed physiological myocardial (18)F-fluorodeoxyglucose (FDG) uptake and possible minimal effects of	J Nucl Cardiol. 2016 Apr;23(2):244-52.	Original Article
167	Masuda A, Naya M, Manabe O, et al.	核医学診療科	Administration of unfractionated heparin with prolonged fasting could reduce physiological 18F-fluorodeoxyglucose uptake in the heart.	Acta Radiol. 2016 Jun;57(6):661-8.	Original Article
168	Sugaya T, Oyama-Manabe N, Yamaguchi T, et al.	核医学診療科	Visualization of collateral channels with coronary computed tomography angiography for the retrograde approach in percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion.	J Cardiovasc Comput Tomogr. 2016 Apr;10(2):128-34.	Original Article
169	Sato J, Kuroshima T, Wada M, et al.	核医学診療科	Use of FDG-PET to detect a chronic odontogenic infection as a possible source of the brain abscess.	Odontology. 2016 May;104(2):239-43.	Case report
170	Ochi N, Yoshinaga K, Ito YM, et al.	核医学診療科	Comprehensive assessment of impaired peripheral and coronary artery endothelial functions in smokers using brachial artery ultrasound and oxygen-15-labeled water PET.	J Cardiol. 2016 Oct;68(4):316-23.	Original Article
171	Watanabe M, Saito Y, Aonuma K, et al.	核医学診療科	Prediction of contrast-induced nephropathy by the serum creatinine level on the day following cardiac catheterization.	J Cardiol. 2016 Nov;68(5):412-418.	Original Article
172	Watanabe S, Manabe O, Hirata K, et al.	核医学診療科	The usefulness of (18)F-FDG PET/CT for assessing methotrexate-associated lymphoproliferative disorder (MTX-LPD).	BMC Cancer. 2016 Aug 15;16:635.	Original Article
173	Kitao T, Hirata K, Shima K, et al.	核医学診療科	Reproducibility and uptake time dependency of volume-based parameters on FDG-PET for lung cancer.	BMC Cancer. 2016 Aug 2;16:576.	Original Article
174	Yoshinaga K, Fujii S, Tomiyama Y, et al.	核医学診療科	Anatomical and Functional Estimations of Brachial Artery Diameter and Elasticity Using Oscillometric Measurements with a Quantitative Approach.	Pulse (Basel). 2016 Jul;4(1):1-10.	Review
175	Watanabe M, Saito Y, Aonuma K, et al.	核医学診療科	Prediction of contrast-induced nephropathy by the serum creatinine level on the day following cardiac catheterization.	J Cardiol. 2016 Nov;68(5):412-418.	Original Article
176	Yamaguchi S, Hirata K, Toyonaga T, et al.	核医学診療科	Change in 18F-Fluoromisonidazole PET Is an Early Predictor of the Prognosis in the Patients with Recurrent High-Grade Glioma Receiving Bevacizumab Treatment.	PLoS One. 2016 Dec 9;11(12):e0167917. (オンライン)	Original Article
177	Masuda A, Yoshinaga K, Naya M, et al.	核医学診療科	Accelerated (99m)Tc-sestamibi clearance associated with mitochondrial dysfunction and regional left ventricular dysfunction in reperfused myocardium in patients with acute	EJNMMI Res. 2016 Dec;6(1):41.	Original Article
178	Tagawa Y, Namba K, Nakazono Y, et al.	眼科	Evaluating the efficacy of epinastine ophthalmic solution using a conjunctivitis allergen challenge model in patients with birch pollen allergic conjunctivitis.	Allergol Int. 2016 Oct 6 (オンライン)	Original Article
179	Kinoshita S, Ohguchi T, Noda K, et al.	眼科	Evaluation of the Safety and Tolerability of Conjunctival Ring for Posterior Segment of the Eye.	Curr Eye Res. 2017 Mar 30. (オンライン)	Original Article
180	Dong Y, Kanda A, Noda K, et al.	眼科	Pathologic Roles of Receptor-Associated Protein System in Idiopathic Epiretinal Membrane.	Sci Rep. 2017 Mar 9;7:44266.	Original Article
181	Hirooka K, Saito W, Namba K, et al.	眼科	Early post-treatment choroidal thickness to alert sunset glow fundus in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease treated with systemic corticosteroids.	PLoS One. 2017 Feb 27;12(2):e0172612. (オンライン)	Original Article
182	Horie Y, Meguro A, Ohta T, et al.	眼科	HLA-B51 Carriers are Susceptible to Ocular Symptoms of Behçet Disease and the Association between the Two Becomes Stronger towards the East along the Silk Road: A Literature	Ocul Immunol Inflamm. 2017 Feb;25(1):37-40.	Review
183	Dong Y, Noda K, Murata M, et al.	眼科	Localization of Acrolein-Lysine Adduct in Fibrovascular Tissues of Proliferative Diabetic Retinopathy.	Curr Eye Res. 2017 Jan;42(1):111-117.	Original Article
184	Ogura Y, Shiraga F, Terasaki H, et al.	眼科	Clinical practice pattern in management of diabetic macular edema in Japan: survey results of Japanese retinal specialists.	Jpn J Ophthalmol. 2017 Jan;61(1):43-50.	Original Article
185	Kase S, Saito W, Mori S, et al.	眼科	Clinical and histological evaluation of large macular hole surgery using the inverted internal limiting membrane flap technique.	Clin Ophthalmol. 2016 Dec 16;11:9-14.	Original Article
186	Hashimoto Y, Saito W, Saito M, et al.	眼科	Relationship between choroidal thickness and visual impairment in multiple evanescent white dot syndrome.	Acta Ophthalmol. 2016 Dec;94(8):e804-e806.	Letter
187	Satoh M, Namba KI, Kitaichi N, et al.	眼科	Invariant natural killer T cells play dual roles in the development of experimental autoimmune uveoretinitis.	Exp Eye Res. 2016 Dec;153:79-89.	Original Article
188	Takemoto Y, Namba K, Mizuuchi K, et al.	眼科	Choroidal circulation impairment during the anterior recurrence of Vogt-Koyanagi-Harada disease confirmed with indocyanine green angiography and laser speckle flowgraphy.	Acta Ophthalmol. 2016 Nov;94(7):e629-e636. (オンライン)	Original Article

189	Shinmei Y, Kijima R, Nitta T, et al.	眼科	Modified 360-degree suture trabeculotomy combined with phacoemulsification and intraocular lens implantation for glaucoma and coexisting cataract.	J Cataract Refract Surg. 2016 Nov;42(11):1634-1641.	Original Article
190	Dong Z, Shinmei Y, Dong Y, et al.	眼科	Effect of geranylgeranylacetone on the protection of retinal ganglion cells in a mouse model of normal tension glaucoma.	Heliyon. 2016 Oct 28;2(10):e00191. (オンライン)	Original Article
191	Kinoshita S, Noda K, Saito W, et al.	眼科	Vitreous levels of vascular endothelial growth factor-B in proliferative diabetic retinopathy.	Acta Ophthalmol. 2016 Sep;94(6):e521-3. (オンライン)	Letter
192	Horie Y, Kitaichi N, Hijioke K, et al.	眼科	Ocular Behçet's disease is less complicated with allergic disorders. A nationwide survey in Japan.	Clin Exp Rheumatol. 2016 Sep-Oct;34(6 Suppl 102):111-114.	Original Article
193	Dong Y, Dong Z, Kase S, et al.	眼科	Phosphorylation of alphaB-crystallin in epiretinal membrane of human proliferative diabetic retinopathy.	Int J Ophthalmol. 2016 Aug 18;9(8):1100-5.	Original Article
194	Dong Y, Kase S, Dong Z, et al.	眼科	Regulation of vascular endothelial growth factor-C by tumor necrosis factor- α in the conjunctiva and pterygium.	Int J Mol Med. 2016 Aug;38(2):545-50.	Original Article
195	Saito W, Saito M, Hashimoto Y, et al.	眼科	Occult hypertensive choroidopathy: novel finding of suprachoroidal fluid.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Jun;254(6):1229-31.	Letter
196	Inafuku S, Noda K, Amano M, et al.	眼科	Short Communication: Increase of Sialylated N-Glycans in Eyes with Neovascular Glaucoma Secondary to Proliferative Diabetic Retinopathy.	Curr Eye Res. 2016 May;41(5):721-4.	Original Article
197	Shinmei Y, Nitta T, Saito H, et al.	眼科	Continuous Intraocular Pressure Monitoring During Nocturnal Sleep in Patients With Obstructive Sleep Apnea Syndrome.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 May 1;57(6):2824-30.	Original Article
198	Hirooka K, Saito W, Saito M, et al.	眼科	Increased choroidal blood flow velocity with regression of acute posterior multifocal placoid pigment epitheliopathy.	Jpn J Ophthalmol. 2016 May;60(3):172-8.	Original Article
199	Sakurai Y, Namba K, Mizuuchi K, et al.	眼科	A Case of Severe Panuveitis Associated with Psoriasis Vulgaris Successfully Treated with Infliximab.	Case Rep Ophthalmol. 2016 Apr 2;7(1):191-4.	Case report
200	Tagawa Y, Namba K, Mizuuchi K, et al.	眼科	Choroidal thickening prior to anterior recurrence in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Br J Ophthalmol. 2016 Apr;100(4):473-7.	Original Article
201	Asakura S, Hayano T, Hagino A, et al.	精神科神経科	A randomized, double-blind, placebo-controlled study of escitalopram in patients with social anxiety disorder in Japan.	Curr Med Res Opin. 2016;32(4):749-57.	Original Article
202	Asakura S, Hayano T, Hagino A, et al.	精神科神経科	Long-term administration of escitalopram in patients with social anxiety disorder in Japan.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2016 Jul 22;12:1817-25.	Original Article
203	Saito T, Ikeda M, Mushiroda T, et al.	精神科神経科	Pharmacogenomic Study of Clozapine-Induced Agranulocytosis/Granulocytopenia in a Japanese Population.	Biol Psychiatry. 2016 Oct 15;80(8):636-42.	Original Article
204	Narita H, Tha KK, Hashimoto N, et al.	精神科神経科	Mean kurtosis alterations of cerebral white matter in patients with schizophrenia revealed by diffusion kurtosis imaging.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2016 Nov 3;71:169-75.	Original Article
205	Matsumoto M, Mine A, Miura J, et al.	歯冠修復科	Bonding effectiveness and multi-interfacial characterization of two direct buildup resin core systems bonded to post-space dentin.	Clin Oral Investig. 2017 Jan;21(1):309-317.	Original Article
206	Alhmadia Y, Selimovic D, Murad F, et al.	歯冠修復科	Hepatitis C virus-associated pruritus: Etiopathogenesis and therapeutic strategies.	World J Gastroenterol. 2017 Feb 7;23(5):743-750.	Original Article
207	Saikaew P, Chowdhury AF, Fukuyama M, et al.	歯冠修復科	The effect of dentine surface preparation and reduced application time of adhesive on bonding strength.	J Dent. 2016 Apr;47:63-70.	Original Article
208	El Jamal SM, Taylor EB, Abd Elmageed ZY, et al.	歯冠修復科	Interferon gamma-induced apoptosis of head and neck squamous cell carcinoma is connected to indoleamine-2,3-dioxygenase via mitochondrial and ER stress-associated pathways.	Cell Div. 2016 Aug 2;11:11.	Original Article
209	Mine A, De Munck J, Van Ende A, et al.	歯冠修復科	Limited interaction of a self-adhesive flowable composite with dentin/enamel characterized by TEM.	Dent Mater. 2017 Feb;33(2):209-217.	Original Article
210	Kadowaki Y, Kakuda S, Kawano S, et al.	歯冠修復科	Bond performance of "Touch and Cure" adhesives on resin core systems.	Dent Mater J. 2016 Jun;35(3):386-91.	Original Article
211	Fu J, Saikaew P, Kawano S, et al.	歯冠修復科	Effect of air-blowing duration on the bond strength of current one-step adhesives to dentin.	Dent Mater. 2017 May 25.(オンライン)	Original Article
212	Seitoku E, Abe S, Kusaka T, Nakamura M, et al.	歯冠修復科	Cytocompatibility of HeLa Cells to Nano-Sized Ceramics Particles.	J Nanosci Nanotechnol. 2016 Apr;16(4):3373-7.	Original Article
213	Ohga N, Yamazaki Y, Sato J, et al.	口腔内科	Elimination of oral candidiasis may increase stimulated whole salivary flow rate.	Arch Oral Biol. 2016 Nov;71:129-133.	Original Article
214	Okusha Y, Hirai Y, Maezawa H, et al.	高齢者歯科	Effects of intraperitoneally administered L-histidine on food intake, taste, and visceral sensation in rats.	J Physiol Sci. 2016 Aug 17.(オンライン)	Original Article
215	Obinata K, Shirai S, Ito H, et al.	歯科放射線科	Image findings of bisphosphonate related osteonecrosis of jaws comparing with osteoradionecrosis.	Dentomaxillofac Radiol. 2017 Mar 16. (オンライン)	Original Article
216	Matsukawa T, Hashimoto D, Sugita J, et al.	血液内科	Reduced-dose methotrexate in combination with tacrolimus was associated with rapid engraftment and recovery from oral mucositis without affecting the incidence of GVHD.	Int J Hematol. 2016 Jul;104(1):117-24.	Original Article
217	Saito M, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	高次口腔医療センター	Weak association between sleep bruxism and obstructive sleep apnea. A sleep laboratory study.	Sleep Breath. 2016 May;20(2):703-9.	Original Article
218	Yachida W, Arima T, Castrillon EE, et al.	高次口腔医療センター	Diagnostic validity of self-reported measures of sleep bruxism using an ambulatory single-channel EMG device.	J Prosthodont Res. 2016 Oct;60(4):250-257.	Original Article
219	Suzuki S, Castrillon EE, Arima T, et al.	高次口腔医療センター	Blood oxygenation of masseter muscle during sustained elevated muscle activity in healthy participants.	J Oral Rehabil. 2016 Dec;43(12):900-910.	Original Article
220	Takeuchi S, Rohren EM, Abdel-Wahab R, et al.	腫瘍内科	Refining prognosis in patients with hepatocellular carcinoma through incorporation of metabolic imaging biomarkers.	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2016 Dec 12 (オンライン)	Original Article

221	Ohhara Y, Fukuda N, Takeuchi S, et al.	腫瘍内科	Role of targeted therapy in metastatic colorectal cancer.	World J Gastrointest Oncol. 2016 Sep 15;8(9):642-55.	Review
222	Masuda A, Naya M, Manabe O, et al.	循環器内科	Administration of unfractionated heparin with prolonged fasting could reduce physiological 18F-fluorodeoxyglucose uptake in the heart.	Acta Radiol. 2016 Jun;57(6):661-8.	Original Article
223	Fukushima A, Alrob OA, Zhang L, et al.	循環器内科	Acetylation and succinylation contribute to maturational alterations in energy metabolism in the newborn heart.	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2016 Aug 1;311(2):H347-63.	Original Article
224	Takada S, Masaki Y, Kinugawa S, et al.	循環器内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor improved exercise capacity and mitochondrial biogenesis in mice with heart failure via activation of glucagon-like peptide-1 receptor signalling.	Cardiovasc Res. 2016 Sep;111(4):338-47.	Original Article
225	Tsutsui H, Momomura S, Yamashina A, et al.	循環器内科	Heart Rate Control With If Inhibitor, Ivabradine, in Japanese Patients With Chronic Heart Failure - A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Phase II Study.	Circ J. 2016;80(3):668-76.	Original Article
226	Hayashi T, Yamada S, Iwano H, et al.	循環器内科	Left Ventricular Global Strain for Estimating Relaxation and Filling Pressure - A Multicenter Study.	Circ J. 2016 Apr 25;80(5):1163-70.	Original Article
227	Yoshitani T, Asakawa N, Sakakibara M, et al.	循環器内科	Value of Virtual Touch Quantification Elastography for Assessing Liver Congestion in Patients With Heart Failure.	Circ J. 2016 Apr 25;80(5):1187-95.	Original Article
228	Noguchi K, Sakakibara M, Asakawa N, et al.	循環器内科	Higher Hemoglobin A1c After Discharge Is an Independent Predictor of Adverse Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome - Findings From the PACIFIC Registry.	Circ J. 2016 Jun 24;80(7):1607-14.	Original Article
229	Yasuda S, Nakao K, Nishimura K, et al.	循環器内科	The Current Status of Cardiovascular Medicine in Japan - Analysis of a Large Number of Health Records From a Nationwide Claim-Based Database, JROAD-DPC.	Circ J. 2016 Oct 25;80(11):2327-2335.	Original Article
230	Masuda A, Yoshinaga K, Naya M, et al.	循環器内科	Accelerated (99m)Tc-sestamibi clearance associated with mitochondrial dysfunction and regional left ventricular dysfunction in reperfused myocardium in patients with acute	EJNMMI Res. 2016 Dec;6(1):41.	Original Article
231	Fukushima A, Kinugawa S, Takada S, et al.	循環器内科	Direct renin inhibitor ameliorates insulin resistance by improving insulin signaling and oxidative stress in the skeletal muscle from post-infarct heart failure in mice.	Eur J Pharmacol. 2016 May 15;779:147-56.	Original Article
232	Yokoshiki H, Mizukami K, Mitsuyama H, et al.	循環器内科	Characteristics of idiopathic ventricular tachycardia originating above the pulmonary valve.	Heart Vessels. 2016 Apr;31(4):599-607.	Original Article
233	Furuhata T, Kinugawa S, Fukushima A, et al.	循環器内科	Serum myostatin levels are independently associated with skeletal muscle wasting in patients with heart failure.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:483-7.	Original Article
234	Honda Y, Nagai T, Ikeda Y, et al.	循環器内科	Myocardial Immunocompetent Cells and Macrophage Phenotypes as Histopathological Surrogates for Diagnosis of Cardiac Sarcoidosis in Japanese.	J Am Heart Assoc. 2016 Nov 17;5(11).	Original Article
235	Yokoshiki H, Shimizu A, Mitsuhashi T, et al.	循環器内科	Trends and determinant factors in the use of cardiac resynchronization therapy devices in Japan: Analysis of the Japan cardiac device treatment registry database.	J Arrhythm. 2016 Dec;32(6):486-490.	Original Article
236	Iwano H, Kamimura D, Fox ER, et al.	循環器内科	Presence and Implication of Temporal Nonuniformity of Early Diastolic Left Ventricular Wall Expansion in Patients With Heart Failure.	J Card Fail. 2016 Dec;22(12):945-953.	Original Article
237	Watanabe M, Saito Y, Aonuma K, et al.	循環器内科	Prediction of contrast-induced nephropathy by the serum creatinine level on the day following cardiac catheterization.	J Cardiol. 2016 Nov;68(5):412-418.	Original Article
238	Matsushima S, Kuroda J, Zhai P, et al.	循環器内科	Tyrosine kinase FYN negatively regulates NOX4 in cardiac remodeling.	J Clin Invest. 2016 Sep 1;126(9):3403-16.	Original Article
239	Mizushima W, Takahashi H, Watanabe M, et al.	循環器内科	The novel heart-specific RING finger protein 207 is involved in energy metabolism in cardiomyocytes.	J Mol Cell Cardiol. 2016 Nov;100:43-53.	Original Article
240	Aikawa T, Naya M, Obara M, et al.	循環器内科	Impaired Myocardial Sympathetic Innervation Is Associated with Diastolic Dysfunction in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: 11C-Hydroxyephedrine PET Study.	J Nucl Med. 2016 Nov 3. (オンライン)	Original Article
241	Nomoto H, Miyoshi H, Furumoto T, et al.	循環器内科	A Randomized Controlled Trial Comparing the Effects of Sitagliptin and Glimpeptide on Endothelial Function and Metabolic Parameters: Sapporo Athero-Incretin Study 1 (SAIS1).	PLoS One. 2016 Oct 6;11(10):e0164255. (オンライン)	Original Article
242	Fukushima A, Lopaschuk GD.	循環器内科	Cardiac fatty acid oxidation in heart failure associated with obesity and diabetes.	Biochim Biophys Acta. 2016 Oct;1861(10):1525-34.	Review
243	Fukushima A, Lopaschuk GD.	循環器内科	Acetylation control of cardiac fatty acid β -oxidation and energy metabolism in obesity, diabetes, and heart failure.	Biochim Biophys Acta. 2016 Dec;1862(12):2211-2220.	Review
244	Matsushima S, Zablocki D, Tsutsui H, et al.	循環器内科	Poldip2 negatively regulates matrix synthesis at focal adhesions.	J Mol Cell Cardiol. 2016 May;94:10-12.	Review
245	Naya M, Tamaki N.	循環器内科	Stress MPI, coronary CTA, and multimodality for subsequent risk analysis.	J Nucl Cardiol. 2016 Apr;23(2):198-201.	Others
246	Fukushima A, Kinugawa S.	循環器内科	Renin-Angiotensin-Aldosterone System and Natriuretic Peptides as Possible Targets of Waon Therapy in Heart Failure.	Circ J. 2017 Mar 29 (オンライン)	Others
247	Suzuki M, Fujiwara K, Tsubuku T, et al.	神経内科	Time course of downbeat positioning nystagmus in familial hemiplegic migraine type 1 treated with acetazolamide.	J Neurol Sci. 2016 Sep 15;368:206-8.	Letter
248	Sugimoto C, Hirotsani M, Yoshikiyo K, et al.	神経内科	The dynamics of mucosal-associated invariant T cells in multiple sclerosis.	Springerplus. 2016 Aug 5;5(1):1259.	Original Article
249	Misawa S, Sato Y, Katayama K, et al.	神経内科	Safety and efficacy of thalidomide in patients with POEMS syndrome: a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial.	Lancet Neurol. 2016 Oct;15(11):1129-37.	Original Article
250	Kitta T, Yabe I, Takahashi I, et al.	神経内科	Clinical efficacy of istradefylline on lower urinary tract symptoms in Parkinson's disease.	Int J Urol. 2016 Oct;23(10):893-894.	Original Article
251	Wakabayashi K, Mori F, Kakita A, et al.	神経内科	MicroRNA expression profiles of multiple system atrophy from formalin-fixed paraffin-embedded samples.	Neurosci Lett. 2016 Dec 2;635:117-122.	Original Article
252	Yaguchi H, Takeuchi A, Horiuchi K, et al.	神経内科	Reply to: The Letter to be published with the Letter, Amyotrophic lateral sclerosis with frontotemporal dementia (ALS-FTD) syndrome as a phenotype of Creutzfeldt-Jakob	J Neurol Sci. 2017 Feb 27. (オンライン)	Letter

253	Mito Y, Yabe I, Yaguchi H, et al.	神経内科	Urinary dysfunction and motor symptoms in untreated Parkinson's disease.	J Neurol Sci. 2016 Jun 15;365:147-50.	Original Article
254	Yamaguchi N, Misawa S, Sato Y, et al.	神経内科	A Prospective, Multicenter, Randomized Phase II Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Eculizumab in Patients with Guillain-Barré Syndrome (GBS): Protocol of Japanese Eculizumab	JMIR Res Protoc. 2016 Nov 7;5(4):e210. (オンライン)	Original Article
255	Shibata Y, Matsushima M, Yabe, et al.	神経内科	Pseudo-homozygous mutation due to a primer site polymorphism in hereditary ATTR amyloidosis: a pitfall of PCR-based genetic testing.	Amyloid. 2017 Mar;24(1):66-67.	Letter
256	Saito Y, Kobayashi M, Yamada T, et al.	薬剤部	Premedication with intravenous magnesium has a protective effect against cisplatin-induced nephrotoxicity.	Support Care Cancer. 2017 Feb;25(2):481-487.	Original Article
257	Tazawa Y, Shigematsu A, Kasashi K, et al.	薬剤部	Pharmacokinetics and dose adjustment of etoposide administered in a medium-dose etoposide, cyclophosphamide and total body irradiation regimen before allogeneic hematopoietic stem cell	J Pharm Health Care Sci. 2016 Aug 8;2:18.	Original Article
258	Tamaki K, Ishigaki S, Ogawa T, et al.	冠橋義歯補綴科	Japan Prosthodontic Society position paper on "occlusal discomfort syndrome".	J Prosthodont Res. 2016 Jul;60(3):156-66.	Review
259	Yachida W, Arima T, Castrillon EE, et al.	冠橋義歯補綴科	Diagnostic validity of self-reported measures of sleep bruxism using an ambulatory single-channel EMG device.	J Prosthodont Res. 2016 Oct;60(4):250-257.	Original Article
260	Saito M, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義歯補綴科	Weak association between sleep bruxism and obstructive sleep apnea. A sleep laboratory study.	Sleep Breath. 2016 May;20(2):703-9.	Original Article
261	Matsuda S, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義歯補綴科	Rhythm and amplitude of rhythmic masticatory muscle activity during sleep in bruxers - comparison with gum chewing.	Cranio. 2016 Jul;34(4):234-41.	Original Article
262	Furuta I, Zhai T, Umazume T, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Increased podocyturia in pregnant women compared to non-pregnant women.	J Obstet Gynaecol Res. 2017 May;43(5):873-879.	Original Article
263	Morikawa M, Kawabata K, Kato-Hirayama E, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Liver dysfunction in women with pregnancy-induced antithrombin deficiency.	J Obstet Gynaecol Res. 2017 Feb;43(2):257-264.	Original Article
264	Hayasaka I, Cho K, Uzuki Y, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Frequency of malformed infants in a tertiary center in Hokkaido, Japan over a period of 10 years.	J Obstet Gynaecol Res. 2017 Mar;43(3):505-510.	Original Article
265	Suzuki Y, Yamamura M, Kikuchi K, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Echocardiography findings in a case with Ballantyne syndrome.	J Obstet Gynaecol Res. 2017 Feb;43(2):387-391.	Case report
266	Zhai T, Furuta I, Nakagawa, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Second-trimester urine nephrin:creatinine ratio versus soluble fms-like tyrosine kinase-1:placental growth factor ratio for prediction of preeclampsia among asymptomatic women.	Sci Rep. 2016 Nov 22;6:37442.	Original Article
267	Furuta I, Zhai T, Ishikawa S, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Association between nephrinuria, podocyturia, and proteinuria in women with pre-eclampsia.	J Obstet Gynaecol Res. 2017 Jan;43(1):34-41.	Original Article
268	Matsubara S, Ohkuchi A, Minakami H.	産科・婦人科・周産母子センター	Supporting less experienced physicians to write a paper: A proposal to introduce such a system on an academic society basis.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Dec;42(12):1891-1892.	Letter
269	Matsubara S, Suzuki H, Baba Y, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Eclampsia and hypertension: difficult to predict based solely on blood pressure monitoring.	Acta Obstet Gynecol Scand. 2016 Dec;95(12):1448.	Letter
270	Zhai T, Furuta I, Akaishi R, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Feasibility of nephrinuria as a screening tool for the risk of pre-eclampsia: prospective observational study.	BMJ Open. 2016 Aug 2;6(8):e011229. (オンライン)	Original Article
271	Umazume T, Morikawa M, Yamada T, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Changes in echocardiography and blood variables during and after development of Ballantyne syndrome.	BMJ Case Rep. 2016 Jun 21;2016.pii: bcr2016216012.	Case report
272	Yila TA, Araki A, Sasaki S, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Predictors of folate status among pregnant Japanese women: the Hokkaido Study on Environment and Children's Health, 2002-2012.	Br J Nutr. 2016 Jun;115(12):2227-35.	Original Article
273	Yamada T, Obata-Yasuoka M, Hamada H, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Isolated gestational proteinuria preceding the diagnosis of preeclampsia - an observational study.	Acta Obstet Gynecol Scand. 2016 Sep;95(9):1048-54.	Original Article
274	Morikawa M, Yamada T, Kato-Hirayama E, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Seatbelt use and seat preference among pregnant women in Sapporo, Japan, in 2013.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Jul;42(7):810-5.	Original Article
275	Maede Y, Ibara S, Tokuhisa T, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion and continuous hemodiafiltration in premature neonates with systemic inflammatory response syndrome.	Pediatr Int. 2016 Nov;58(11):1176-1182.	Original Article
276	Zhai T, Furuta I, Akaishi R, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Alteration of podocyte phenotype in the urine of women with preeclampsia.	Sci Rep. 2016 Apr 7;6:24258. (オンライン)	Original Article
277	Umazume T, Yamada T, Morikawa M, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Occult fetomaternal hemorrhage in women with pathological placenta with respect to permeability.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Jun;42(6):632-9.	Original Article
278	Kawabata K, Morikawa M, Yamada T, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Isolated pregnancy-induced anti-thrombin deficiency in a woman with twin pregnancy.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Jun;42(6):719-721.	Case report
279	Yamada T, Kawakami S, Yoshida Y, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Influenza 2014-2015 among pregnant Japanese women: primiparous vs multiparous women.	Eur J Clin Microbiol Infect Dis. 2016 Apr;35(4):665-71.	Original Article
280	Ishihara C, Ibara S, Ohson Y, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Effects of infant flow Bi-NCPAP on apnea of prematurity.	Pediatr Int. 2016 Jun;58(6):456-60.	Original Article
281	Ohnishi S, Watari H, Kanno M, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Additive effect of rikkunshito, an herbal medicine, on chemotherapy-induced nausea, vomiting, and anorexia in uterine cervical or corpus cancer patients treated with cisplatin and	J Gynecol Oncol. 2017 Mar 17 (オンライン)	Original Article
282	Ihira K, Dong P, Xiong Y, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	EZH2 inhibition suppresses endometrial cancer progression via miR-361/ Twist axis.	Oncotarget. 2017 Feb 21;8(8):13509-13520.	Original Article
283	Dong P, Xiong Y, Watari H, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Suppression of iASPP-dependent aggressiveness in cervical cancer through reversal of methylation silencing of microRNA-124.	Sci Rep. 2016 Oct 21;6:35480.	Original Article
284	Hanley SJ, Fujita H, Tamakoshi A, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Challenges in breast and cervical cancer control in Japan.	Lancet Oncol. 2016 Sep;17(9):e372. (オンライン)	Letter

285	Baghdadi M, Wada H, Nakanishi S, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Chemotherapy-Induced IL34 Enhances Immunosuppression by Tumor-Associated Macrophages and Mediates Survival of Chemoresistant Lung Cancer Cells.	Cancer Res. 2016 Oct 15;76(20):6030-6042.	Original Article
286	Dong P, Ihira K, Xiong Y, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Reactivation of epigenetically silenced miR-124 reverses the epithelial-to-mesenchymal transition and inhibits invasion in endometrial cancer cells via the direct repression of IQGAP1	Oncotarget. 2016 Apr 12;7(15):20260-70.	Original Article
287	Hanley SJ, Fujita H, Yokoyama S, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	HPV self-sampling in Japanese women: A feasibility study in a population with limited experience of tampon use.	J Med Screen. 2016 Sep;23(3):164-70.	Original Article
288	Harano K, Hirakawa A, Yunokawa M, et al.	産科・婦人科・周産母子センター	Optimal cytoreductive surgery in patients with advanced uterine carcinosarcoma: A multi-institutional retrospective study from the Japanese gynecologic oncology group.	Gynecol Oncol. 2016 Jun;141(3):447-453.	Original Article
289	Izumi G, Yokoshiki H, Takeda A.	小児科	Point catheter ablation of macro-re-entrant ventricular tachycardia in a patient after surgical repair for double-outlet right ventricle.	Cardiol Young. 2017 Jan 12(オンライン)	Original Article
290	Izumi G, Senzaki H, Takeda A, et al.	小児科	Significance of right atrial tension for the development of complications in patients after atriopulmonary connection Fontan procedure: potential indicator for Fontan conversion.	Heart Vessels. 2017 Jan 7(オンライン)	Original Article
291	Izumi G, Inai K, Shimada E, et al.	小児科	Vitamin D Kinetics and Parathyroid Gland Function in Patients with Congenital Heart Disease.	Congenit Heart Dis. 2016 Dec;11(6):700-706.	Original Article
292	Izumi G, Hayama E, Yamazawa H, et al.	小児科	Compound Mutations Cause Increased Cardiac Events in Children with Long QT Syndrome: Can the Sequence Homology-Based Tools be Applied for Prediction of Phenotypic Severity?	Pediatr Cardiol. 2016 Jun;37(5):962-70.	Original Article
293	Shimizu M, Miyamoto K, Nishihara Y, et al.	小児科	Risk factors and serological markers of liver cirrhosis after Fontan procedure.	Heart Vessels. 2016 Sep;31(9):1514-21.	Original Article
294	Borna NN, Kishita Y, Ishikawa K, et al.	小児科	A novel mutation in TAZ causes mitochondrial respiratory chain disorder without cardiomyopathy.	J Hum Genet. 2017 Jan 26 (オンライン)	Original Article
295	Chida A, Inai K, Sato H, et al.	小児科	Prognostic predictive value of gene mutations in Japanese patients with hypertrophic cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2016 Nov 24 (オンライン)	Original Article
296	Kawakubo K, Kuwatani M, Sakamoto N.	消化器内科	Too short to choose biliary drainage?	Gastrointest Endosc. 2017 Mar;85(3):690.	Letter
297	Sugiura R, Kawakami H, Ehira N, et al.	消化器内科	Rescue technique using a diathermic dilator for an unremovable stent in malignant perihilar biliary obstruction.	Endoscopy. 2017 Feb;49(S 01):E42-E45.	Case report
298	Sano I, Kuwatani M, Sugiura R, et al.	消化器内科	Hepatobiliary and Pancreatic: A rare case of a well-differentiated neuroendocrine tumor in the bile duct with spontaneous regression diagnosed by EUS-FNA.	J Gastroenterol Hepatol. 2017 Jan;32(1):11.	Case report
299	Kubo K, Kawakami H, Kuwatani M, et al.	消化器内科	Liver elasticity measurement before and after biliary drainage in patients with obstructive jaundice: a prospective cohort study	BMC Gastroenterol. 2016 Jul 8;16(1):65.	Original Article
300	Kawakubo K, Kawakami H, Kuwatani M, et al.	消化器内科	Lower incidence of complications in endoscopic nasobiliary drainage for hilar cholangiocarcinoma.	World J Gastrointest Endosc. 2016 May 10;8(9):385-90.	Original Article
301	Kuwatani M, Kawamoto Y, Nakamura T.	消化器内科	Eccentric Abscess Due to Bile Duct Microperforation Caused by Self-expandable Metal Stent and Neoadjuvant Chemoradiation.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2016 May;14(5):A29-30.	Case report
302	Kawakami H, Kubota Y, Kawahata S, et al.	消化器内科	Transpapillary selective bile duct cannulation technique: Review of Japanese randomized controlled trials since 2010 and an overview of clinical results in precut sphincterotomy since 2004.	Dig Endosc. 2016 Apr;28 Suppl 1:77-95.	Original Article
303	Kawakubo K, Ohnishi S, Fujita H, et al.	消化器内科	Effect of Fetal Membrane-Derived Mesenchymal Stem Cell Transplantation in Rats With Acute and Chronic Pancreatitis.	Pancreas. 2016 May-Jun;45(5):707-13.	Original Article
304	Kawakubo K, Ohnishi S, Hatanaka Y, et al.	消化器内科	Feasibility of Using an Enzymatically Activatable Fluorescence Probe for the Rapid Evaluation of Pancreatic Tissue Obtained Using Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration: a	Mol Imaging Biol. 2016 Jun;18(3):463-71.	Case report
305	Tsunematsu S, Suda G, Yamasaki K, et al.	消化器内科	Hepatitis B virus X protein impairs α -interferon signaling via up-regulation of suppressor of cytokine signaling 3 and protein phosphatase 2A.	J Med Virol. 2017 Feb;89(2):267-275.	Original Article
306	Suda G, Ogawa K, Kimura M, et al.	消化器内科	Novel Treatment of Hepatitis C Virus Infection for Patients with Renal Impairment.	J Clin Transl Hepatol. 2016 Dec 28;4(4):320-327.	Review
307	Morikawa K, Shimazaki T, Takeda R, et al.	消化器内科	Hepatitis B: progress in understanding chronicity, the innate immune response, and cccDNA protection.	Ann Transl Med. 2016 Sep;4(18):337.	Review
308	Ito J, Suda G, Yamamoto Y, et al.	消化器内科	Prevalence and characteristics of naturally occurring sofosbuvir resistance-associated variants in patients with hepatitis C virus genotype 1b infection.	Hepatol Res. 2016 Dec;46(13):1294-1303.	Original Article
309	Morikawa K, Suda G, Sakamoto N.	消化器内科	Viral life cycle of hepatitis B virus: Host factors and druggable targets.	Hepatol Res. 2016 Aug;46(9):871-7.	Review
310	Suda G, Kudo M, Nagasaka A, et al.	消化器内科	Efficacy and safety of daclatasvir and asunaprevir combination therapy in chronic hemodialysis patients with chronic hepatitis C.	J Gastroenterol. 2016 Jul;51(7):733-40.	Original Article
311	Ono S, Abiko S, Kato M.	消化器内科	Linked color imaging enhances gastric cancer in gastric intestinal metaplasia.	Dig Endosc. 2016 Nov 21 (オンライン)	Letter
312	Ono S, Ono M, Nakagawa M, et al.	消化器内科	Delayed bleeding and hemorrhage of mucosal defects after gastric endoscopic submucosal dissection on second-look endoscopy.	Gastric Cancer. 2016 Apr;19(2):561-7.	Original Article
313	Miyamoto S, Kato M, Tsuda M, et al.	消化器内科	Gastric mucosal cracked and cobblestone-like changes resulting from proton pump inhibitor use.	Dig Endosc. 2017 Jan 22 (オンライン)	Original Article
314	Miyamoto S, Kudo T, Kato M, et al.	消化器内科	Endoscopic ultrasonography features of gastric mucosal cobblestone-like changes from a proton-pump inhibitor.	Clin J Gastroenterol. 2017 Mar 6(オンライン)	Original Article
315	Miyamoto S, Ohnishi S, Onishi R, et al.	消化器内科	Therapeutic effects of human amnion-derived mesenchymal stem cell transplantation and conditioned medium enema in rats with trinitrobenzene sulfonic acid-induced colitis.	Am J Transl Res. 2017 Mar 15;9(3):940-952.	Original Article
316	Muranaka T, Yuki S, Komatsu Y, et al.	消化器内科	Efficacy and Safety of Bolus 5-Fluorouracil and L-Leucovorin as Salvage Chemotherapy for Oral Fluoropyrimidine-Resistant Unresectable or Recurrent Gastric Cancer: A Single Center	J Gastric Cancer. 2016 Sep;16(3):177-181.	Original Article
317	Muranaka T, Kuwatani M, Komatsu Y, et al.	消化器内科	Comparison of efficacy and toxicity of FOLFIRINOX and gemcitabine with nab-paclitaxel in unresectable pancreatic cancer.	J Gastrointest Oncol. 2017 Feb (オンライン)	Original Article

318	Yamaguchi S, Hirata K, Toyonaga T, et al.	脳神経外科	Change in 18F-Fluoromisonidazole PET Is an Early Predictor of the Prognosis in the Patients with Recurrent High-Grade Glioma Receiving Bevacizumab Treatment.	PLoS One. 2016 Dec 9;11(12):e0167917.	Original Article
319	Kurusu K, Osanai T, Kazumata K, et al.	脳神経外科	Ultrasound-guided Femoral Artery Access for Minimally Invasive Neuro-intervention and Risk Factors for Access Site Hematoma.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Dec 15;56(12):745-752.	Original Article
320	Moriya K, Nakamura M, Nishimura Y, et al.	泌尿器科	Factors affecting post-pubertal penile size in patients with hypospadias.	World J Urol. 2016 Sep;34(9):1317-21.	Original Article
321	Iwami D, Ogawa Y, Fujita H, et al.	泌尿器科	Successful treatment with foscarnet for ganciclovir-resistant cytomegalovirus infection in a kidney transplant recipient: A case report.	Nephrology (Carlton). 2016 Jul;21 Suppl 1:63-6.	Case report
322	Castro A, Rodriguez F, Flórez M, et al.	泌尿器科	Pseudoautosomal abnormalities in terminal AZFb+c deletions are associated with isochromosomes Yp and may lead to abnormal growth and neuropsychiatric function.	Hum Reprod. 2017 Feb;32(2):465-475.	Original Article
323	Kitta T, Mitsui T, Kanno Y, et al.	泌尿器科	Differences in neurotransmitter systems of ventrolateral periaqueductal gray between the micturition reflex and nociceptive regulation: An in vivo microdialysis study.	Int J Urol. 2016 Jul;23(7):593-8.	Original Article
324	Moriya K, Nakamura M, Nishimura Y, et al.	泌尿器科	Long-term impact of unilateral hypo/dysplastic kidney in infants with primary vesicoureteral reflux.	J Pediatr Urol. 2016 Oct;12(5):287.e1-287.e6. (オンライン)	Original Article
325	Itoh S, Araki A, Mitsui T, et al.	泌尿器科	Association of perfluoroalkyl substances exposure in utero with reproductive hormone levels in cord blood in the Hokkaido Study on Environment and Children's Health.	Environ Int. 2016 Sep;94:51-59.	Original Article
326	Mitsui T, Araki A, Goudarzi H, et al.	泌尿器科	Effects of adrenal androgens during the prenatal period on the second to fourth digit ratio in school-aged children.	Steroids. 2016 Sep;113:46-51.	Original Article
327	Osawa T, Lee CT, Abe T, et al.	泌尿器科	A Multi-Center International Study Assessing the Impact of Differences in Baseline Characteristics and Perioperative Care Following Radical Cystectomy.	Bladder Cancer. 2016 Apr 27;2(2):251-261.	Original Article
328	Abe T, Sazawa A, Harabayashi T, et al.	泌尿器科	Erratum to: Laparoscopic resection of paraaortic/paracaval neurogenic tumors: surgical outcomes and technical tips.	Surg Endosc. 2016 Oct;30(10):4646.	Others
329	Kitta T, Yabe I, Takahashi I, et al.	泌尿器科	Clinical efficacy of istradefylline on lower urinary tract symptoms in Parkinson's disease.	Int J Urol. 2016 Oct;23(10):893-894.	Original Article
330	Abe T, Matsumoto R, Shinohara N.	泌尿器科	Role of surgical consolidation in metastatic urothelial carcinoma.	Curr Opin Urol. 2016 Nov;26(6):573-80.	Original Article
331	Nakamura A, Iwami D, Miyoshi H, et al.	泌尿器科	Impact of renal transplantation on glucose tolerance in Japanese recipients with impaired glucose tolerance.	Diabet Med. 2016 Oct 7 (オンライン)	Original Article
332	Osawa T, Wittmann D, Jimbo M, et al.	泌尿器科	Providing prostate cancer survivorship care in Japan: Implications from the USA care model.	Int J Urol. 2016 Nov;23(11):906-915.	Review
333	Matsumoto R, Tsuda M, Yoshida K, et al.	泌尿器科	Aldo-keto reductase 1C1 induced by interleukin-1 β mediates the invasive potential and drug resistance of metastatic bladder cancer cells.	Sci Rep. 2016 Oct 4;6:34625.	Original Article
334	Abe T, Ishizaki J, Kikuchi H, et al.	泌尿器科	Outcome of metastatic urothelial carcinoma treated by systemic chemotherapy: Prognostic factors based on real-world clinical practice in Japan.	Urol Oncol. 2017 Feb;35(2):38.e1-38.e8. (オンライン)	Original Article
335	Hida K, Maishi N, Kawamoto T, et al.	泌尿器科	Tumor endothelial cells express high pentraxin 3 levels.	Pathol Int. 2016 Dec;66(12):687-694.	Original Article
336	Araki A, Mitsui T, Goudarzi H, et al.	泌尿器科	Prenatal di(2-ethylhexyl) phthalate exposure and disruption of adrenal androgens and glucocorticoids levels in cord blood: The Hokkaido Study.	Sci Total Environ. 2017 Mar 1;581-582:297-304.	Original Article
337	Takahashi T, Morita T, Matsuno Y.	病理診断科	Primary Extramedullary Plasmacytoma in the Gastroduodenal Canal Associated With Epstein-Barr Virus-Associated Adenocarcinoma of the Stomach: A Case Report.	Int J Surg Pathol. 2016 Dec;24(8):757-762.	Case report
338	Kakinuma R, Noguchi M, Ashizawa K, et al.	病理診断科	Natural History of Pulmonary Subsolid Nodules: A Prospective Multicenter Study.	J Thorac Oncol. 2016 Jul;11(7):1012-28.	Original Article
339	Maruyama D, Nagai H, Fukuhara N, et al.	病理診断科	Efficacy and safety of ibrutinib in Japanese patients with relapsed or refractory mantle cell lymphoma.	Cancer Sci. 2016 Dec;107(12):1785-1790	Original Article
340	Kiuchi S, Tomaru U, Ishizu A, et al.	病理診断科	Expression of cathepsins V and S in thymic epithelial tumors.	Hum Pathol. 2017 Feb;60:66-74.	Original Article
341	Naka T, Hatanaka Y, Marukawa K, et al.	病理診断科	Comparative genetic analysis of a rare synchronous collision tumor composed of malignant pleural mesothelioma and primary pulmonary adenocarcinoma.	Diagn Pathol. 2016 Apr 18;11:38	Case report
342	Thunnissen E, Borczuk AC, Flieder DB, et al.	病理診断科	The Use of Immunohistochemistry Improves the Diagnosis of Small Cell Lung Cancer and Its Differential Diagnosis. An International Reproducibility Study in a Demanding Set of Cases.	J Thorac Oncol. 2017 Feb;12(2):334-346.	Original Article
343	Soga K, Ishikawa K, Furuya T, et al.	病理診断科	Gene dosage effect in spinocerebellar ataxia type 6 homozygotes: A clinical and neuropathological study.	J Neurol Sci. 2017 Feb 15;373:321-328.	Original Article
344	Asai H, Shingu Y, Yamakawa T, et al.	循環器・呼吸器外科	Left-Ventricular Plication Reduces Wall Stress and Cardiomyocyte Hypertrophy in a Rat Model of Ischemic Cardiomyopathy.	Eur Surg Res. 2016 Nov 25 (オンライン)	Original Article
345	Soyama T, Sakuhara Y, Kudo K, et al.	放射線診断科	Comparison of conventional ultrasonography and ultrasonography-computed tomography fusion imaging for target identification using digital/real hybrid phantoms: a preliminary	J Med Ultrason (2001). 2016 Jul;43(3):327-35.	Original Article
346	Fujima N, Osanai T, Shimizu Y, et al.	放射線診断科	Utility of noncontrast-enhanced time-resolved four-dimensional MR angiography with a vessel-selective technique for intracranial arteriovenous malformations.	J Magn Reson Imaging. 2016 Oct;44(4):834-45.	Original Article
347	Harada T, Kudo K, Uwano I, et al.	放射線診断科	Breath-holding during the Calibration Scan Improves the Reproducibility of Parallel Transmission at 7T for Human Brain.	Magn Reson Med Sci. 2017 Jan 10;16(1):23-31.	Original Article
348	Hamaguchi H, Thakur KK, Sugimori H, et al.	放射線診断科	Effect of respiratory and cardiac gating on the major diffusion-imaging metrics.	Neuroradiol J. 2016 Aug;29(4):254-9.	Original Article

349	Fujima N, Yoshida D, Sakashita T, et al.	放射線診断科	Prediction of the treatment outcome using intravoxel incoherent motion and diffusional kurtosis imaging in nasal or sinonasal squamous cell carcinoma patients.	Eur Radiol. 2017 Mar;27(3):956-965.	Original Article
350	Kudo K, Liu T, Murakami T, et al.	放射線診断科	Oxygen extraction fraction measurement using quantitative susceptibility mapping: Comparison with positron emission tomography.	J Cereb Blood Flow Metab. 2016 Aug;36(8):1424-33.	Original Article
351	Kudo K, Uwano I, Hirai T, et al.	放射線診断科	Comparison of Different Post-Processing Algorithms for Dynamic Susceptibility Contrast Perfusion Imaging of Cerebral Gliomas.	Magn Reson Med Sci. 2017 Apr 10;16(2):129-136.	Original Article
352	Fujima N, Sakashita T, Homma A, et al.	放射線診断科	Advanced diffusion models in head and neck squamous cell carcinoma patients: Goodness of fit, relationships among diffusion parameters and comparison with dynamic contrast-enhanced	Magn Reson Imaging. 2017 Feb;36:16-23.	Original Article
353	Wang J, Kato F, Yamashita H, et al.	放射線診断科	Automatic Estimation of Volumetric Breast Density Using Artificial Neural Network-Based Calibration of Full-Field Digital Mammography: Feasibility on Japanese Women With and Without	J Digit Imaging. 2016 Nov 10 (オンライン)	Original Article
354	Yabusaki S, Oyama-Manabe N, Manabe O, et al.	放射線診断科	Characteristics of immunoglobulin G4-related aortitis/periaortitis and periarteritis on fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography co-	EJNMMI Res. 2017 Feb 27 (オンライン)	Original Article
355	Soyama T, Yoshida D, Sakuhara Y, et al.	放射線診断科	The Steerable Microcatheter: A New Device for Selective Catheterisation.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2017 Jan 30 (オンライン)	Original Article
~					

計 355件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Yasuda S.	内科Ⅱ	【リウマチ性疾患に使用する免疫抑制薬の使い方】 ミコフェノール酸モフェチル	リウマチ科 2016 Sep; 56(3): 249-254	Others
2	Bohgaki T, Atsumi T.	内科Ⅱ	【次世代の膠原病治療】 膠原病治療に対する末梢血幹細胞移植は免疫抑制剤治療を超えるか?	分子リウマチ治療 2016 Jul; 9(3): 111-115	Others
3	Oku K.	内科Ⅱ	【リウマチ性疾患の分類基準と治療ガイドライン:エキスパートにおける必要性とその使い方】 全身性エリテマトーデス	炎症と免疫 2016 Apr 24(3) :207-212	Others
4	Kato M.	内科Ⅱ	【生物学的製剤の併用薬の意義】 生物学的製剤投与時の感染症予防投薬の適応	Rheumatology Clinical Research 2016 Aug; 5(2) :108-111	Others
5	OOMURA K, Atsumi T.	内科Ⅱ	(Part3)薬物治療の新しい話題 薬物治療 バイオ製剤の新しい知見<バイオリジナル製剤>TNF阻害剤 Fc領域を持たないTNF阻害剤セルトリズマブ	Bone Joint Nerve 2016 Apr; 6(2) :371-377	Others
6	Nakamura H, Atsumi T.	内科Ⅱ	【後天性凝固異常症の病態と診療】 抗リン脂質抗体症候群	Thrombosis Medicine 2016 Jun; 6(2): 137-142	Others
7	Hisada R, Atsumi T.	内科Ⅱ	【血栓性微小血管症(TMA) 膠原病	血栓と循環 2016 Jul; 24(1): 48-52	Others
8	KONO M, Atsumi T.	内科Ⅱ	全身性エリテマトーデスに対する免疫抑制治療中に多発肺粒状影および下肢蜂窩織炎が出現した女性、原因は?	Rheumatology Clinical Research 2016 Aug; 5(2): 140-143	Others
9	Shibata Y, Atsumi T.	内科Ⅱ	【膠原病疾患の治療の最新情報】 IL-17、IL-12/23標的治療	Rheumatology Clinical Research 2016 Apr; 5(1): 14-18	Others
10	Tanimura S, Atsumi T.	内科Ⅱ	【免疫疾患のtrends & topics 2017】 SLE 新規治療薬 belimumab、HCQ、MMFを含めて	Mebio 2016 Oct; 33(10): 11-17	Others
11	Omori K, Yamamoto K, Dannoura M, et al.	内科Ⅱ	Carney complexと診断しPRKARIA遺伝子に新規変異を認めた一例	日本内分泌学会雑誌 2016 Jul; 92 :18-21	Original Article
12	Takase T, Kameda R, Edakawa S, et al.	内科Ⅱ	短期的な血糖コントロールによる神経機能の改善効果:簡易神経伝導測定機器(DPNチェックHDN-1000)を用いた検討	Diabetes Frontier Online 2016 Dec; 3:16-19	Original Article
13	Miyoshi H.	内科Ⅱ	薬物療法 最新知見 薬物療法Update	DM Ensemble 2016 Nov; 5巻増刊号 : 35	Others
14	Miyoshi H.	内科Ⅱ	【進化する糖尿病治療!~話題の新薬と治療法~】 内服薬 SGLT2阻害薬の多臓器保護効果など最新の話題	月刊糖尿病 2016 Oct 8(10) :16-23	Others
15	Miyoshi H.	内科Ⅱ	新・相談コーナー せんせい教えてください! 低血糖を繰り返していると認知症になりやすいのですか?	さかえ: 月刊糖尿病ライブ 2016 Sep; 56(9): 54-55	Others
16	Nakamura A, Kitao N, Miyoshi H, et al.	内科Ⅱ	高脂肪食負荷誘導性膵β細胞増殖メカニズムの検討	日本病態栄養学会誌 2016 Dec;20巻Suppl. : 104	Others
17	Nakamura A, Takahashi K, Kitao N, et al.	内科Ⅱ	グルコキナーゼ活性化薬による膵β細胞増殖機構の解明	糖尿病 2016 Apr; 5巻Suppl.1 :353	Others
18	Nishio S.	内科Ⅱ	多発性嚢胞腎の高血圧に関わる嚢胞増悪因子の解析と治療法の解明	別冊Bio Clinica: 慢性炎症と疾患 2016 Nov;5(4) : 160-164	Original Article

19	Nishio S.	内科Ⅱ	多発性嚢胞腎とcilia	腎と透析 2016 Sep; 81(3) : 434-437	Others
20	Nishio S.	内科Ⅱ	【多発性嚢胞腎-基礎と臨床のトピックス】 基礎 ADPKDにおける代謝系細胞内情報伝達	腎と透析 2016 Jun; 80(6) : 813-816	Others
21	Ikezawa Y, Mizugaki H, Okada H, et al.	内科Ⅰ	指尖転移をきたした肺扁平上皮癌の1例	日本呼吸器学会誌 2016 Jul; 5(4) : 189-193	Case report
22	Oizumi S	内科Ⅰ	【肺がん薬物治療2016】抗PD-1/PD-L1抗体による肺がん治療 2016年アップデート	Mebio 2016 Jun; 33(6) :4-12	Others
23	Suzuki M, Nishimura M.	内科Ⅰ	【COPDの管理と治療】薬物療法 重症度、フェノタイプに応じた 治療選択	呼吸器内科 2016 Dec; 30(6) :482-486	Others
24	Suzuki M, Makita H, Konno S, et al.	内科Ⅰ	慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者における喘息様検査所見と臨床 経過との関連:北海道COPDコホート研究より	北海道医誌 2016 Dec; 91(2) :78	Others
25	Nasuhara Y, Houkin K.	内科Ⅰ	医療安全	脳神経外科学Ⅰ 2016 Apr; 改訂12版 :757-777	Others
26	Kawamura H, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科Ⅰ	Reduced port surgeryによる胃癌・大腸癌同時切除6例の経験	2016 Apr; 70(5) :695-700	Case report
27	Tsuruga Y, Taketomi A.	消化器外科Ⅰ	【でっかくドヘン!オールカラー図解でみるみるわかる 新人ナース のための消化器外科 術前後ケアQ&A102】(1章)消化器臓器 のしくみとはたらきQ&A	消化器外科Nursing 2016, Apr; 春季増刊 :32-55	Others
28	Ohhira M, Homma S, Shibasaki S, et al.	消化器外科Ⅰ	腸重積を伴う大腸癌に対し整復せずに待期的腹腔鏡下切除が 可能であった3例	日本消化器外科学会雑誌 2016 Apr; 49(4) :350-359	Original Article
29	Kobayashi N, Kamiyama T, Orimo T, et al.	消化器外科Ⅰ	腺癌を合併した難治性感染を伴う多発性肝嚢胞の1例	日本臨床外科学会雑誌 2016 May; 77(5) :1207-1211	Original Article
30	Obuchi K, Kamiyama T, Orimo T, et al.	消化器外科Ⅰ	パッチ再建を用いて切除した中肝静脈浸潤を伴う大腸癌肝転移 の2例	日本臨床外科学会雑誌 2016 May; 77(5) :1212-1216	Original Article
31	Minato M, Taketomi A.	消化器外科Ⅰ	【ざばり1ページ解説!術後ドレーンの知識・看護のまるわかりノート】 消化器外科ドレーンの基礎知識	消化器外科Nursing 2016 Jun; 21(6) : 484-497	Others
32	Sakamoto S, Kamachi H, Tsuruga Y, et al.	消化器外科Ⅰ	胆嚢摘出から26年後に発症した遺残胆嚢管癌の1例	日本臨床外科学会雑誌 2016 Jun; 77(6) :1529-1534	Original Article
33	Taketomi A.	消化器外科Ⅰ	【分子標的薬を用いた術後治療】肝がんに対する分子標的薬 を用いた外科術後治療の現状	がん分子標的治療 2016 Jul; 14(2) :205-209	Others
34	Oota T, Shibasaki S, Yoshida T, et al.	消化器外科Ⅰ	無症候性バラガングリオーマの1例	日本臨床外科学会雑誌 2016 Jul; 77(7) :1831-1836	Original Article
35	Senda K, Kamiyama T, Orimo T	消化器外科Ⅰ	99mTc-GSA SPECT/CT fusion imageによる術前肝予備能評価が 有用であった巨大肝血管腫の1例	日本消化器外科学会雑誌 2016 Sep; 49(9) :882-888	Original Article
36	Imaizumi K, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科Ⅰ	横行結腸mixed adenoneuroendocrine carcinomaの長期無再発生 の1例	日本消化器外科学会雑誌 2016 Oct; 49(10) :1045-1052	Original Article
37	Homma S, Yoshida T, Ichikawa N, et al.	消化器外科Ⅰ	【大腸癌update-基礎と臨床の研究動向-】大腸癌 臨床と研究の 歴史と現状	日本臨床 2016 Nov; 74(11) :1781-1785	Others
38	Abe H, Einama T, Kanazawa R, et al.	消化器外科Ⅰ	腹腔鏡下手術におけるエノキサパリンナトリウム投与の使用経験	日本外科系連合学会誌 2016 Dec; 41(6) : 897-901	Original Article
39	Wakayama K, Kamiyama T, Taketomi A.	消化器外科Ⅰ	進行肝細胞癌に対する治療戦略(集学的治療を含めて)	外科 2017 Feb; 79(2) : 118-123	Original Article
40	Obuchi K, Kamiyama T, Orimo T, et al.	消化器外科Ⅰ	パッチ再建を用いて切除した中肝静脈浸潤を伴う大腸癌肝転移 の2例	日本臨床外科学会雑誌 2016 Nov; 77(5) :1212-1216	Case report
41	Fujii Y, Kamachi H, Tsuruga Y, et al.	消化器外科Ⅰ	膵十二指腸動脈アーケードを温存し膵頭十二指腸切除術を施行 し得た1例	日本臨床外科学会雑誌 2016 Sep; 77(9) :2329	Case report
42	Fukai M, Shimada S, Kobayashi N, et al.	消化器外科Ⅰ	低温酸素化状態における14-3-3 zetaによるエネルギー産生と細胞 内シグナルの制御 ヒト尿管上皮細胞株(HK2)を用いた検討	日本外科学会定期学術集会抄 録集 2016 Apr; 116: 92-8	Others
43	Nomura T.	皮膚科	【子どもの皮膚を診る】角化症 魚鱗癬	小児内科 2016 Apr; 48(4) :498-502	Others
44	Fujimura Y.	皮膚科	【皮膚科で診るSTI(2)梅毒-the great imitator】(Part2.)梅毒での 多彩な皮膚・粘膜症状(case 08) 梅毒性アンギーナ(1)	Visual Dermatology 2016 Aug; 15(9) :920-921	Others
45	Tujiwaki M, Hoshina D, Furuya K, et al.	皮膚科	【悪性上皮系腫瘍】側胸部に発生した巨大基底細胞癌の1例	皮膚科の臨床 2016 Aug; 58(9) :1368-1369	Original Article
46	Nishie W.	皮膚科	DPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡	西日本皮膚科 2016 Dec; 78(6) :583-588	Review
47	Shiba K, Moriuchi R, Morita Y, et al.	皮膚科	BRAF阻害薬による結節性紅斑様皮疹	癌と化学療法 2016 May; 43(5) :649-652	Original Article
48	Imafuku K, Yoshino K.	皮膚科	【免疫チェックポイント阻害薬のirAE】(Part2.)どのようなirAEに 対してどう対応したか(case 02) インフリキシマブを使用した間質性 肺炎	Visual Dermatology 2016 May; 15(5) :576-578	Others
49	Nakazato S, Shimizu H.	皮膚科	【皮膚かたちアトラス(2)】(Part1.)肉眼でみる「かたち」(atlas 02) 局面とはこういう概念だ!	Visual Dermatology 2016 Oct; 15(11) :1092-1093	Others
50	Nakazato S, Shimizu H.	皮膚科	【皮膚かたちアトラス(2)】(Part1.)肉眼でみる「かたち」(atlas 01) 斑とはこういう状態のことだ!	Visual Dermatology 2016 Oct; 15(11) :1090-1091	Others

51	Ujije H.	皮膚科	【肥満細胞は今】自己免疫性水痘症と肥満細胞	皮膚アレルギーフロンティア 2016 Jul; 14(2) : 77-80	Others
52	Mizunoya K, Yokoyama K, Katayama K, et al.	麻酔科	前額部に貼付した体温測定プローブの干渉により脳波エントロピーが異常高値を示した1症例	麻酔 2016 Dec; 65(12) : 1279-1281	Original Article
53	Nishikawa N, Morimoto Y	麻酔科	【麻酔と免疫①】吸入麻酔薬と免疫	臨床麻酔 2016 Jun; 40(6) : 840-846	Others
54	Mizunoya K, Morimoto Y.	麻酔科	【麻酔関連機器の現況と課題】脳波モニタと筋弛緩モニタ	医療機器学 2016 Dec; 86(6) : 543-548	Others
55	Miura M, Tsuruga K, Takikawa C.	麻酔科	【そろそろ、メサドン?「4段階目」の新規麻薬の実践上のコツ】メサドンの投与方法 stop and goか3-days switchか	緩和ケア 2016 Nov; 26(6) :409-414	Others
56	Suzuki T, Hatakeyama H, Yasukawa S, et al.	耳鼻咽喉科	当院におけるバイオバクシステム構築の取り組み	耳鼻咽喉科展望 2016 Dec; 59(6) :371-376	Others
57	Fujiwara K, Furuta Y, Aoki W, et al.	耳鼻咽喉科	当科における顔面神経麻痺患者に対するメーキャップ治療の現況	Facial N Res Jpn 2016; 36 :152-153	Others
58	Nakamaru Y.	耳鼻咽喉科	【喘息と耳鼻咽喉科疾患】アレルギー性鼻炎と気管支喘息の関連	ENTONI 2016 Sep; 197: 7-12	Others
59	Mizumachi T, Nakazono A, Sakashita T, et al.	耳鼻咽喉科	喉頭腫瘍におけるHPV感染の検討	日本気管食道学会会報 2016 Apr; 67(2): 61	Others
60	Sakashita T, Homma A, Tsushima N, et al.	耳鼻咽喉科	舌癌N0症例における予防的頸部郭清術の役割と潜在的頸部転移陽性率に関する検討	口腔・咽頭科 2016 Aug; 29(3): 401	Others
61	Sakashita T, Tsushima N, Homma A, et al.	耳鼻咽喉科	下咽頭癌に対するCisplatin週1回放射線化学療法と導入化学療法の有効性と治療完遂率に関する検討	口腔・咽頭科 2016 Jun; 29(2): 169-174	Original Article
62	Sakashita T.	耳鼻咽喉科	症例から学化学療法4 動注化学療法の症例	頭頸部癌FRONTIER 2016; 4: 58(114)-60(116)	Case report
63	Kanou S.	耳鼻咽喉科	中咽頭癌に対する集学的治療 中咽頭癌に対する放射線化学療法法の検討 多施設による後方視的観察研究	耳鼻と臨床 2016 Nov; 62, Suppl.1S9-S16,S28-S29	Original Article
64	Kitamura K, Yoshihara T, Hoshino M, et al.	小児・障害者歯科	小児歯科診療における内在する情動変化の評価方法に関する研究 皮膚電気活動と短時間心拍変動解析の比較	小児歯科学雑誌 2016 Nov; 54(4): 450-461	Original Article
65	Washizu T, Sugaya T.	歯周・歯内療法科	4-META/MMA-TBBレジンシーラーとレジン製ポイントを用いた根管充填による垂直歯根破折抵抗性	接着歯学 2016 Apr; 34(1) : 9-15	Original Article
66	Kato A, Miyazawa Y, Ogawa K, et al.	歯周・歯内療法科	β-トリリン酸カルシウムナノ粒子配合カラーゲンスキャフォールドのイヌ抜歯窩骨形成促進効果	日本歯科保存学雑誌 2016 Aug; 59(4) :351-358	Original Article
67	Miyazawa H, Nishida E.	歯周・歯内療法科	カーボンナノシート新素材『酸化グラフェン』の歯周病治療への展開	日本歯周病学会会誌 2016 Jul; 58(2): 65-71	Review
68	Kaneko T, Otsuka M, Iida J.	矯正歯科	歯科矯正治療時の歯痛緩和に対するアロマセラピーの有用性	アロマセラピー学雑誌 2016 Sep; 17(1) :31-38	Original Article
69	Ito M, Takahata M, Sudo H, et al.	整形外科	骨粗鬆症性椎体骨折後後彎症(OPK)の病態と治療戦略 骨粗鬆症性椎体圧潰による遅発性麻痺の病態と治療 前方法vs.後方法	日本整形外科学会雑誌 2016 Sep; 90(9): 577-583	Others
70	Takahata M.	整形外科	【ハイブリッド手術室とは-現状と将来-】脊椎外科手術におけるハイブリッド手術室の現状と将来	臨床麻酔 2016 Sep; 40(9) :1258-1262	Others
71	Irie T, Takahashi D, Asano T, et al.	整形外科	Modified Watson-Jones法とposterolateral法によるTHA術後深部静脈血栓症の発生率・発生部位の比較検討	Hip Joint 2016 Aug; 42(1) : 536-539	Original Article
72	Asano T, Takahashi D, Irie T, et al.	整形外科	大腿骨転子間彎曲内反骨切り術後の内反進行例の検討	Hip Joint 2016 Aug; 42(1): 297-301	Original Article
73	Asano T, Takahashi D, Irie T, et al.	整形外科	著明な骨欠損を伴うTHA再置換術後感染性ゆるみに対しteriparatideを併用して二期的再置換術を施行した1例	Hip Joint 2016 Aug; 42(2) :790-794	Original Article
74	Iwata A, Kadoya K, Sudo H, et al.	整形外科	【骨折(四肢・脊椎・骨髄外傷)の診断と治療(その1)] 脊椎 脊椎椎体(頸椎・胸椎・腰椎) 脊椎外傷に対する手術的治療の適応と方法	別冊整形外科 2016 Oct; 70: 152-158	Others
75	Sasazawa F, Uchida J, Kanayama M, et al.	整形外科	当院におけるimpaction bone grafting法による寛骨臼側再置換術の短中期成績の解析	Hip Joint 2016 Aug; 42(2) :811-815	Original Article
76	Shimodan S, Irie T, Takahashi D, et al.	整形外科	人工股関節全置換術後における医師主導型評価と患者立脚型評価の相関性の検討	Hip Joint 2016 Aug; 42(1): 124-128	Original Article
77	Yabuuchi K, Onodera T, Kameda T, et al.	整形外科	内側楔状開大式高位脛骨骨切り術後のスポーツ復帰に関する検討	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Oct; 58(1) :93-94	Others
78	Shimizu T, Takahata M, Kameda H, et al.	整形外科	ビタミンK依存性グラ化オステオカルシンは副甲状腺ホルモン製剤の骨治癒効果に影響する	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Oct; 58(1) :9-14	Original Article
79	Tsujimoto T, Kotani Y, Jotoku Z, et al.	整形外科	首下がり症状を呈する高度頸椎後彎症に対し手術加療を行った2症例	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Apr; 57(2) : 269-274	Original Article
80	Suzuki Y, Uchida J, Sasazawa F, et al.	整形外科	多数回の骨折を繰り返した糖尿病性足部シャルコー関節の治療経験	日本足の外科学会雑誌 2016 Sep; 37(1) :367-370	Original Article
81	Matsumae G, Konno T, Takahashi D, et al.	整形外科	前立腺癌の溶骨性骨転移を右寛骨臼に発症し股関節中心性脱臼をきたした1例	Hip Joint 2016 Aug; 42(1): 195-198	Original Article
82	Kida H, Takahata M, Kokabu T, et al.	整形外科	髄核脱出を伴った小児一過性頸椎椎間板石灰化症の1例	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Oct; 58(1) :130	Case report

83	Kida H, Suda K, Matsumoto S, et al.	整形外科	手術困難のために遅発性麻痺を生じたびまん性特発性骨増殖症(DISH)脊椎骨折の1例	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Oct; 58(1) :61-64	Original Article
84	Koike Y, Takahashi M, Iwata R, et al.	整形外科	児童期に発症した腰椎椎間板ヘルニアの特徴	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Apr; 57(2) :279-282	Original Article
85	Iwasaki K, Inoue M, Kiyofuji N, et al.	整形外科	Blumensaat's線がQuadrant法による大腿骨骨孔位置に与える影響	JOSKAS 2016 Jul; 41(4): 163	Others
86	Fukui T, Suda K, Endo T, et al.	整形外科	迅速な整復固定の重要性を示唆した頰椎脱臼骨折の1例：例え運動完全麻痺であっても超早期手術により下肢筋力は完全回復する可能性がある	北海道整形災害外科学会機関誌 2017 Mar; 58(2) :203-206	Others
87	Ebata T, Urita A, Funakoshi T, et al.	整形外科	内反肘変形を伴った肘関節後外側回旋不安定症の一例	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Oct; 58(1): 69-74	Case report
88	Terashima R, Onodera T, Iwasaki M, et al.	整形外科	iPS細胞とES細胞の神経分化過程における糖鎖構造の比較	北海道整形災害外科学会雑誌 2016 Oct; 58(1): 1-8	Original Article
89	Masuko T, Uesugi K, Iwasaki M.	整形外科	CRPSによる痛みに対する主観的評価とMRIを用いた客観的評価の相関	日本手外科学会雑誌 2016 Nov; 33(2) :172-175	Original Article
90	Takahashi K, Haba H, Sasaki T, et al.	整形外科	Gamma nail抜釘後の大腿骨骨頭下骨折の危険性	骨折 2016 Sep; 38(4) :955-960	Original Article
91	Hamano H, Takahata M, Oota M, et al.	整形外科	最新基礎科学 知っておきたい 脊椎骨増殖性病変と骨粗鬆症を併存するびまん性特発性骨増殖症に対するアリバチドの治療効果 靱帯骨化石灰化症自然発症モデルマウス(twy/twy)を用いた	臨床整形外科 2016 May; 51(5) :458-465	Original Article
92	Abiko K, Khin Khin Tha, Ikoma K.	リハビリテーション科	研究と報告 高次脳機能障害が後遺したびまん性軸索損傷に拡散テンソル画像のvoxel-based analysisを施行した5例	総合リハビリテーション 2016 Aug; 44(8): 703-710	Original Article
93	Ikeda S, Tohyama H, Ikoma K.	リハビリテーション科	回復期リハビリテーション病棟に入院し、退院後外来フォローが可能であった骨粗鬆症性椎体骨折連鎖の検討	Journal of Clinical Rehabilitation 2016 Nov: 25(11)	Original Article
94	Hirata K, Toyonaga T, Tamaki N.	核医学診療科	【高精度放射線治療のための最適な画像診断に向けて】放射線治療計画におけるPET/CTの役割 低酸素イメージングを中心に	臨床放射線 2016 Dec; 61(13) :1759-1764	Others
95	Murayama A, Manabe O, Masuda A, et al.	核医学診療科	絶食時間、通院状況が及ぼす心筋糖代謝領域への影響	臨床放射線 2016 Sep; 61(9) :1135-1139	Original Article
96	Kase S.	眼科	眼瞼・結膜セミナー 結膜メラノシスと悪性黒色腫	あたらしい眼科 2017 Mar; 34(3): 393-394	Original Article
97	Tagawa Y, Ishida S.	眼科	【世界のトップを走る日本のドライアイ最前線】痛みをターゲットとしたドライアイ治療	あたらしい眼科 2017 Mar; 34(3): 341-346	Original Article
98	Noda K.	眼科	【眼科における薬物療法パーフェクトガイド】網膜疾患 糖尿病黄斑浮腫	OCULISTA 2017 Mar; 48: 100-106	Original Article
99	Iwata D, Kitaichi N.	眼科	【眼科における薬物療法パーフェクトガイド】ぶどう膜炎 ベーチェット病	OCULISTA 2017 Mar; 48: 59-64	Original Article
100	Namba K.	眼科	非感染性ぶどう膜炎における生物学的製剤の適応	クリニシアン 2017 Jan; 64(1) :76-83	Original Article
101	Kijima R, Chin S, Shinmei Y, et al.	眼科	360° Suture Trabeculectomy変法とTrabeculectomyの術後眼圧下降効果の比較検討	あたらしい眼科 2016 Dec; 33(12) :1779-1783	Original Article
102	Iwata D, Namba K.	眼科	【眼科医のための救急マニュアル】ぶどう膜炎の救急	OCULISTA 2016 Nov; 44: 19-25	Original Article
103	Kase S.	眼科	眼部悪性リンパ腫、悪性黒色腫の診断と臨床病理学的研究	日本眼腫瘍学会誌 2016 Sep; 5: 8-15	Original Article
104	Hashimoto Y, Namba K, Ishida S.	眼科	【眼科検査の最新情報】ぶどう膜 Laser speckle flowgraphyでみるぶどう膜疾患	眼科 2016 Oct; 58(11): 1200-1206	Original Article
105	Kase S.	眼科	【私の診療～匠の技～】眼底の腫瘍	Retina Medicine 2016 Oct; 5(2) :145-151	Original Article
106	Noda K, Ishida S.	眼科	【眼疾患の治療】糖尿病網膜症	医学と薬学 2016 Aug; 73(9) :1135-1142	Original Article
107	Kase S, Noda K.	眼科	【網膜硝子体疾患の薬物療法-どこまでできるか?-】各種脈絡膜新生血管に対する薬物療法	OCULISTA 2016 Aug; 41: 31-38	Original Article
108	Kanda A, Ishida S.	眼科	【エイジングからみた加齢眼疾患】エイジングからみた糖尿病網膜症	眼科 2016 Jun; 58(6): 643-649	Original Article
109	Kanda S.	眼科	糖尿病合併症の成因Up to Date その発症機序の解明に迫る 糖尿病網膜症における受容体結合プロレニン系の関与	糖尿病合併症 2016 Jun; 30(1) :26-28	Original Article
110	Hashimoto Y.	眼科	【新人視能訓練士の困りどころをズバッと解決 眼科の12検査がスムーズに進むアドバイス23】網膜電図	眼科ケア 2016 Jun; 18(6) :581-583	Others
111	Hashimoto Y.	眼科	【新人視能訓練士の困りどころをズバッと解決 眼科の12検査がスムーズに進むアドバイス23】眼底写真撮影	眼科ケア 2016 Jun; 18(6): 567-572	Others
112	Namba K.	眼科	【研修医のための救急疾患】ぶどう膜炎の救急	Retina Medicine 2016 Apr; 5(1) :20-24	Original Article
113	Noda K, Ishida S.	眼科	【新時代の臨床糖尿病学(下)-より良い血糖管理をめざして-】糖尿病合併症の病態・診断・治療 慢性合併症 糖尿病に起因する眼疾患 糖尿病網膜症の成因	日本臨床 2016 Apr; 74(増刊2) :107-111	Original Article
114	Oki S, Matsuda Y, Hashimoto N, et al.	歯冠修復科	フッ化物徐放性材料の象牙質表面への塗布による脱灰抑制効果	日本歯科保存学雑誌 2016 Aug; 59(4) :359-369	Original Article

115	Matsumoto M, SAIKAEW P, EAMSA-ARD, P, et al.	歯冠修復科	スマヤー層の違いがユニバーサル型ワンステップセルフエッチングアドヒーズの象牙質接着性能に及ぼす影響	接着歯学 2016 Nov; 34(3):109	Original Article
116	Matsumoto M, RIME S. A., et al.	歯冠修復科	様々な厚さの象牙質を用いた新規微小引張試験に関する研究	接着歯学 2016 Nov; 34(3):102	Original Article
117	Nakazawa S, Sakata K, Yokoyama A, et al.	高齢者歯科	舌痛症に対する立効散含嗽の補助療法としての有効性	痛みと漢方 2016 May; 26:157-162	Original Article
118	Kashiwazaki H, Yamazaki Y.	高齢者歯科	産学連携による次世代型電解水を用いた口腔ケアシステムの開発	北海道歯学雑誌 37(1):51-52	Original Article
119	Inoue S.	口腔総合治療部	歯質との反応機序から接着システムを考える	日本歯科保存学雑誌 2016 Oct; 59(5) : 389-393	Original Article
120	Kaneko T, Otsuka M, Iida J.	高次口腔医療センター	歯科矯正治療時の歯痛緩和に対するアロマセラピーの有用性	アロマセラピー学雑誌 2016 Sep; 17(1):31-38	Original Article
121	Gotoda A, Yamaguchi T, Kaneko T, et al.	高次口腔医療センター	クローズドロックに継発する前歯部開咬の臨床的特徴	日本補綴歯科学会誌 2016 Jul; 8(3) :281-288	Original Article
122	Nakajima T, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義歯補綴科	顎機能異常者の睡眠時と食事時における咬筋活動の比較検討	北海道歯学雑誌 2016 Sep; 37(1) : 11-19	Original Article
123	Nakajima T, Yamaguchi T, Mikami S, et al.	冠橋義歯補綴科	ブラキシズム患者の日常生活における咀嚼時咬筋電図%MVC値と最大咬合力の関係	日本顎口腔機能学会雑誌 2017 Mar; 23(1): 10-16	Original Article
124	Takeda A	小児科	不整脈原性右室心筋症の臨床分子遺伝学	日本小児循環器学会雑誌 2016 May; 32:179-180	Original Article
125	Yamazawa H.	小児科	疾患概念の変遷から注目される炎症性筋線維芽細胞腫瘍	日本小児循環器学会雑誌 2016 Aug; 32 (4) 321-322	Original Article
126	Shirai S, Yabe I, Tanaka M, et al.	神経内科	【小脳症候・運動失調】眼球運動のviscosite	神経内科 2016 Jul; 85(1) Page51-55	Others
127	Takahashi I, Sasaki H.	神経内科	神経疾患治療の進歩2015年】腫瘍性および肉芽腫性疾患の治療の進歩	神経治療学 2016 Jul; 33(4) 533-536	Others
128	Yabe I, Sasaki H.	神経内科	【神経疾患治療の進歩2015年】脊髄小脳変性症の治療の進歩	神経治療学 2016 Jul; 33(4) 522-528	Others
129	Kubo K, Kawakami H, Kubota Y, et al.	消化器内科	7年間の経過で形態が変化した胆嚢線維性ポリープの1例	胆道 2016 Nov; 30(4): 723-730	Case report
130	Kuwatani M, Kawakami Y, Sakamoto N.	消化器内科	生涯教育シリーズ 消化器疾患診療の最前線 胆膵疾患に対する内視鏡診断・治療の最前線	北海道医報 2016 May; 1172: 8-12	Others
131	Sakamoto N, Suda T, Ogawa K, et al.	消化器内科	【インターフェロン・フリーC型肝炎治療】遺伝子型2型C型肝炎の抗ウイルス治療	臨床消化器内科 2016 Sep; 31(11) 1475-1479	Others
132	Kinukawa S.	循環器内科	重症心不全に対するチーム医療	CARDIAC PRACTICE 2016 Aug; 27(3):47-51	Original Article
133	Kinukawa S.	循環器内科	【そこが識りたい補助循環-現場で活かすbest strategy-】診る右心カテテル検査をいつ行うか?	Heart View 2016 Apr; 20(4) : 314-318	Others
134	Kurisu K, Abumiya T, Nakamura H, et al.	脳神経外科	Transarterial Regional Brain Hypothermia Inhibits Acute Aquaporin-4 Surge and Sequential Microvascular Events in Ischemia/Reperfusion Injury.	Neurosurgery. 2016 Jul;79(1):125-34.	Original Article
135	Furukawa K, Abumiya T, Sakai K, et al.	脳神経外科	Measurement of human blood viscosity by an electromagnetic spinning sphere viscometer.	J Med Eng Technol. 2016 Aug;40(6):285-92.	Original Article
136	Furukawa K, Abumiya T, Sakai K, et al.	脳神経外科	Increased Blood Viscosity in Ischemic Stroke Patients with Small Artery Occlusion Measured by an Electromagnetic Spinning Sphere Viscometer.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 Nov;25(11):2762-2769.	Original Article
137	Kurisu K, Abumiya T, Ito M, et al.	脳神経外科	Transarterial regional hypothermia provides robust neuroprotection in a rat model of permanent middle cerebral artery occlusion with transient collateral hypoperfusion.	Brain Res. 2016 Nov 15;1651:95-103.	Original Article
138	Shinohara N.	泌尿器科	【圧とずれからみた褥瘡の治療・ケア～徹底した圧とずれの排除を考える～】圧とずれを考えた予防的ドレッシング 臨床実践 ネクサバール使用に伴い発症する手足皮膚反応(HFS)に対するリモイ	WOC Nursing 2016 Aug; 4(8) : 97-102	Original Article
139	Shinohara N.	泌尿器科	【ここまで進歩した腎がん診療】有転移腎がんのリスクファクター	医学のあゆみ 2016 May; 257(9) :897-901	Others
140	Kitta T, Kanno Y, Chiba H, et al.	泌尿器科	当院における抗コリン薬とβ3作動薬の併用療法についての検討	日本女性骨盤底医学会誌 2016 Dec; 13(1): 140-141	Original Article
141	Abiko M.	病理部	肺癌EGFR遺伝子変異検査におけるビットフォール	検査と技術 2016 Jun; 44(6): 508-510	Original Article
142	Hatanaka K, Marukawa K, Matsuno Y.	病理部	第36回北海道臨床細胞学会学術集会スライドセミナー 総合科症例	北海道臨床細胞学会会報 2016 Oct; 25 :71-74	Case report
143	Marukawa K.	病理部	【はじめて出会う検査画像】(6章)病理 石綿(アスベスト)による疾患の労災認定と石綿小体の観察	検査と技術 2016 Sep; 44(10): 974-976	Others
144	Hatanaka Y.	病理部	悪性腫瘍に対する分子標的治療薬 現状と今後(第6回) 消化管がん領域のコンパニオン診断	病理と臨床 2016 Sep; 34(9): 989-994	Others
145	Miyakoshi R, Marukawa K.	病理部	消耗性色素を利用した染色法を比較する—シユモール反応を中心に	検査と技術 2017 Feb; 45(2): 112-116	Others
146	Matsui Y.	循環器・呼吸器外科	第3部)外科臨床研究の実践 重症心不全外科領域における臨床研究	日本外科学会雑誌 2016 Nov; 117(6): 612-614	Original Article

147	Matsui Y.	循環器・呼吸器外科	まいってくにつく 機能性僧帽弁閉鎖不全に対する乳頭筋吊り上げのコツ	胸部外科 2016 Oct; 69(11): Page898	Others
148	Wakasa S, Matsui Y.	循環器・呼吸器外科	【心臓・大血管疾患に対する外科治療】低侵襲手術時代の胸腹部大動脈瘤手術 脊髄虚血予防の観点からみた適切な手術法のあり方	北海道外科雑誌 2016 Jun; 61(1) : 7-12	Others
149	Ooka T, Mastusi Y.	循環器・呼吸器外科	【最新冠動脈疾患学(下)-冠動脈疾患の最新治療戦略-】虚血性心筋症の臨床 虚血性心筋症の治療 外科療法 補助人工心臓・心臓移植	日本臨床 2016 Aug; 74(増刊6) : 282-286	Others
150	Sakuhara Y, Abo D, Soya T, et al.	放射線診断科	【穿刺とドレナージ～IVRの基礎と応用】嚢胞性病変に対する経皮的硬化療法	Rad Fan 2016 Jul; 14(9): 45-48	Original Article
151	Abo D, Sakuhara Y, Soya T, et al.	放射線診断科	【胆脾疾患における血管系IVR】脾切除時の血流改変 手技を中心に	胆と脾 2016 May; 37(5) : 427-432	Original Article
152	Fujima N.	放射線診断科	【頭頸部血管イメージングup to date】4D-MRA	臨床画像 2016 Apr; 32(4) :429-437	Others
153	Fujima N.	放射線診断科	【Step up MRI 2016 明日の臨床に向けた撮像法、今日の検査に役立つ撮像テクニック】明日の臨床に向けた撮像法の実践 頭部非造影MRA advanced ASL-based MRAの臨床応用	INNERVISION 2016 Aug; 31(9): 5-8	Original Article
154	Fujima N.	放射線診断科	【高精度放射線治療のための最適な画像診断に向けて】頭頸部腫瘍の治療に必要な画像診断	臨床放射線 2016 Dec; 61(13): 1743-1750	Others
～					

計 154件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 北海道大学病院で実施される臨床研究が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に適合して運用されるために「北海道大学病院における臨床研究の取扱いに関する指針」を整備し、臨床研究の分類と担当する委員会、審査に関する手順を定めている。手順書では総則、総長の責務等、病院長の責務等、自主臨床研究審査委員会の責務等、自主臨床研究責任者の責務等、自主臨床研究事務局、個人情報等、研究に係る試料及び情報等の保管の8章72条の手順を規定している。 研究責任者は、該当する審査委員会に審査を受けるための申請を行うこととし、研究者がいずれの審査を受けるべきか判断に苦慮する場合は、本院自主臨床研究委員会事務局へ問い合わせることとなっている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント内規」及び「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー」を整備し、本院において実施する臨床研究に係る利益相反の適切な管理、審査及び指導等について必要な事項を定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年24回
・ 研修の主な内容 ○主に研究者を対象とする「臨床研究に関する研修会」として 8回 開催 (内容) モニタリング、倫理指針、医薬品アクセス制度、First in Human試験に必要な安全性、臨床試験データの信頼性確保、リスク・ベネフィット評価、生物統計、交絡調整の	

方法等をテーマに開催した。

- 主に臨床研究支援者を対象とする「臨床研究開発センター研修」として 16回 開催
(内容) EDCシステムのCSV活動、プロジェクトチーム形成とチーム開発、MedDRA/Jコーディング、プロジェクトのタイム・マネジメント 等をテーマに開催した。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院は北海道の「最後の砦病院」として高度先進医療を実践するとともに、医育大学として初期臨床研修医のほか、各領域の後期研修医（専攻医）や専門医・指導医資格取得者、さらに国外の医師免許取得者（臨床修練医）に対する高度医療技術の維持・習得を目指し、様々な研修を行っています。教育資源としては、大学病院に特有の稀少症例や難治症例に加えて、北海道内の関連病院と連携して多様な臨床経験ができる様、各領域で研修体制を整備しています。このような体制のもと、全人的な診療能力を有する専門医を育成するとともに、リサーチマインドを涵養するため、大学院での研究活動を推奨し、新たな診断治療法の開発をすすめています。

平成30年度から新専門医制度が導入されますが、当院では総合診療科を除く18の基本領域において基幹施設として研修専門委員会を設置し、専門医制度整備指針に則って専門研修プログラムを取りまとめました。初期臨床研修修了後は、各科専門研修プログラムに沿って、当院および研修連携施設において臨床研修を行なって所定の修了要件を満たしますと、各基本領域の専門医資格試験を受験することが可能になります。尚、専門研修プログラムは、女性医師など専攻医の多彩な背景やニーズを考慮して多様な研修が行える様、配慮されています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	636人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
西村 正治	内科 I	特任教授	40 年	内科
有賀 正	小児科	特任教授	39 年	小児科
清水 宏	皮膚科	教授	38 年	皮膚科
久住 一郎	精神科神経科	教授	33 年	精神科
松居 喜郎	循環器・呼吸器外科	教授	37 年	外科
岩崎 倫政	整形外科	教授	29 年	整形外科
櫻木 範明	婦人科	客員教授	41 年	産婦人科
石田 晋	眼科	教授	27 年	眼科
本間 明宏	耳鼻咽喉科	准教授	28 年	耳鼻咽喉科
篠原 信雄	泌尿器科	教授	33 年	泌尿器科
寶金 清博	脳神経外科	教授	38 年	脳神経外科
白土 博樹	放射線治療科	教授	36 年	放射線科
森本 裕二	麻酔科	教授	31 年	麻酔科
松野 吉宏	病理診断科	教授	32 年	病理
清水 力	検査・輸血部	准教授	32 年	臨床検査
丸藤 哲	先進急性期医療センター	特任教授	39 年	救急
山本 有平	形成外科	教授	33 年	形成外科
生駒 一憲	リハビリテーション科	教授	34 年	リハビリテーション

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・別紙のとおり ・ ・
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・該当なし ・ ・

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
1	除細動器	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ57名
2	保育器	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ61名
3	ベネット980	医療機器の安全使用のための研修	年1回	5名
4	植込型補助人工心臓 Heart Mate II	医療機器の安全使用のための研修	年1回	5名
5	シリンジポンプ, 輸液ポンプ講習	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ43名
6	透析液について	医療機器の安全使用のための研修	年1回	22名
7	低圧持続吸引器	医療機器の安全使用のための研修	年1回	15名
8	VN500	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ27名
9	麻酔器について	医療機器の安全使用のための研修	年1回	10名
10	血液浄化療法	医療機器の安全使用のための研修	年1回	34名
11	人工心臓 HAS-CFP	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ13名
12	除細動装置	医療機器の安全使用のための研修	年1回	14名
13	ヘルメット型マスクCastarR	医療機器の安全使用のための研修	年1回	8名
14	V60	医療機器の安全使用のための研修	年1回	10名
15	サーボi	医療機器の安全使用のための研修	年3回	延べ14名
16	クリアサイト(非侵襲心拍出量測定装置)	医療機器の安全使用のための研修	年1回	11名
17	植込み型心臓モニタ	医療機器の安全使用のための研修	年1回	11名
18	ベネット980,840	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ17名
19	透析膜	医療機器の安全使用のための研修	年1回	10名
20	人工呼吸器実際(CEラウンド点検対策)	医療機器の安全使用のための研修	年1回	11名
21	ラウンド点検(CEラウンド点検対策)	医療機器の安全使用のための研修	年1回	9名
22	IABP,PCPSの原理と実際	医療機器の安全使用のための研修	年1回	13名
23	ベネット980,V60(CEラウンド点検対策)	医療機器の安全使用のための研修	年1回	7名
24	Cellsprba	医療機器の安全使用のための研修	年1回	3名
25	気管気切チューブ, 気管吸引, 豚肺ウェットラボ	医療機器の安全使用のための研修	年1回	18名
26	IABPのバルーンについて	医療機器の安全使用のための研修	年1回	9名
27	Airvo2(ネーザルハイフロー)	医療機器の安全使用のための研修	年1回	13名
28	IABP, PCPS	医療機器の安全使用のための研修	年1回	14名
29	人工呼吸器	医療機器の安全使用のための研修	年3回	延べ27名
30	人工呼吸器(サーボi)	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ19名
31	V60 ハンズオントレーニング	医療機器の安全使用のための研修	年1回	11名

32	人工血管	医療機器の安全使用のための研修	年2回	延べ15名
33	HAS HAS-T-1, HPM-2	医療機器の安全使用のための研修	年1回	8名
34	植え込み型補助人工心臓HeartMateII	医療機器の安全使用のための研修	年1回	18名
35	RotaFlow遠心ポンプシステム	医療機器の安全使用のための研修	年1回	9名
36	トラックケア	医療機器の安全使用のための研修	年1回	11名
37	自己血回収装置CATSmart	医療機器の安全使用のための研修	年1回	3名
38	キャピオックスEBS	医療機器の安全使用のための研修	年1回	10名
39	超音波ガイド下穿刺講習会 Venuu	医療機器の安全使用のための研修	年1回	11名
40	血液ガス分析装置ABL800	医療機器の安全使用のための研修	年1回	8名
41	Airseal.iF.S Inteligent Flow System	医療機器の安全使用のための研修	年1回	7名
42	ハプトグロビン, アルブミン製剤	医療機器の安全使用のための研修	年1回	9名
43	VN-500	医療機器の安全使用のための研修	年1回	10名
44	心電計 ECG2550	医療機器の安全使用のための研修	年1回	12名
45	医療技術部研修会「医療従事者が知っておきたい滅菌・消毒の役割」	感染対策に関する研修会	年1回	78名
46	医療技術部研修会「熊本地震での北大DMAT派遣報告」	チーム医療推進のための職種間連携に関する研修会	年1回	65名
47	医療技術部研修会「各部署見学(検査部門)」1回目	チーム医療推進のための職種間連携に関する研修会	年1回	39名
48	医療技術部研修会「各部署見学(検査部門)」2回目	チーム医療推進のための職種間連携に関する研修会	年1回	45名
49	医療技術部研修会「身近にある倫理問題を考えよう ～倫理の基礎知識と倫理検討～」	倫理に関する研修会	年1回	91名
50	平成28年度救急シミュレーション(歯科診療センター第5診療室)	患者急変時の対応訓練	年1回	66名
51	平成28年度日本補綴歯科学会 東北・北海道支部 学術大会 市民フォーラム	生活の質の向上・健康年齢の延長に貢献することを国民に周知させる	年1回	52名
52	北海道大学歯学部第二補綴学教室同門会学術講演会	最新の技術と歯科材料について理解を深める	年2回	延べ89名
56	医事課所属事務補助員(新規採用者)院内感染対策研修「感染制御の基本と北大病院の感染管理」	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	23名
57	初任職員研修「院内感染予防」	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	156名
58	新任事務職員研修「病院事務職員の感染対策」	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	50名
59	新規感染対策マネージャー講習会「感染対策マネージャーの役割」	北海道大学病院内感染対策指針と感染対策マネージャーの役割	年2回	10名
60	感染制御部・医療安全管理部合同講演会「2015年度のインシデントを振り返って」「2015年度の感染症とその対策を振り返って」	1. インシデントを振り返り、医療安全に関する理解を深める 2. 感染制御のための対策を理解する	年3回	1,417名
61	感染制御部・医療安全管理部合同講演会「Bacillus cereus菌血症とその対策」「現場の保全・事実経過の記録」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	518名
62	院内感染対策講演会「感染性胃腸炎とインフルエンザについて」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	163名
63	看護助手研修	チーム医療における看護助手の役割を理解し、実践できる感染について基礎知識を学び、感染予防策を実践する救命救急処置の基本を理解する	年4回	137名
64	専門領域別看護師研修会「標準予防策について」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	36名
65	専門領域別看護師研修会「感染経路別予防策」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	21名
66	専門領域別看護師研修会「血管内留置カテーテル管理」「尿道留置カテーテル管理」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	29名
67	医事課所属事務補助員研修	10月採用の医事課職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	15名

68	職場復帰プログラム	育児休業者が最近の医療・看護の動向を理解し、実践を学ぶことで円滑に職場復帰ができるように支援する	年1回	29名
69	院内学級(小・中学校生徒及び教諭)感染対策講習会「院内感染予防」「手洗い講習」	院内学級生徒及び教諭に対して、必要な基礎知識を付与	年3回	38名
70	看護部初任職員研修	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護業務について理解する	年1回	125名
71	看護助手研修(初任職員研修)	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護助手業務について理解する	年1回	10名
72	看護部初任職員研修(メンタルヘルス研修・中央部門研修)	自部署と関連する中央部門の役割および場を理解するメンタルヘルスサポートを実践できるための知識を得る	年1回	125名
73	医療情報	医療情報システムについて理解する	年3回	125名
74	病院初任職員研修	本院職員としての心構えと必要な知識を身につけ、医療職員としての責任ある行動がとれる	年2回	125名
75	新卒者看護技術研修(採血・口腔ケア)	看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	117名
76	臨地実習担当者研修	基礎教育の理解を深め、臨地実習担当者の役割がわかる	年1回	35名
77	新卒者看護技術研修(注射・ポンプ)	看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	119名
78	看護研究Ⅱ	看護研究のプロセスを学び、研究計画書が立案できる	年1回	7名
79	リーダー研修Ⅰ	看護チームにおけるリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	年2回	49名
80	リーダー研修Ⅱ	問題解決能力を高め、チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる	年3回	20名
81	看護助手研修	看護チームにおける看護助手の役割を理解し、日常業務について考える	年4回	132名
82	看護必要度研修、新卒者看護技術研修(皮膚排泄ケア)	看護必要度について理解する看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	125名
83	再就職者、既卒就職者研修	本院の患者参加型看護・看護記録を理解する	年1回	25名
84	看護倫理研修	チーム医療の中で患者の権利の擁護者として看護師の役割を理解し、看護実践を行う能力を高める	年2回	40名
85	新卒者看護技術研修(心電図・酸素)	看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	101名
86	2年目看護師研修	看護実践者として、看護過程を展開する能力を高め、看護実践を記録できる力を身につける	年2回	87名
87	看護研究Ⅰ	看護研究の基本を学ぶ	年1回	83名
88	新卒者看護技術研修(膀胱・輸血)	看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	114名
89	2年目看護師多重課題研修	患者の心身の状況と業務の関連をアセスメントし優先順位を判断できる	年2回	83名
90	プリセプター研修	プリセプターシップの概念が理解できる	年2回	61名
91	3年目看護師研修	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発を促す	年2回	73名
92	看護とキャリア研修	チーム医療の中で、看護職としてのキャリアを活かした看護実践ができる	年1回	28名
93	新卒者合同研修2、1年目フィジカルアセスメント研修	組織の一員として職種間連携の必要性を理解し、医療職者として責任ある行動について学ぶ専門職業人として、根拠に基づいた予測性のある観察ができる	年1回	117名
94	新卒者看護技術研修(心肺・理学)	看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	114名
95	新卒者看護技術研修(栄養・ドレーン)	看護技術を安全・安楽に提供するために、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	112名
96	家族看護研修	家族看護を学ぶことで、看護実践能力を高める	年2回	38名
97	1年目研修	看護専門職者として、自覚と責任ある行動がとれるための自己の課題が見いだせる	年2回	89名
98	看護記録研修	部署において「患者参加型看護」を推進するための役割が担える	年1回	35名
99	看護必要度研修(指導者)	患者の重症度、看護必要度について適切な評価がおこなえ、部署で指導できる	年1回	50名
100	1年目看護師多重課題研修	多重課題に対して優先順位を判断し、行動できる	年3回	89名

101	静脈注射エキスパートナース研修	静脈注射エキスパートナースとして、実践能力を高め役割を発揮できる	年1回	35名
102	2年目看護師研修(継続)	看護実践者として、看護過程を展開する能力を高め、看護実践を記録できる力をつける	年1回	83名
103	3年目看護師研修(継続)	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発できる	年2回	68名
104	新卒者合同研修3	安全な医療の提供のために、臨床の倫理について考える	年1回	118名
105	静脈注射エキスパート認定研修	安全に静脈注射の実践ができるよう知識・技術を獲得し、スタッフに指導ができる	年3回	37名
106	看護研究Ⅱ(継続)	看護研究のプロセスを学び、研究計画書が立案できる	年1回	7名
107	静脈注射エキスパート更新試験	注射スキルの技術アップを図る	年1回	71名
108	職場復帰直前研修	育児休業者が最近の医療・看護の動向を理解し、実践を学ぶことで円滑に職場復帰ができるように支援する	年3回	延べ30名
109	がん化学療法看護	がん化学療法看護を学ぶ	年3回	135名
110	感染管理	スタンダードプリコーション	年3回	86名
111	皮膚・排泄ケア	DESIGN-Rの使い方 基礎編等を学ぶ	年2回	22名
112	がん看護	がん患者・家族の理解と看護/コミュニケーション	年2回	56名
113	緩和ケア	緩和ケア(症状アセスメン)	年2回	51名
114	救急看護	1次救命処置 2次救命処置 災害時の対応	年4回	157名
115	小児救急看護	小児の1次救命技術	年3回	50名
116	新生児集中ケア	患者の理解を深める	年2回	71名
117	手術看護	がん放射線看護を学ぶ	年2回	45名
118	糖尿病看護	インスリン治療と血糖パターンマネジメント	年2回	44名
119	慢性疾患看護	慢性疾患看護	年2回	32名
120	HIV/AIDS看護	HIVの基礎知識	年1回	5名
121	多職種合同 Team STEPPS研修	プロフェッショナル集団の一員として職種間連携の必要性を理解し部署のリーダーとしてチーム医療を推進する能力を育成するため	年1回	99名
122	神経炎・原田病について	眼科に関する専門知識の向上	年1回	約20名
123	眼球摘出について	眼科に関する専門知識の向上	年1回	約20名
124	糖尿病性網膜症について	眼科に関する専門知識の向上	年1回	約20名
125	インプラント手術のセミナー	眼科に関する専門知識の向上	年1回	約20名
126	研修医 医療安全研修「インシデント事例に学ぶ」	研修医に対してインシデントを振り返り、医療安全に関する理解を深める	年2回	延べ30名
127	特定共同指導シミュレーション	特定共同指導に向けた研修会	年2回	約200名
128	全国共通がん医科歯科連携講習会	周術期口腔管理の知識の習得	年4回	延べ160名
129	助産師・看護師研修「胎児心拍数モニタリングCTGの判読」	CTGの典型的なパターンなどガイドラインに沿って講義を受け、判断力の向上・実践にいかす	年1回	10名
130	助産師・看護師研修「双胎妊娠の管理」	双胎妊娠の基礎知識、合併症などについて学び日ごろのケアにいかせる	年1回	10名
131	助産師・看護師研修「産科救急時の対応(レベルAシミュレーション訓練)」	レベルAのシミュレーション訓練を通し、産科救急時の対応力が身に付き、また他科との連携の強化を図る	年2回	30名
132	助産師・看護師研修「産後の過多出血(PPH)と産科危機的出血の対応」	産後の出血にどのように対応すべきかALSOで提供される手技をベースにシミュレーション訓練を行い学習	年1回	10名
133	助産師・看護師研修「出生前診断と遺伝カウンセリング」	出生前診断、遺伝カウンセリングの基礎知識と特殊性、産科スタッフに求められることなどを学ぶ	年1回	10名

134	WIND第6回新生児蘇生法「専門」コース講習会	新任及び異動者対象に講習を多ない部署の全員が資格を持つ	年1回	20人
135	北海道大学病院周産母子センター第11回新生児蘇生法「一次」コース講習会	新任及び異動者対象に講習を多ない部署の全員が資格を持つ	年1回	8人
136	新生児の全身管理とフィジカルアセスメント&ケア	新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識について学び日ごろのケアにいかす	年1回	20人
137	放射線障害防止のための教育訓練(臨時)	放射線同位元素等の安全な取り扱い・防護の実際を学ぶ	年2回	約300名
138	歯科衛生士研修会	重度歯周病について理解を深める	平成28年10月31日	13名
139	看護師心電図勉強会(8-2)	看護師の心電図モニターの理解のため	年5回	延べ50名
140	臨床試験「JANP study」概要説明会(8-2)	臨床試験の概要、手順などの共有	年1回	延べ30名
141	縫合結紮を動物の組織を用いておこなうまた、ドライボックスを用いて内視鏡下に縫合結紮のトレーニングをおこなう内視鏡外科のシュミレーターを用いて手術手技の理解する	縫合手技のレベルアップ、内視鏡外科手技の向上	年2回	延べ45名
142	大動物を用いた内視鏡外科手術のトレーニングをおこなう際に麻酔をかけ人間と同じ腹腔鏡機器を用いて実際の手術に見立てて手技の確立を目標とする	縫合手技のレベルアップ、内視鏡外科手技の向上	年3回	延べ30名
143	インスリン安全管理講習会「平成28年度のインシデントを振り返って」	インスリン治療の安全性とインシデントの理解を深める	年1回	約100名
144	平成28年度 静脈注射エキスパートナース認定研修	静脈注射に対する理解を含める	年1回	37名
145	糖尿病治療薬安全管理講習会	糖尿病治療薬に関する理解を深める	年1回	約100人
146	病棟ガイダンス	チーム医療の重要性、病棟業務のガイダンス	年1回	約40名
147	平成28年度 病理診断科/病理部オリエンテーション	病理診断における感染症対策、医療安全管理に関する研修	年1回	26名
148	平成28年度 北海道大学病院 病理部/病理診断科主催 病理細胞診講演会	新WHO分類における肺癌細胞診のアルゴリズムについて学ぶ	年1回	30名
149	平成28年度 第1回北海道大学病院新規採用者多職種合同研修-コミュニケーション研修-	職種間連携の必要を理解し、組織の一員である威力職者として責任ある行動がとれる	年1回	219名
150	平成28年度 第2回北海道大学病院新規採用者多職種合同研修-リスクマネジメント研修 I-	1. 医療プロフェッショナルズにおけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2. インフォームドコンセントについて職種間の相互理解を深める 3. 円滑なコミュニケーションによる患者安全推進の必要性を理解する	年1回	209名
152	平成28年度 北海道大学病院新規採用者多職種合同研修-臨床倫理-	1. 臨床において遭遇する倫理的問題に気づく 2. 臨床倫理の専門家の講義を聴き、対象者の意思決定支援を行う重要性を理解する	年1回	190名
154	北大病院PET薬製造施設 教育プログラム	北大病院PET薬製造施設 職員に対する定期教育	年2回	延べ50名
155	心臓リハビリテーション急変時シミュレーション	患者急変時の対応訓練のため	年1回	延べ約30名
156	循環器内科病棟急変シミュレーション	患者急変時の対応訓練のため	年4回	延べ約20名

2 業務の管理に関する研修の実施状況

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名	目 的 等		
1	看護師長研修	看護管理者として人材育成のための管理能力の向上を図る	年3回	39名
2	看護師長オリエンテーション	看護師長の役割が理解できる	年1回	3名
3	新副看護師長オリエンテーション	副看護師長の役割が理解できる	年1回	4名
4	副看護師長研修	副看護師長の役割を理解し、看護管理者能力を高める	年3回	79名
5	新任看護師長研修	看護師長の役割が理解できる	年2回	4名
6	オリエンテーション、院内ネットワーク、患者接遇、医療安全・感染制御の概要説明	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	約50名
7	がん治療の周術期管理	がん治療化学療法前の口腔管理を目的とした治療及び治療計画の作成(チーム医療含む)等理解を深める	年1回	約20名

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別		1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名		病院長 寶金 清博	
管理担当者氏名		総務課長 医事課長 医療支援課長 薬剤部長	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・病院日誌は総務課にて保管管理。 ・診療録を病院外に持ち出す際の取扱いについては、「北海道大学病院における個人情報管理に関するガイドライン」を定め、個人が特定できる情報については、個人情報保護管理区域外への一切の持出しを禁止し、相当程度に個人の特定が困難な情報については、保護管理者への届出を行った上でパスワードロックを用いた媒体でのみ持ち出しを許可している。 ・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。 ・平成22年に電子カルテを導入し、それ以前の紙カルテについては、10年間の保存期間を設けて診療録管理室にて保管している。また、紙媒体で生成される説明承諾書等については、スキャニングして電子カルテに取込み、かつ、原本も保管している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録管理室	
		看護記録	診療録管理室	
		検査所見記録	診療録管理室	
		エックス線写真	診療録管理室	
		紹介状	診療録管理室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	医療支援課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療支援課
		職員研修の実施状況	医療支援課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 阿部 康成、経営企画課長 西村 敏信	
閲覧担当者氏名	総務係長 伊東 武志、分析企画係長 石川 裕司	
閲覧の求めに応じる場所	総務課事務室、経営企画課事務室	
閲覧の手続の概要		
利用者は必要に応じ、文書により閲覧責任者に閲覧を申し出、閲覧担当者は閲覧に応じる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 本院の医療安全管理に関する基本的な考え方2. 医療に係る安全管理のための委員会等に関する組織の基本的事項3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本的事項4. 医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者間の情報の共有に関する基本方針7. 患者等からの相談に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (☑・無)・ 開催状況：年 13 回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療事故等防止対策の検討及び推進に関すること2. 医療事故等の対応及び原因究明に関すること3. 医事紛争の対応等に関すること4. 医療事故等の情報収集及び分析に関すること5. 医療事故等防止に関する職員の教育・研修に関すること6. その他医療事故等に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全に関する講演会「2015 年度のインシデントを振り返って」 × 3 回2. 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」3. 医療安全に関する講演会「悪い知らせの伝え方～医療現場におけるコミュニケーションスキルについて～」4. 医療安全に関する講演会「子ども虐待への医療の対応－その予防から自立支援まで～改正児童福祉法の理念を踏まえて～」5. 医療安全に関する講演会「現場の保全・事実経過の記録」6. 医療安全に関する講演会「医療事故調査制度～施行後 1 年を経過して～」 × 2 回7. 医療安全の日講演会「安全対策の落とし穴～思い込みに潜む罠～」8. 医療安全に関する講演会「医療安全推進－医薬品の安全対策業務－」9. 医療安全に関する講演会「平成 28 年度 歯科インシデントより」10. 医療安全に関する講演会「チームワークが医療を救う！－医療現場・家庭両立の視点から－」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

1. 報告書に伴う問題点の把握方法 (各部署、安全管理部門の問題点の認識)
インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応 (職員への周知と再発防止)
 - 1) 専任リスクマネジャー (GRM) が当該リスクマネジャー (RM) へ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合は、当該RMとの検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議し対応している。
 - 2) レベル3 bの有害事象の場合は、当該部署のRMに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について、事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。
 - 3) レベル4、5の有害事象は、GRMが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該RM・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。GRMが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とRMにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策特別部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。
2. 問題点の分析方法 (各部署、安全管理部門の問題点の分析方法)
 - 1) 必要な事例については、専門分野の医員を指名し、WG、院内医療事故検討会を設置し、原因分析・再発防止策を作成する。
 - 2) 医療事故等調査・分析専門委員会において、3 a以上の報告については、月ごとにレベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行っている。
 - 3) レベル3 b以上の報告は、毎週月曜日に報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。
3. 改善策の検討方法
 - 1) 報告の全体的分析は、毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況・場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全に関する報告集計」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し、周知を図っている。
 - 2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署RM等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。
 - 3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システム改善・教育体制などの企画を検討している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊟・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容： 当院の北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。1 院内感染対策に関する基本的な考え方2 院内感染対策に関する管理組織機構<ul style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策委員会(2) 院内感染対策特別部会(3) 感染制御部(4) 感染防止対策チーム(5) 感染対策マネージャー連絡会議3 職員研修に関する基本方針4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針6 患者等への情報提供と説明に関する基本方針7 その他院内感染対策の推進のために基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止対策の検討及び推進・ 院内感染防止の対応及び原因究明・ 院内感染等の情報収集及び分析・ 院内感染防止等に関する職員の教育・研修	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医科研修医オリエンテーション「感染対策研修」× 2 回・ 歯科研修医オリエンテーション「院内感染予防対策(総論・各論)」・ 医事課クラーク事務補助研修「感染制御の基本と 北大病院の感染管理」・ 10月医事課所属事務補助員研修「院内感染対策」・ 新任事務職員研修「病院事務職員の 感染対策」・ 新規感染対策マネージャー講習会「感染対策マネージャーの役割」× 2 回・ (通算67回)院内感染対策講演会(医療安全管理部と共催)× 3 回<ul style="list-style-type: none">「2015年度のインシデントを振り返って」「2015年度の感染症とその対策を振り返って」・ 専門領域別看護師研修会「標準予防策について」・ " " "感染経路別予防策"× 2 回・ " " "血管内留置カテーテル管理"「尿道留置カテーテル管理」・ 食中毒防止講習会(栄養管理部・外注職員)「食中毒予防講習」・ 異動後医師研修「北大病院の感染制御」× 2 回・ (通算68回)医療安全管理部・感染制御部合同講演会<ul style="list-style-type: none">「現場の保全・事実経過の記録」「Bacillus cereus菌血症とその対策」・ (通算69回)感染対策講演会「感染性胃腸炎とインフルエンザについて」・ 職場復帰プログラム(看護師)<ul style="list-style-type: none">平成29年度復帰者復帰直前講習『感染対策の実際と最新情報』・ 院内学級感染対策講習会「院内感染予防」実習「手洗い」× 3 回・ DVD研修・ eラーニング<ul style="list-style-type: none">「ノロウイルス胃腸炎対策」「微生物培養検査の検体採取方法」「インフルエンザ」「標準予防策」・ 部署内研修	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (・無)
 - ・ 「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、保健所や大学内の報告に係る基準及び方法等について整備済みである。(平成23年6月17日医政指発第1号に基づき、平成23年8月25日病院執行会議において承認)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。
 - ・ 耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
 - ・ 感染防止対策加算1を算定する医療機関として、同じく加算1を算定する医療機関との相互評価及び加算2を算定する医療機関との合同カンファレンスの開催等により道内の医療機関との連携を図っている。
 - ・ 平成24年4月から、感染制御部専任の医師(医員)1名を新たに配置した。
 - ・ 感染制御部専任の事務補佐員(非常勤職員)1名を継続して配置し、平成24年7月から、事務職員(常勤職員)1名を配置した。
 - ・ 平成28年11月から、感染制御部専従の看護師1名を新たに配属した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 10 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 研修医オリエンテーション「処方全般」 開催回数：3回（2016年4月6日、7日、8日）、対象：医師、歯科医師2. 医薬品に関する講習会「インスリンに関する講習会」 開催回数：1回（2016年7月8日）、対象：全職種3. 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 開催回数：2回（2016年8月24日、8月31日）、対象：看護師4. 異動後医師研修「危険性の高い薬剤の取り扱い」 開催回数：2回（2016年6月15日、12月8日）、対象：医師5. 医薬品に関する講習会「医療安全推進 - 医薬品の安全対策業務 -」 開催回数：1回（2017年2月23日）、対象：全職種6. 糖尿病に関する講習会 開催回数：1回（2016年8月24日）、対象：全職種	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (㊟・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全使用に関する手順書</p> <ol style="list-style-type: none">1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト<ol style="list-style-type: none">(1) 特に安全管理が必要なリスト(2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬(3) 誤認に注意薬剤2) 指示・伝達ルール<ol style="list-style-type: none">(1) 指示・伝達ルール(2) 口頭指示は原則禁止3) 内服薬に関する管理基準<ol style="list-style-type: none">(1) 内服薬管理基準(2) 薬剤管理指導業務手順書(3) 入院患者の持参薬確認業務手順書(4) 誤調剤に対する調剤室対応手順4) 注射薬に関する管理基準<ol style="list-style-type: none">(1) 注射業務管理基準(2) 注射薬混合調製（ミキシング）手順書5) 危険性の高い薬剤に関する手順書<ol style="list-style-type: none">(1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書(2) 注射用抗生物質製剤等によるショック等に対する安全対策(3) 抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および処置・手術時の対応(4) ビグアナイド系糖尿病薬服薬中のヨード造影剤使用の検査について6) 抗がん薬に関する手順書<ol style="list-style-type: none">(1) 院内がん化学療法要項(2) がん化学療法実施運用手順書(3) 抗がん薬の投与に関する手順書(4) 抗がん薬被爆防止に関するマニュアル(5) 院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め(6) 血管外漏出およびアレルギー反応発生時の対応について7) 医療安全情報管理<ol style="list-style-type: none">(1) 医療安全性情報管理体制	

<p>(2) 薬剤部における医薬品情報管理マニュアル</p> <p>8) 医薬品管理</p> <p>(1) 病棟における注射剤管理業務手順書</p> <p>(2) 病棟における薬剤師業務基準</p> <p>(3) 麻薬管理取扱い手順</p> <p>9) インスリン療法マニュアル</p> <p>(1) インスリン療法マニュアル</p> <p>(2) インスリンラインナップ</p> <p>(3) 各製剤の使い方</p> <p>(4) 参考資料</p> <p>10) 医薬品の採用に関する手順書</p> <p>11) 他施設との連携に関する手順書</p>
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の情報管理体制として、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として、医薬品医療機器総合機構（PMDA）からの医療安全情報は「PMDA医療安全情報」「緊急安全性情報」「安全性速報」「PMDAから医薬品適正使用のお願い」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。 ・ 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。 ・ 未承認薬に関して、未承認新規医薬品等管理部」を設け、当院で使用したことのない医薬品または高度管理医療機器であって「医薬品医療機器法」による承認または認証を受けていないものの提供に関する申請の受理および提供の可否について審査する体制としている。 ・ 適応外使用に関しては、従来より薬剤部においては調剤時に確認・記録を実施しているまた、医薬品適応外使用（禁忌含む）の把握と申請の徹底を図るため、ならびに医薬品適正使用に関するワーキンググループが適応外使用等の申請窓口となり、その申請状況を医薬品安全管理体制専門委員会に諮ることとなっている。また、薬剤部においては適応外ならびに禁忌薬使用状況を疑義照会履歴等で定期的に同委員会に報告し、問題がある場合は適宜、委員会から指導を行う体制としている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 7 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 人工心肺装置・大動脈内バルーンポンプ装置・経皮的心肺補助装置 計 9 回実施 (2016/5/9、6/27、9/16、10/13、10/31、11/18、2017/1/30 x 2 回、2/6)</p> <p>2. 人工呼吸装置 計 22 回実施 (2016/5/2、6/10、6/13、6/24、7/25、8/15、8/18、8/26、8/27、8/28、9/5、9/12、9/26、10/17、12/2、12/10、12/11、12/26、1/17、1/18、1/25、3/13)</p> <p>3. 人工呼吸器安全管理講習会 院内ワーキング認定試験の講習として基礎課程3回を2クール計6回</p> <p>4. 血液浄化装置 計 4 回実施 (2016/6/6、6/21、8/29、10/6)</p> <p>5. 除細動器・自動体外式除細動器 (AED) 計 3 回実施 (2016/4/12、7/19、2017/1/6)</p> <p>6. 閉鎖式保育器 計 2 回実施 (2016/4/12、10/13)</p> <p>7. 輸液ポンプ・シリンジポンプ 計 2 回実施 (2016/6/2、6/9)</p> <p>8. その他の医療機器 計 13 回実施 (2016/6/6、8/22 x 2 回、11/14、2017/1/16、1/23、2/10 x 2 回、2/23、2/27、3/2、3/6、3/30) (1-8の研修で計61回延べ人数720人の参加)</p> <p>9. 診療用高エネルギー放射線発生装置 計 11 回実施 (2016/4/25、6/6、7/4、8/8、9/12、10/17、11/21、12/19、2017/1/30、2/20、3/13)</p> <p>10. 診療用放射線照射装置 (2016/11/10)</p> <p>11. 陽子線治療装置 (2016/11/2)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>電子カルテ内の「医療機器管理」システムを活用し、医療機器の種類と機種ごとに保守点検計画の策定、実施、及び、実施の確認をしている。</p> <p>【中央管理機器】 ME 機器管理センターでの ME 機器使用後の終業点検、機器の特性に応じた計画的 1～12 ヶ月点検、定期点検の実施。不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。</p> <p>【放射線部管理機器】 放射線治療機器における、①始業点検、②2 回/月以上の出力線量測定、③3 ヶ月及び 6 ヶ月毎に放射線特性及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。他に製造メーカーと保守契約を結び年間 4 回の定期メンテナンスを実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集	

その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
医療機器の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備。
それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として電子メールで診療科・中央診療部門に提供。
関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。
ME機器管理センターからMEセンターニュースとして医療機器の特性や情報を全診療科、全病棟、外来、中央管理部門へ提供。
汎用性のある医療機器のマニュアルを電子カルテに表示。
医療機器を管理するための北海道大学病院の医療機器管理体制を明文化。
使用頻度の高い医療機器についてeラーニングシステムを構築。
医療機器の添付文書、取扱説明書などの容易なアクセスが実施できるよう電子カルテ上でのデータベース構築を推進。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成 28 年 10 月 1 日付けで、病院長補佐 (医療安全担当) を増設し、医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (3 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬に関して、医薬品完全管理体制専門委員会の適正使用ワーキングにおいて確認し、適応外使用に関しては、医療機器安全管理体制専門委員会において確認している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長 (薬剤師)) (所属：薬剤部、職種 室長 (薬剤師))</p> <p>(所属：薬剤部、職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセントについては、院内マニュアルに沿って実施し、診療録管理室が現状のモニタリングを行い、指導等を行っている。</p> <p>また、説明する機会も増えていることから、関連部門 (各診療科・看護部) ・医療安全管理部と協議してマニュアルの改正等 (要項を含む) があれば、職員に周知する。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>インフォームド・コンセントは、説明内容を診療録に記載する等、診療録と密接な関係にあるため診療録管理室長を責任者として配置した。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（2）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（ ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故及びインシデント報告の受理及び分析に関すること。 2. 医療安全管理委員会の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 3. リスクマネジャー連絡会議の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他リスクマネジャー連絡会議の庶務に関すること。 4. 医療安全に関する教育及び研修に関すること。 5. 医療現場からの医療事故等の相談に関すること。 6. 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載内容の確認及び必要な指導に関すること。 7. 医療事故等の発生時における患者又はその家族への対応状況の確認及び必要な指導に関すること。 8. 医療事故等に対する原因究明の実施状況確認及び必要な指導に関すること。 9. 医療安全に係る連絡調整に関すること。 10. その他医療安全対策の推進に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (・無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)
- ・活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術の提供に関する実施申請の受理及び提供の可否について審査すること。
 2. 高難度新規医療技術の実施における手順等の遵守状況の確認に関すること。
 3. その他高難度新規医療技術に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・無)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)
- ・活動の主な内容：
 1. 未承認新規医薬品等の提供に関する申請の受理及び提供の可否について審査すること。
 2. 未承認新規医薬品等の提供に関する実施状況の確認に関すること。
 3. その他未承認新規医薬品等に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・無)

⑨ 監査委員会の設置状況

・無

- ・監査委員会の開催状況：年0回（平成29年度から開催予定）
- ・活動の主な内容：
 1. 北海道大学病院の医療に係る安全管理の業務執行の状況について、北海道大学病院長等から報告を求め、又は必要に応じて確認を実施すること。
 2. 病院の医療に係る安全管理について、北海道大学総長及び病院長に報告し、必要に応じて是正措置を講じるよう意見を述べること。
 3. 前2号に掲げる業務について、その結果を公表すること。
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・)
- ・委員名簿の公表の有無 (有 ・) (平成29年度公表予定)
- ・委員の選定理由の公表の有無 (有 ・)

・公表の方法：本学ホームページ（平成 29 年度公表予定）

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大島 寿美子	北星学園大学		医師・患者関係に 精通	有・ <input type="checkbox"/>	2
加藤 紘之	斗南病院		医療安全に精通	有・ <input type="checkbox"/>	1
土橋 和文	札幌医科大学		医療安全に精通	有・ <input type="checkbox"/>	1
中村 隆	札幌総合法律 事務所	○	法律に精通	有・ <input type="checkbox"/>	1
生駒 一憲	北海道大学病 院		医療を提供する 者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年120件（10月～3月）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年65件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 医療事故等防止対策の検討及び推進に関すること。
 2. 医療事故等の対応及び原因究明に関すること。
 3. 医事紛争の対応に関すること。
 4. 医療事故等の情報収集及び分析に関すること。
 5. 医療事故等防止に関する職員の教育・研修に関すること。
 6. その他医療事故等に関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：鹿児島大学病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：信州大学医学部附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談室を設置し、医療支援課が対応している。医療支援課長が室長となり、業務を総括している。窓口の周知方法は、外来ホールにポスターを掲示し周知している。なお、医療安全に係る情報は、GRMIに連絡し、調査を行う。また、医療支援課と患者相談窓口・医療安全管理部合同会議を月1回開催し、情報を共有している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（・無）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全に関する講演会「2015年度のインシデントを振り返って」

× 3回

2. 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」

3. 医療安全に関する講演会「悪い知らせの伝え方～医療現場におけるコミュニケーションスキルについて～」

4. 医療安全に関する講演会「子ども虐待への医療の対応～その予防から自立支援まで～改正児童福祉法の理念を踏まえて～」

5. 医療安全に関する講演会「現場の保全・事実経過の記録」

6. 医療安全に関する講演会「医療事故調査制度～施行後1年を経過して～」× 2回

7. 医療安全の日講演会「安全対策の落とし穴～思い込みに潜む罠～」

8. 医療安全に関する講演会「医療安全推進～医薬品の安全対策業務～」

9. 医療安全に関する講演会「平成28年度 歯科インシデントより」

10. 医療安全に関する講演会「チームワークが医療を救う！～医療現場・家庭両立の視点から～」

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

厚生労働省でも企画を予定している研修及び国立大学附属病院長会議で予定している研修等を受講予定である。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成26年 1 月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 広報誌及びウェブサイトにて、本院の理念と目標、地域の中核としての役割、先進的な医療に関する情報提供などを行っている。 また、市民公開講座を主催し、地域社会へ医療に関する最新情報の提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科間の連携についてのルールが整備されており、他診療科への受診依頼、依頼先における検査結果等の患者情報が電子カルテを通して共有されている。患者の情報が不足している場合は、補足説明を電話で直接行う等により緊密かつ緊急に連携できる体制を整えている。	

(様式第 8)

海大第 987 号
平成 29 年 10 月 17 日

厚生労働大臣

殿

北海道大学総長 名 和 豊 春 (印)

北海道大学病院の論文発表等の向上に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 論文発表等の実績

英語による発表論文数	355件
------------	------

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資すると判断されるものの数を記入すること。

(注) 2 対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る）。

2 論文発表等を向上するための具体的な予定措置

院内各部門に臨床研究マネージャーを配置し、臨床研究の推進と、研究成果の発表の促進について、臨床研究マネージャー連絡会議にて周知している。
--

(様式第8)

海大第988号
平成29年10月17日

厚生労働大臣

殿

北海道大学総長 名和豊春 (印)

北海道大学病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の20第6号口及び第7号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 ④ 論文発表
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第8として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。

(様式第 9)

海大第 989 号
平成 29 年 10 月 17 日

厚生労働大臣

殿

北海道大学総長 名 和 豊 春 (印)

北海道大学病院に関する変更について

標記について、医療法施行令（昭和 23 年政令第 326 号）第 4 条の 3 の規定に基づき、以下のとおり変更があったので届け出ます。

名 称
変更があった事項及びその内容 開設者 変更前：山口佳三

- (注) 1 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。
2 開設者名の記入箇所及び「名称」欄には、変更があった場合は、変更後のものを記入すること。
3 「変更があった事項及びその内容」欄には、変更があった事項を明らかにした上で、その事項についての変更のみを、変更前と変更後の内容を区別して下記により記入すること。
① 開設者の氏名及び名称の変更については、変更前のもののみを記載することとしても差支えない。
② 診療科名の変更の場合は、医療法施行規則第 6 条の 4 に掲げる診療科名をそれ以外の診療科名よりも先に記入し、削除又は追加された診療科名に下線を付すこと。
③ 集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室の構造設備の変更については、承認申請書に記載することとされている事項に係る変更のみを変更前と変更後のそれぞれを区別して記入すること。なお、集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室を有しなくなった場合にはその旨を記載し、固定式の無菌病室や専用の医薬品情報管理室を新たに設けたなどの場合には承認申請書に記載することとされているものと同じ事項について記入すること。
(記載例：50 床増床し、集中治療室にペースメーカーを導入した場合)
病床数
変更前：550 床
変更後：600 床
集中治療室に備える機器
変更前：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置
変更後：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置、ペースメーカー